

混浴温泉世界実行委員会

平成29年度 事業報告書

■ 目次

■ 主催者あいさつ	p2
第1章 はじめに	
1-1. 事業概要	p3
1-2. 運営組織	p4
第2章 開催記録1『ベップ・アート・マンス 2017』	
2-1. 企画概要	p5
2-2. 実施団体・プログラム	p5
2-3. 運営について	p35
2-4. 『ベップ・アート・マンス 2017』意見交換会の開催	p36
2-5. サポートへの評価	p37
2-6. 来場者について	p38
第3章 開催記録2『西野 達 in 別府』	
3-1. 企画概要	p45
3-2. 作品について	p46
3-3. 関連イベント	p50
3-4. 運営について	p52
3-5. 関連展示と地域連携	p54
3-6. 来場者について	p55
第4章 その他の取り組み	
4-1. 情報発信事業	p61
4-2. 定住促進事業	p62
第5章 共通の取り組み	
5-1. 広報活動と開催効果	p65
5-2. 観光消費額	p67
第6章 収支状況	p68
第7章 まとめと課題	p69
第8章 事業評価	
8-1. 評価のフレームワーク	p70
8-2. バランス・スコアカードの再構築	p71
8-3. バランス・スコアカードに基づく2017年度実績の評価	p75
添付資料1 混浴温泉世界実行委員会事業ビジョン & 戦略マップ	
添付資料2 バランス・スコアカード	

「グループ展から個展へ」をキャッチコピーに、1人のアーティストの無限の想像力によって、日常の風景が一変することを目指す『in BEPPU』。2回目となる今年度は、国際的に活躍する西野 達氏を招聘し『西野 達 in 別府』として約2ヶ月間、別府市中心市街地を舞台に開催しました。公共物を仮設物で取り囲み、ホテルの1室のようなプライベート空間を出現させることで知られる西野氏。本展でも油屋熊八像や別府タワーを作品化する大胆なプロジェクトを構想し、4つの大型作品と4つの写真作品を実現しました。これは、氏にとって最大規模の“個展”となり、それぞれの作品は代表作(本人談)として位置づけられることになりました。その結果、平成29年度芸術選奨・文部科学大臣賞(美術部門)を受賞することに繋がりました(受賞対象は『西野 達 in 別府』展ほかの成果)。

越後妻有アートトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭の大きな成果を契機として、全国各地で芸術祭が増え続けている昨今の状況は、文化芸術に携わる者として大きな1歩であると感じています。しかし同時に、仕組み自体がそのまま他所の地域に移植されることも少なからずあり、その地域らしい発展に繋がっているのか、アートでなければならない理由・意義は何なのかということが問われ始めています。芸術祭に出品された作品の内容や質が語られることも、それほど多くありません。芸術祭の主だった評価指標が鑑賞者の数である現状では、より多くのアーティストを招聘することが解決策のように捉えられがちです。もちろんそれは、特に若手にとって発表の機会が増えることではありますが、限られた予算を多くのアーティストに分配するため、作品自体のインパクトの低下に繋がってしまうケースもあります。そのような問題意識の中、予算規模はそれほど変えず、他所とは異なる手法で、1人のアーティストに全てを委ねた成果として本展が評価されたことは、我々にとって大きな喜びです。

『in BEPPU』は、展示作品の質の向上やアーティストの代表作を生むことを目指しており、それは言わば“垂直的”な指向性を持つ事業です。一方、“水平的”な事業として市民文化祭『ベップ・アート・マンス』を位置付けています。平成22年度より継続開催している『ベップ・アート・マンス』は、今年度は93組による107プログラムが、市内59の会場にて実施され、1ヶ月間の会期としては最大規模となりました。これは8年間かけて事業が定着し、多くのプレイヤーが育った成果ではないかと感じています。

これらの事業とともに、別府市の魅力を発信する事業『旅手帖 beppu』Web版の更新や、全国のアーティストやクリエイターに向けた移住・定住意識調査の継続実施、そして新たな評価モデルの造成を昨年度より引き続き行いました。

現在、10月6日(土)～11月25日(日)にかけて開催される『国民文化祭・おおいた2018』に向け、大分県下各地で準備が進められています。従来のアマチュアによる文化芸術の発表会としてだけではなく、“カルチャーツーリズム”という考え方によって、全18市町村で“文化芸術×地域”の融合となる新たな取り組みが展開されます。平成30年度の『in BEPPU』は、大分県全体の核事業としての役割が期待されるでしょう。これまでの取り組みの総決算となるだけでなく、新機軸を打ち出し、次のステージに向けて歩みを進めていきたいと、強い気持ちで臨む所存です。

末尾となりましたが、『西野 達 in 別府』および『ベップ・アート・マンス 2017』の開催に向けご尽力、ご指導をいただいた皆さま、アーティスト西野さま、ご参加いただいた大勢の皆さまに感謝を申しあげ、結びとさせていただきます。

混浴温泉世界実行委員会
総合プロデューサー 山出淳也

1-1. 事業概要

事業概要

当実行委員会は、別府市における文化振興事業などを通じて優れた芸術活動を別府市民に紹介し文化芸術振興を図るとともに、地域活性化を担う人材育成に寄与し、別府市の魅力を全国へ発信させることを目的として事業を行っている。

今年度は〈芸術振興事業〉として『ベップ・アート・マンス』および『in BEPPU』、2つの芸術祭を開催した。

『ベップ・アート・マンス』は、文化や地域活動に対する市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興、活力あふれる地域の実現を目的にする“水平型”の取り組みとして、企画立案から実現に向けたサポート、クリエイティビティの高い人材の育成・支援を行う市民文化祭である。2010年に27団体／43企画(30日間)から始まったこの事業は、8年目となる今年度は93団体／107企画(33日間)が実現した。

その目玉事業として位置づける個展形式の『in BEPPU』は、“垂直型”の事業として、国際的に活躍する1組のアーティストによる、地域性を活かしたアートプロジェクトを毎年秋に実施するもので、2016年度より始動した。今年度は『西野 達 in 別府』として、世界中で公共空間を大胆に変容させるアートプロジェクトを展開し国内外で話題を巻き起こしてきた西野 達氏を招聘し、別府名勝『地獄めぐり』ならぬ『芸術めぐり』をテーマにプロジェクトを展開した。JR別府駅前に設置された、別府の偉人の彫像『油屋熊八像(制作者：辻畑隆子)』や手湯を仮設物で囲んでホテル空間をつくる『油屋ホテル』を始め、鑑賞者は市街地に点在する複数の作品をめぐりながら、町の秘められた魅力と出会う企画となった。

また、地域の魅力を全国に発信するための〈情報発信事業〉では、Webサイト『旅手帖 beppu』および『豆知識 beppu』の継続運営を行い、アーティストやクリエイターの移住・定住モデルの造成を目的とする〈定住促進事業〉では、移住・定住促進の先進的事例であるアメリカの都市ポートランドの視察と、空き家物件を所有する別府市民へのインタビュー調査を行った。

芸術祭 開催クレジット

名称	ベップ・アート・マンス 2017	西野 達 in 別府
日時	2017年11月1日(水)～12月3日(日) (33日間)	2017年10月28日(土)～12月24日(日) (58日間)
会場	別府市内各所	別府市内各所
主催	混浴温泉世界実行委員会	
助成	文化庁(平成29年度 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業)、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)、公益財団法人 福武財団、公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団、一般財団法人 大分放送文化振興財団	
協賛	株式会社 資生堂、全日本空輸 株式会社 株式会社 大分銀行、株式会社 別大興産 鬼塚電気工事 株式会社、JRビルマネジメント 株式会社、大分県立芸術文化短期大学、株式会社 トキハ、ホテルアーサー、株式会社 幸建設 大分ガス 株式会社、大分みらい信用金庫、株式会社 マリーナパレス、公益社団法人 ツーリズムおおいた、別府亀の井ホテル、悠彩の宿 望海 べっふ 野上本館、別府観光開発 株式会社、一般社団法人 別府市観光協会、別府商工会議所、山口産業 株式会社	
協力	アサヒビール 株式会社、九州旅客鉄道 株式会社、別府観光開発 株式会社、株式会社 星野リゾート	
後援	別府市、大分県教育委員会、別府市教育委員会、別府市旅館ホテル組合連合会、公益社団法人 ツーリズムおおいた、別府商工会議所、一般社団法人 別府市観光協会、大分県民芸術文化祭実行委員会、大分県芸術文化振興会議、別府市商店街連合会、別府料飲協同組合、大分合同新聞社、朝日新聞大分総局、毎日新聞社、西日本新聞社、読売新聞西部本社、今日新聞社、共同通信社、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、CTBメディア、ゆふいんラヂオ局、月刊・シティ情報おおいた、ネキスト	

『第33回国民文化祭・おおいた2018』『第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会』プレイベント
大分県平成29年度創造県おおいた推進事業

1-2. 運営組織

実行委員会

2017年9月25日時点

顧問	広瀬勝貞		大分県 知事
	長野恭紘		別府市 市長
	梅野朋子		一般社団法人 別府市観光協会 会長
	西 謙二		別府商工会議所 会頭
委員	西田陽一	実行委員長	別府市旅館ホテル組合連合会 会長
	菅 健一	副実行委員長	NPO法人 別府八湯トラスト 理事長
	高屋 博		大分県 企画振興部 芸術文化スポーツ振興課 課長
	山本章子		大分県 東部振興局 局長
	三浦宏樹		公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 参与
	田北浩司		別府市 観光戦略部 部長
	荒川孝二		公益社団法人 ツーリズムおおいた 事務局長
	渡邊秀一		別府商工会議所 専務理事
	大塚俊夫		別府商工会議所青年部 会長
	児玉 裕		公益社団法人 別府青年会議所 副理事長
	佐藤隆司		一般社団法人 別府市観光協会 事務局長
	尾野文俊		大分経済同友会 常任幹事
	川野雅己		別府市商店街連合会 専務理事
	大蔵開平		別府溝部学園短期大学 教授 兼 広報課長
	田中修二		大分大学 教授
	於保政昭		大分県立芸術文化短期大学 専任講師
	甲斐裕明		九州旅客鉄道 株式会社 別府駅長
	渦古 隆		株式会社 JTB九州 大分支店長
	小野 司		大分合同新聞社 別府支社 支社長
	鶴田 浩一郎		NPO法人 ハットウ・オンパク 代表理事
	甲斐賢一		NPO法人 鉄輪湯けむり倶楽部 代表理事
	山出淳也	総合プロデューサー	NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事
監事	堀 精治		別府市旅館ホテル組合連合会 事務局長
	篠藤明德		別府大学 教授
調整委員会	堀 政博		大分県 企画振興部 芸術文化スポーツ振興課
	小野 紗里以		大分県 東部振興局 地域振興部
	宮崎祐佳		別府市 観光戦略部 文化国際課
	野口一郎		別府商工会議所 観光・事業部長

事務局 NPO法人 BEPPU PROJECT

2-1. 企画概要

『ベップ・アート・マンス』とは、混浴温泉世界実行委員会が主催となり、11月の1ヶ月間、別府市で開催されるさまざまな文化事業を紹介し支援する、登録型のプラットフォーム事業である。2010年から毎年秋に開催し、今年度で8回目の開催であった※。小規模文化団体の育成・支援を目的に、広報協力、事務局業務代行、企画立案から実現に向けたサポートを行うことで、市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興と活力あふれる地域の実現を目指す取り組みである。

※2012年度、2015年度は別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』の開催に合わせて、それぞれ10月6日(土)～12月2日(日)、7月18日(土)～9月27日(日)の約2ヶ月間開催した。

事業の目的は、下記の4つである。

1. 別府市における文化芸術の振興
2. 別府市における文化芸術の鑑賞機会の充実
3. さまざまな芸術表現の発表機会の提供
4. 別府市における集客交流人口の多様化

2-2. 実施団体・プログラム

93団体／個人が107プログラムを登録し、別府市内各所で開催された。

59の会場でプログラムが開催された(うち提供会場8ヶ所)。ただし、開催場所を「別府市内各所」と告知したうえで不特定・複数回開催されたプログラムについては「1ヶ所」とした。

企画者	金平糖企画	
プログラム名	金平糖企画 演劇公演『ニュースペーパー』	
会期	10/28(土)・10/29(日)・11/1(水)	
会場	紙屋温泉 2 階公民館	
料金	前売1,500円 (当日1,800円)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	52名／90名 (58%)	
実施内容	大分県内外で演劇や朗読を行っている金平糖企画の演劇作品を発表。公民館を会場にすることで、観客と役者との距離が近く、作品に引き込まれるように観劇していた。	

企画者	Home Exhibition	
プログラム名	HOME Exhibition 2017 -the Part of Me-	
会期	11/1(水)～11/5(日)	
会場	べっふ駅市場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	400名／600名 (67%)	
実施内容	立命館アジア太平洋大学の学生と教授による作品展示を実施。テーマである『THE PART OF ME (直訳：私の一部)』に沿って、異なる国籍の人々が写真や絵画、詩などさまざまな方法で表現した。	

企画者	炭谷 宇紀子	
プログラム名	STABAT MATER† 朝の天使に捧げる 言の葉の海 音の宇宙 paradisi gloria Amen.	
会期	11/1(水)～14(火)	
会場	トキハ別府店 専門店棟 3階連絡通路そば	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	250名／300名 (83%)	
実施内容	会場に貼り巡らせた和紙に写真や俳句を展示し、瞑想・祈りの小部屋を設置した。期間中、来場者が作品にメッセージを貼ることで完成するインスタレーションも制作。	

企画者	has75.	
プログラム名	ハスナゴのハグネコ	
会期	11/1(水)～30(木) ※毎週月・金曜定休	
会場	べっふ駅市場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	250名／300名 (83%)	
実施内容	ハグができる大きなネコの立体物を展示。猫グッズ・チャリティグッズの販売も行った。期間中、来場者がネコの立体物にハグしている様子を撮影し、その写真をネコの形になるように壁に貼った展示も実施。ネコ好きの方やテレビを観て知った方が多く来場した。	

企画者	別府八湯ウォーク達人ガイド部会	
プログラム名	油屋熊ハウォーク	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	JR別府駅東口前集合	
料金	800円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	70名／150名 (47%)	
実施内容	JR別府駅～亀の井ホテル～流川通り～竹瓦温泉～平野資料館のまちあるきコースを造成し実施。全10回開催し、外国人を含め大分県内外から70名の方が参加した。『西野 達 in 別府』の作品にも立ち寄り、スタンプラリーをしながら楽しく散策した。	

企画者	platform きものかふえ ゑり章	
プログラム名	お着物を楽しみましょう	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	platform きものかふえ ゑり章	
料金	着物体験：1回1,500円、帯むすびレッスン：1回1時間1,000円、お琴ライブ：1,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	32名／30名 (107%)	
実施内容	車イスの方や外国人でも簡単に着ることができるユニバーサルデザインの着物の着用体験を実施。同会場で琴の演奏会も行った。	

企画者	上田 珠真子	
プログラム名	個展『ちよちゃん』	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	そだてるはうす『トキドキエンゼル』	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	20名／30名 (67%)	
実施内容	屋外壁面での映像展示やかぶりものをして町を歩くパフォーマンスを実施。屋外の寒いなかにもかかわらず、じっくり映像を鑑賞する来場者もいた。	

企画者	バクダンおにぎり×SABA	
プログラム名	コミックス&CATS	
会期	11/1(水)～12/3(日) ※11月のみ第１・第３日曜定休	
会場	セカンドハウス縁や ２階	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	100名／100名 (100%)	
実施内容	自作マンガの作品展示 (４点) と、大分・別府各地のノラ猫たちの写真展示 (37点)を実施。	

企画者	Keisuke Itai	
プログラム名	THE 廃苦!	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	よいや	
料金	1ドリンクオーダー必須	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	254名／200名 (127%)	
実施内容	デジタル手書き俳句 (口語自由句) をプリントしたものを展示。パンフレットに載った一句を見て、大分市から駆けつけてくれた来場者もいた。	

企画者	bar Beach	
プログラム名	芝田満之 Salt water sky	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	bar Beach	
料金	エスプレッソ 2 cup+お菓子：500円、beer：800円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	10名／160名 (6%)	
実施内容	2017年にオープンしたばかりのbar Beach店内にて、写真家・芝田満之の写真および映像作品の展示を実施。	

企画者	将棋処と (ときん) &おにぎりかふえ	
プログラム名	将棋は純日本文化 (カルチャー)！	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	将棋処と (ときん) &おにぎりかふえ	
料金	2,000円 (教室料、席料、ランチ付)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	14名／10名 (140%)	
実施内容	参加者の棋力に合わせた将棋の体験教室。体験後は隣のおにぎりかふえでランチ、ドリンクを提供。外国人の来場者もいた。	

企画者	別府八湯語り部の会	
プログラム名	ガイドと歩くノスタルジックな街歩き	
会期	別府街中おもてなしコース：11/2(木)～12/1(金) のうち毎週木・金曜日のみ開催 着物コース：11/4(土)～ 12/2(土)のうち毎週土曜日のみ開催	
会場	JR別府駅構内総合インフォメーションセンター前 出発	
料金	別府街中おもてなしコース：2,000円 着物コース：3,500円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	15名／20名 (75%)	
実施内容	別府街中おもてなしコース：ガイドの案内でアートを楽しみながら、道中のお店でおやつやお茶をいただくまちあるきを実施。 着物コース：着物を着て抹茶 (お菓子付き) をいただいた後に、ガイドと一緒にアートを楽しむまちあるきを実施。	

企画者	ココまる	
プログラム名	パステルアートを描いてみよう!	
会期	展示：11/2(木)～12/3(日) ※毎週月・火曜定休 ワークショップ：11/2(木)・3(金・祝)・23(木・祝)・24(金)	
会場	おにぎりかふえ	
料金	ワークショップ：1,000円+1オーダー必須 鑑賞のみ：1オーダー必須	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	14名／20名 (70%)	
実施内容	パステルアート作品の展示と、体験ワークショップを実施。 パンフレットを見て来た来場者が多く、みんな一生懸命に取り組んでいる様子だった。	

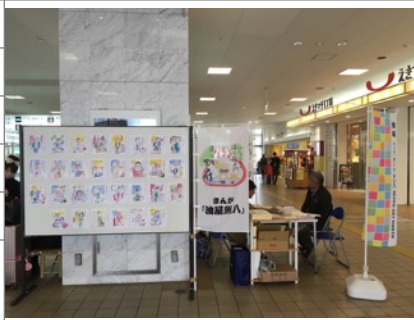
企画者	三代吉彦	
プログラム名	「gray」の肖像	
会期	11/3(金・祝)・4(土)	
会場	えきマチ1丁目別府 コミュニティルーム	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	50名／50名 (100%)	
実施内容	身の回りにある「グレイ」を写真や絵画で表現した作品を展示。駅構内という会場の特性から、たまたま通りがかった来場者が熱心に鑑賞してくれた。	

企画者	Misa bisonte	
プログラム名	個展：マナティと3体の死体	
会期	11/3(金・祝)～11(土) ※11/5(日)定休	
会場	渡邊富商店	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	100名／40名 (250%)	
実施内容	お花屋さんの一角を借りて、水彩画やカリグラフィー作品の個展を実施。プログラム名が目に留まり足を運んだ来場者も多かった。	

企画者	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会	
プログラム名	アートで伝える考える 福島は今、未来 in BEPPU	
会期	11/3(金)～19(日)	
会場	platform05、末広温泉2階公民館、別府市公会堂2・3階ロビー ほか	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	648名／1000名 (65%)	
実施内容	福島県の文化・自然の豊かさと、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故以降に福島がおかれた状況を、アート作品の展示を通じて発信。社会とアートの関わりを考えるトークイベントも開催した。	

企画者	絵本と珈琲。おにぎりかふえ	
プログラム名	絵本の読み聞かせ	
会期	11/3(金)～12/1(金) ※毎週金曜日開催	
会場	おにぎりかふえ	
料金	1 オーダー必須 (250円～)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	30名／30名 (100%)	
実施内容	有志で集まった読み手の選書で読み聞かせを行った。物語に合わせた音楽を流したり、絵本だけでなくエッセイの読み聞かせも行うなど、毎回バラエティに富んだ内容で実施。	

企画者	TEAM 變幻自在	
プログラム名	ひょうげんってなんだ？ 【親子向け】まずはあそんでみるのだ！ 【大人向け】ことばと音と朗読と	
会期	11/4(土)・5(日)	
会場	山田別荘 (客室：明礬)	
料金	親子向け (1組)：1,500円、大人向け：2,500円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	10名／15名 (67%)	
実施内容	表現教育家の『ゆり』を講師に迎え、布を使って自分の好きなものを表現することを楽しむプログラムを実施。その日の来場者の雰囲気にあわせ即興で内容を組み立てた。最初は恥ずかしそうにしていた子どもたちが、だんだんと自ら楽しむ様子が見られた。	

企画者	『まんが油屋熊八』制作推進室	
プログラム名	クニトシロウ作品展&『熊八絵本プロジェクト』	
会期	11/5(日)・12/2(土)・3(日)	
会場	JR別府駅構内	
料金	鑑賞無料、寄付金：1,000円～	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	70名／30名 (233%)	
実施内容	『まんが油屋熊八』の作者・クニトシロウによるイラスト作品の展示と来場者の似顔絵作成を実施した。	

企画者	ヨシマツ チグサ	
プログラム名	増殖する	
会期	11/11(土)～11/30(木) ※毎週日曜定休	
会場	坂本長平商店	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	150名／50名 (300%)	
実施内容	昨年に引き続き、老舗の味噌屋を会場にした展示を実施。公開制作として来場者が残していったさまざまなものをひたすら編み込み巨大化させるインスタレーションも実施。	

企画者	カレーやMOMO	
プログラム名	にゃんとカレーなMOMOの秋まつり	
会期	11/10(金)～20(月) ※11/14(火)・19(日)定休	
会場	カレーやMOMO	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	ハンドメイド作家・Keikoによるネコをモチーフにした絵やオブジェ、グッズの展示を行った。	

企画者	(有) 明石文昭堂	
プログラム名	スクラップブックングで楽しいフォトフレームづくり体験	
会期	11/11(土)	
会場	明石文昭堂 1 階	
料金	500円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	20名／30名 (67%)	
実施内容	ステッカーやスタンプを使いデコレーションして制作するフォトフレームのワークショップを店舗内で実施した。	

企画者	パッケージプラザ都留	(写真なし)
プログラム名	レッツ!!ラッピング	
会期	11/11(土)・18(土)	
会場	株式会社 都留紙器工業所	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	0 名／ 0 名 (0 %)	
実施内容	※企画者の自己都合により、中止。	

企画者	Bill Engebretson	
プログラム名	Beppu Reflections, Too 別府に想いを巡らせて	
会期	11/11(土)～13(月)・16(木)～20(月)	
会場	スパイス食堂クーボノス	
料金	1ドリンクオーダー必須	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	69名／90名 (77%)	
実施内容	別府で生活しながら感じた世界をCG作品やアクリル画、彫刻等で表現した作品を展示した。飲食店の2階を会場にすることで、食事を目的に来店した方にも作品を見てもらうことができた。	

企画者	APU Fashion Week	
プログラム名	AFW Preview Show	
会期	11/12(日)	
会場	トキハ別府店 大屋根の下	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	40名／100名 (40%)	
実施内容	さまざまな国のデザイナーが手掛けた衣装によるファッションショーを開催。地域の方にもモデルとして参加してもらうことで、立命館アジア太平洋大学の特性である多文化的な学生と地域の方との交流の機会になった。	

企画者	菊井 篤	
プログラム名	私のなかの誰かさん	
会期	11/14(火)～12/3(日)	
会場	渡邊富商店	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	70名／10名 (700%)	
実施内容	40×55cmと8×10cmの織物作品 2 点を天井から吊り下げて展示。表裏どちらからでも鑑賞できる展示にしたことで、時間をかけてじっくり見てくれる来場者も多かった。	

企画者	涼芳会	
プログラム名	三味線に触れて楽しむ	
会期	11/15(水)	
会場	蔵ギャラリーしばた	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	30名／10名 (300%)	
実施内容	三味線で長唄、小唄の演奏を披露した。来場者が民謡、唱歌を三味線にあわせて唄ったり、実際に三味線を抱え所作や歴史を学ぶ体験も行った。集中して参加する来場者が多かった。	

企画者	野中たんぼぼ	
プログラム名	あたたかな暮らし・神戸Sheep ship	
会期	11/17(金)～12/17(日)	
会場	たんぼぼりん	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	50名／50名 (100%)	
実施内容	神戸のハンドメイド工房・Sheep shipの20名による手編みやリメイクした小物など、冬に合うあたたかみのある作品の展示を実施した。	

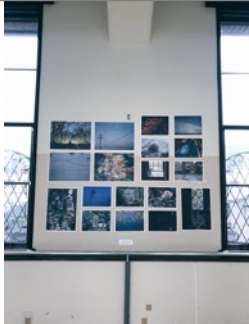
企画者	大分ユネスココース	
プログラム名	世界遺産ゲーム!	
会期	11/18(土)	
会場	えきマチ1丁目別府 コミュニティルーム	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	20名／30名 (67%)	
実施内容	世界遺産の写真展示や子どもから大人まで楽しめるクイズ、塗り絵などを実施した。世界遺産について来場者に知ってもらうきっかけとなった。	

企画者	湯本タマ	
プログラム名	湯本プライベートミュージアム所蔵品展	
会期	11/18(土)・19(日)	
会場	紙屋温泉 2 階公民館	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	15名／20名 (75%)	
実施内容	空き瓶や使い捨て弁当容器などを使ったジャンクアート作品の展示を実施。作品は来場者の手持ちの品物と交換できる。今年で 5 回目の参加となるので、常連客も多く来てもらえた。	

企画者	Yuka (渡邊友香)	
プログラム名	Yuka作品展『胡蝶の夢』	
会期	11/18(土)～23(木・祝)	
会場	platform きものかふえ めり章	
料金	鑑賞無料、ワークショップ：500円～	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	75名／100名 (75%)	
実施内容	蝶や花などをモチーフとした切り絵やミュージシャン・大野タカシとコラボした歌詞を切り絵で表現した作品の展示を実施。切り絵体験のワークショップも実施した。テレビの情報番組でプログラムを紹介され、知ったという来場者もいた。	

企画者	梅本美術研究所	
プログラム名	梅本美術研究所作品展vol. 7	
会期	11/18(土)～26(日)	
会場	トキハ別府店 専門店棟 3階連絡通路そば	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	150名／180名 (83%)	
実施内容	2歳からシニアの方まで幅広い年代の生徒たちによる、今年1年間絵画教室で制作してきた作品の展示を実施。じっくりと鑑賞する来場者が多かった。	

企画者	スペクトラル☆ダンス	
プログラム名	スペクトラル☆ダンス LIVE&体験レッスン会	
会期	LIVE：11/18(土)・19(日)・25(土)・26(日) レッスン会：11/23(木・祝)	
会場	LIVE：トキハ別府店 大屋根の下 レッスン会：野口ふれあい交流センター	
料金	レッスン会：1回：1,500円、2回：2,500円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	60名／56名 (107%)	
実施内容	自分の呼吸やリズムに合わせて踊る『スペクトラルダンス』のライブを1日に2回ずつ開催。体験&レッスン会も実施した。	

企画者	釘宮 梓	
プログラム名	25years	
会期	11/18(土)～26(日)	
会場	別府市南部児童館 2 階	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	84名／25名 (336%)	
実施内容	自身の「好きなこと」をイラスト、写真、文章、映像で表現した作品の展示を実施。文芸作品の販売やお気に入りの書籍、CDなどを並べた本棚の展示も実施。	

企画者	Musical Company	
プログラム名	ミュージカル『レ・ミゼラブル』(英語公演)	
会期	11/18(土)、19(日)、12/2(土)	
会場	トキハ別府店 大屋根の下、APU (立命館アジア太平洋大学) ミレニアムホール	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	180名／165名 (109%)	
実施内容	立命館アジア太平洋大学の学生と別府市民がともに作り上げたミュージカル『レ・ミゼラブル』を英語で公演。1曲1曲に拍手をしてくれる来場者もいた。	

企画者	あかし ももか	
プログラム名	あかし ももかの『大ぶろしきプロジェクト』	
会期	11/19(日)	
会場	えきマチ1丁目別府 コミュニティルーム	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	30名／50名 (60%)	
実施内容	毎時00分に『大風呂敷宣言』と題した歌・踊りのパフォーマンスを披露。希望者には踊りをレクチャーし、一緒に踊った。また、大風呂敷に見立てた唐草模様の芝生の上に寝転んでもらい記念撮影も行った。	

企画者	大塚磊々堂 (おおつからいらいどう)	
プログラム名	すずり屋さんの墨絵展	
会期	11/20(月)～12/3(日)	
会場	大塚磊々堂	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	60名／80名 (75%)	
実施内容	硯の専門店内で、動物をテーマにした墨絵作品と硯の展示を実施。硯のすり比べ体験も行い、普段硯に触れる機会がない来場者には反響も大きく、喜んでもらえた。	

企画者	マイム・マイム	
プログラム名	イスラエルダンス「和」	
会期	11/23(木・祝)	
会場	トキハ別府店 大屋根の下	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	30名／30名 (100%)	
実施内容	マイム・マイムなどのイスラエルダンスを、初めて出会った来場者同士で手をつなぎ踊るワークショップを実施。事前の告知で集まった来場者だけでなく、トキハ別府店の買い物客にも声をかけ、輪は少しずつ大きくなった。	

企画者	めくるプロジェクト	
プログラム名	大喜利地獄	
会期	11/23(木・祝)	
会場	えきマチ1丁目別府 コミュニティルーム	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	25名／50名 (50%)	
実施内容	来場者を選んでもらったキーワードと「地獄」を掛け合わせて想起するイメージを絵に描いてもらうワークショップを実施。描いた絵を壁に貼り、オリジナルの地獄めぐりが完成した。	

企画者	おか かおり	
プログラム名	おか かおり個展	
会期	11/23(木・祝)～12/3(日)	
会場	玉井ビル 3 階	
料金	100円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	100名／100名 (100%)	
実施内容	ビルの 1 フロアを会場に、「記憶」をテーマにした写真を中心とするインスタレーション作品の展示、本の展示・販売を行った。	

企画者	宮本博行	
プログラム名	中事 inside-thing	
会期	11/23(木・祝)～26(日)、12/1(金)～3(日)	
会場	べっふ駅市場	
料金	200円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	77名／200名 (39%)	
実施内容	別府駅高架下のにぎやかな市場の中にある空き店舗を非日常的な展示空間に変貌させ、アート作品を展示した。	

企画者	みんな表現者 織田	
プログラム名	ジャンルを超えた展示会ライブ	
会期	11/24(金)・25(土)	
会場	NPO法人 別府八湯温泉道名人会 2階	
料金	鑑賞無料、ワークショップ：500円 レセプションパーティー：2,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	70名／350名 (20%)	
実施内容	表現者集団『みんな表現者』のメンバーによる絵の展示、ジャズアカペラ&ダンスライブ、ライブペインティングなどそれぞれの個性を活かした表現を披露した。	

企画者	橋本次郎	
プログラム名	サウンド・インスタレーション「別府」	
会期	11/24(金)～26(日)	
会場	旧元町公民館 1 階・温泉跡	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	80名／100名 (80%)	
実施内容	会場である温泉跡で、別府のサウンドスケープ (音風景) をもとに制作したサウンド・インスタレーション作品の展示を実施した。	

企画者	金平糖企画	
プログラム名	戯曲を読む会 (特別篇)	
会期	11/25(土)・26(日)	
会場	紙屋温泉 2 階公民館	
料金	300円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	10名／20名 (50%)	
実施内容	戯曲 (演劇の台本) を声に出して読む会を実施。演劇に興味がある人や声を出すことが好きな来場者が集まり、集中して読んでいる様子だった。	

企画者	日本文理大学 美術部	
プログラム名	日本文理大学 美術部 作品展	
会期	11/25(土)・26(日)	
会場	えきマチ 1 丁目 コミュニティルーム	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	300名／100名 (300%)	
実施内容	絵画作品の展示や書道体験を実施した。駅構内を会場にすることで、日頃の活動の成果を学外の方に見てもらうことができた。	

企画者	池田 ひとみ	
プログラム名	編んだものたち	
会期	11/25(土)～30(木) ※11/28(火)定休	
会場	喫茶ムムム	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	30名／30名 (100%)	
実施内容	図鑑や標本の植物、昆虫などの「生きもの」を編むことをテーマにした作品展示と販売を実施。	

企画者	かわくぼ みちこ	
プログラム名	かわくぼ みちこ 大分方言de書 ver. 2	
会期	11/25(土)～12/1(金)	
会場	蔵ギャラリーしばた	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	70名／100名 (70%)	
実施内容	大分の方が持つリズムカルな面白さや、かわいらしさを表現した書と絵の展示を実施。	

企画者	ゆうひオレンジ	
プログラム名	絵本 with ピアノ 『えほん えいが』	
会期	11/26(日)	
会場	野口ふれあい交流センター	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	25名／10名 (250%)	
実施内容	絵本をプロジェクターで投影し、ピアノの生演奏をBGMに読み聞かせを行った。子どもだけでなく大人の方までさまざまな年代の来場者に見てもらえた。	

企画者	てんてん	
プログラム名	漫天2	
会期	11/26(日)	
会場	JR別府駅北高架商店街	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	20名／30名 (67%)	
実施内容	別府駅の高架下でプロ・アマ問わず漫画好きが制作した同人誌の展示即売会を実施。	

企画者	Dorian Ford	
プログラム名	To The Surface	
会期	11/27(月)～29(水)	
会場	別府ブルーバード会館 3 階 フレックスホール	
料金	2,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	18名／120名 (15%)	
実施内容	ビデオのプロジェクションと音楽の即興生演奏 (ピアノ、ベース、最終日のみドラムあり) を実施。	

企画者	大分県 日田はぎの園	
プログラム名	はじめまして	
会期	11/27(月)～12/3(日)	
会場	トキハ別府店 専門店棟3階連絡通路そば	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	200名／250名 (80%)	
実施内容	入所型の障がい者支援施設で創作された絵画、書道、陶芸作品の展示を実施。	

企画者	ニル ランナラ マルティ	
プログラム名	APUINA arts	
会期	12/2(土)・3(日)	
会場	トキハ別府店 大屋根の下	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	150名／200名 (75%)	
実施内容	立命館アジア太平洋大学のサークル『インドネシア会』のメンバーによる写真の展示とダンスパフォーマンスを実施。トキハ別府店の入口がふさがりそうなほど多くの来場者が集まった。	

企画者	アートパイレーツ	
プログラム名	エムエム大分 アートパイレーツのオールナイト 生一本 公開収録!	
会期	12/3(日)	
会場	生一本 本店	
料金	3,000円程度	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	10名／3名 (333%)	
実施内容	不定期配信するポッドキャストのプログラムとして居酒屋を会場に公開収録を行った。 「初めてのアート体験」、「ベップ・アート・マンスについて」をテーマに語り合った。	

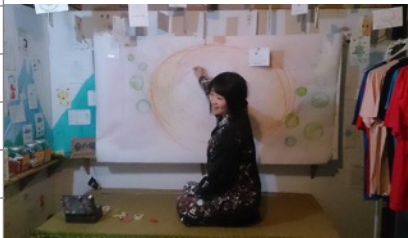
企画者	清島アパート入居者	
プログラム名	清島オープンアパート 2017	
会期	11/1(水)～12/3(日)の毎週金・土・日・祝日のみ開催	
会場	清島アパート	
料金	100円 (清島アパートの入場料)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	211名／350名 (60%)	
実施内容	清島アパートのアーティストのアトリエ公開。さまざまなジャンルの作品や制作現場を見てもらうことができた。	

企画者	清島アパート入居者	
プログラム名	こんばんは、清島アパートです。	
会期	毎週金曜日	
会場	清島アパート	
料金	100円 (清島アパートの入場料)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	211名／350名 (60%)	
実施内容	毎週金曜日、入居者によるトークイベントやワークショップなどのイベントを実施。	

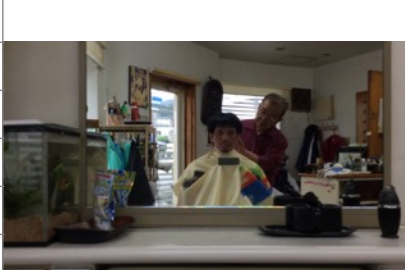
企画者	アートホーリーメン	
プログラム名	ANIMI-ZOOM Paintings	
会期	11/1(水)～12/3(日)の毎週金・土・日・祝日のみ開催	
会場	清島アパート	
料金	100円 (清島アパートの入場料)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	211名／350名 (60%)	
実施内容	爆煙、湯煙、花、蟻螂 (とうろう) など神羅万象をテーマにパネルに描いた作品の展示を行った。	

企画者	安部寿紗	
プログラム名	個展「Blind passion」	
会期	11/10(金)～12/3(日)の毎週金・土・日・祝日のみ開催	
会場	清島アパート	
料金	100円 (清島アパートの入場料)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	211名／350名 (60%)	
実施内容	明治時代に出版された『宗門無尽灯論』を解体し、線香の火でお米粒の形に焼いて穴を開けたインスタレーション作品の展示を行った。期間中『おこめうり』パフォーマンスも不定期に実施。	

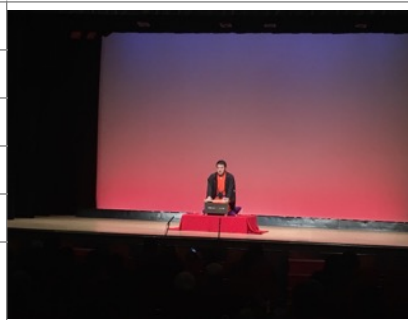
企画者	寺澤佑那	
プログラム名	ままごとサンプリング	
会期	11/1(水)～12/3(日)の毎週金・土・日・祝日のみ開催	
会場	清島アパート	
料金	100円 (清島アパートの入場料)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	211名／350名 (60%)	
実施内容	別府の特異な環境や営みの中で考案された「開拓精神に満ちたシステム」を仮に『ままごと』と名付け、収集した映像作品を上映した。	

企画者	大平 由香理	
プログラム名	末広温泉ギャラリー	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	末広温泉	
料金	温泉利用にて鑑賞	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	120名／100名 (120%)	
実施内容	末広温泉脱衣所および番台内にさりげなく作品を展示。期間中、清島アパート内でライブペインティングも実施した。	

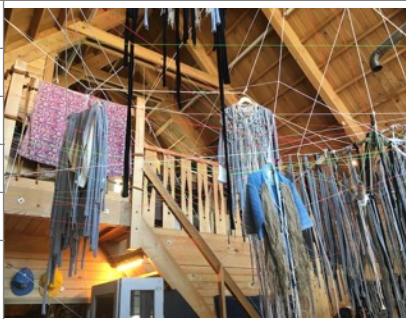
企画者	小野峰靖	
プログラム名	無題	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	空き地	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	不明	
実施内容	空き地で、鏡と写真を使ったインスタレーション作品の展示を実施。	

企画者	飯島剛哉	
プログラム名	別府床屋マップ	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	床屋各所	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	不明	
実施内容	床屋の店舗数日本一の大大分県で、別府市内にも数多くある床屋に行き散髪をし、その様子を動画に記録するプロジェクトを実施。	

企画者	旅する服屋さん メイドイン	
プログラム名	湯遍路街道 温泉染の旅 Vol. 2	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	別府市内各所	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	不明	
実施内容	別府の至る所から溢れ流れ行く温泉を使って、染めるという行為を行い、Facebook上で報告するプロジェクトを実施した。	

企画者	月亭太遊	
プログラム名	ネオラクゴ・ストラグル／フロムヘル	
会期	11/29(水)	
会場	別府市公会堂 大ホール	
料金	前売2,000円 (当日2,500円)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	410名／700名 (59%)	
実施内容	新作ネオラクゴ (落語形態の自作のパフォーマンス) のネタおろしを披露。期間中は毎日、市内各所で落語会を開催した。	

企画者	フレッシュコンサート実行委員会	
プログラム名	フィンランドからのおくりもの～歌とピアノとお話と～	
会期	11/1(水)	
会場	別府市公会堂 大ホール	
料金	2,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	101名／200名 (51%)	
実施内容	フィンランドの作曲家シベリウスをはじめとするフィンランド音楽のピアノ曲や歌曲を演奏する音楽会を実施。音楽、詩、歴史などを交えてフィンランドの文化に、楽しく触れてもらえた。	

企画者	TONTONTONTUTU	
プログラム名	TONTONTONTUTU	
会期	11/1(水)～12/3(日) ※火曜定休	
会場	TONTONTONTUTU	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	52名／100名 (52%)	
実施内容	普段は洋服屋兼BARとして営業している店で、布や紐などを使って店内中に張り巡らせたアート作品の展示を行った。	

企画者	クラフト Cafe-Curafty (クラフティ)	
プログラム名	『猫のアトリエ Part3』 & 『ローズマーケット』	
会期	11/2(木)～12/3(日) ※月・火・水曜定休	
会場	クラフトCafe-Curafty (クラフティ)	
料金	1,000円程度	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	10名／300名 (3%)	
実施内容	ハンドメイド作家による、ネコやバラをテーマにした雑貨や食器などの作品の展示、販売を実施。	

企画者	万有引力	
プログラム名	万有引力の法則	
会期	11/4(土)・19(日)・12/2(土)	
会場	TONTONTONTUTU	
料金	3,000円 (ドリンク込)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	2名／20名 (10%)	
実施内容	世界中で集めたパーツを使ったアクセサリ作りのワークショップを実施。各々好きなパーツを選び、ピアスとネックレスを楽しみながら制作した。	

企画者	吉森悦治	
プログラム名	はじめまして吉森です! ～新しいお家での作品展～	
会期	11/8(水)～14(火)	
会場	吉森自宅	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	32名／50名 (64%)	
実施内容	引っ越したばかりの自宅の和室で陶芸作品を展示。近所の方6名が初めて自宅に訪れ作品を鑑賞してもらい、自身を知ってもらうきっかけにもなった。	

企画者	Mau oli oli 小野	
プログラム名	Enjoy Hula in 別府 VIII	
会期	11/11(土)	
会場	別府市公会堂 大ホール	
料金	プログラム代：300円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	207名／200名 (104%)	
実施内容	フラダンスとハワイアンバンドの演奏を披露した。県外から観光を兼ねて参加するフラメンバーも多く、大盛況に終わった。	

企画者	秋光伸次	
プログラム名	伊太利亜食堂プレゼンツ『ベップ・アート・マンズ』市民ミュージカル	
会期	11/12(日)	
会場	別府市公会堂 大ホール	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	350名／470名 (74%)	
実施内容	立命館アジア太平洋大学のミュージカルサークル『劇団絆』、大分市と別府市を拠点に活動するミュージカル教室『大分ミュージカルアカデミー』を中心に別府市民を交えた形でのミュージカルコンサートを実施。	

企画者	湯あたり計画委員会	
プログラム名	リメイクバック・小物を作ろう	
会期	11/12(日)	
会場	TONTONTONTUTU	
料金	2,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	2名／6名 (33%)	
実施内容	着なくなった服や愛着はあるが使い道が見つからない布などを使い、バッグや小物にリメイクするワークショップを実施。	

企画者	津田憲吾／イノウエ サトル／小島雅子	
プログラム名	或る家の話	
会期	11/20(月)～26(日)	
会場	YASURAFU	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	52名／70名 (74%)	
実施内容	とある「家」をテーマに写真と書のインスタレーションを実施した。	

企画者	幻視者の集い	
プログラム名	別府大分芸術祭	
会期	11/24(金)～12/3(日)	
会場	別府市公会堂、書肆ゲンシヤ	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	753名／1000名 (75%)	
実施内容	普段、県外で発表する機会が多い県内在住のアーティストである新宅和音、塚崎司孔、坂口愛子、龍國 竣による絵画や写真などの作品展示を行った。	

企画者	ギャラリー別資	
プログラム名	ギャラリー別資 杉田廣貴展『つながり』	
会期	11/25(土)～12/3(日)	
会場	ギャラリー別資 (べっぴん)	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	50名／50名 (100%)	
実施内容	書道家・杉田廣貴 (すぎたこうき) の作品展示と実演ワークショップを実施。県内のクラフトアート作家の雑貨の展示、販売も行った。	

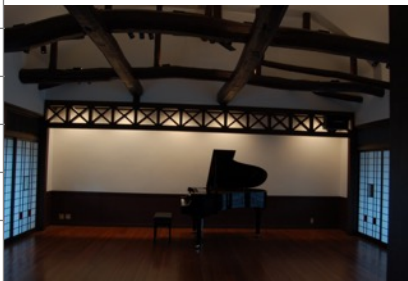
企画者	大紫会 代表 花柳照葵女	
プログラム名	芸術祭 マルチカルチュラル フェスティバル～様々な文化の祭り～	
会期	11/26(日)	
会場	別府市コミュニティセンター 多目的ホール	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	100名／100名 (100%)	
実施内容	日本文化の吟舞、篠笛、三味線など唄と舞いを中心に披露。その他、立命館アジア太平洋大学の学生によるエイサーなども実施した。	

企画者	大分彫刻家集団∞ (ハチ) の会	
プログラム名	第8回 大分彫刻家集団∞ (ハチ) の会展	
会期	10/22(日)～11/3(金・祝) ※富士屋Gallery一也百のみ10/23(月)・30(月)定休	
会場	富士屋Gallery一也百、湯治柳屋、アルテノイエ、蒸土茶楼、鉄輪句碑公園周辺	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	200名／200名 (100%)	
実施内容	∞ (ハチ) の会のメンバー12名が、鉄輪地区の旅館やギャラリーを中心に路地や建物の軒先にも彫刻など立体作品の展示を行った。	

企画者	chalkart APPLE CHOCOTTO	
プログラム名	APPLE&CHOCOTTO EXHIBITION	
会期	11/1(水)～7(火) ※11/2(木)定休	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	入場無料、ワークショップのみ1,500円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	60名／50名 (120%)	
実施内容	チョークアートのライブペインティング、体験ワークショップなどを実施。会場の特性上、観光客など他県からの来場者も多かった。	

企画者	こちちカフェむすびの	
プログラム名	布と遊ぶ	
会期	11/1(水)～12/3(日) ※木曜、第2・4水曜定休	
会場	こちちカフェむすびの	
料金	ワークショップ：1,500円 (1ドリンク付)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	100名／100名 (100%)	
実施内容	teshigoto作家・mkによるバッグや小物などの作品展示と小豆カイロ作りのワークショップ実施、馬場諒太の絵やキクチガマグチのがま口作品の展示、椎原由紀子の布作品の展示とガーゼハンカチにスクリーンプリントするワークショップ実施と多数のイベントを開催した。	

企画者	こちちカフェむすびの	
プログラム名	むすびの朗読会	
会期	11/25(土)	
会場	こちちカフェむすびの	
料金	500円 (1ドリンク付)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	14名／20名 (70%)	
実施内容	河野健司・としょがかり・ことこぼの3組による朗読会を実施。初めて参加する方が多かったが、楽しんでもらえた様子だった。	

企画者	富士屋Gallery一也百	
プログラム名	北口大輔 無伴奏チェロコンサート	
会期	11/4(土)	
会場	富士屋Galley一也百 ホール	
料金	一般：3,000円、学生：1,000円 (1ドリンク付)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	70名／70名 (100%)	
実施内容	日本を代表するチェリスト・北口大輔による無伴奏チェロコンサート。来場者は素晴らしい演奏に触れ、口々に感想を言い合い、大満足で帰っていく方が多かった。	

企画者	Kannawa Callege 鉄輪カレッジ	
プログラム名	第3回鉄輪スケッチ大会	
会期	スケッチ大会：11/5(日) 展示：11/10(金)～11/12(日)	
会場	スケッチ大会：蒸し湯前広場 展示：富士屋Gallery一也百 ほか	
料金	スケッチ大会：大人1,000円、大学生以下500円 (地獄蒸しおやつ付) /鑑賞無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	220名／100名 (220%)	
実施内容	参加者が思い思いの場所に座ってスケッチをしたり、写真を撮ったり、アートな視点をもって1日を過ごしてもらう企画の実施。3年目の開催となり、町の人にも認知されてきた。	

企画者	渡辺 希代子／大塚有子	
プログラム名	花・粧う～ふたり展『華道本能寺 渡辺 希代甫・大塚有甫』	
会期	生け込み風景：11/10(金) 展示：11/11(土)、12(日)	
会場	富士屋Galley一也百 ギャラリースペース	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	100名／50名 (200%)	
実施内容	生け花作品の展示を実施。生け込み風景も公開し、観光客など多くの来場者に喜ばれた。	

企画者	奈美志郎の会	
プログラム名	日本舞踊で「和」の美しいしぐさ・所作を体験しよう!	
会期	11/12(日)	
会場	西福寺	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	2名／25名 (8%)	
実施内容	着物を着て日本舞踊を踊る体験を実施。体験後は湯けむりが綺麗に見える展望台で着物のまま写真撮影を行った。	

企画者	トビイ ルツ	
プログラム名	『しまうまシリーズ』絵本原画展	
会期	11/18(土)～26(日)	
会場	富士屋Gallery一也百 ギャラリースペース	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	180名／150名 (120%)	
実施内容	絵本『しまうまシリーズ』の原画展 (絵本5冊の中から選んだ原画15点) を実施。 『MY MUSEUMウィーン2』展 (ウィーンのミュージアムをテーマにしたオリジナルの水彩画、銅版画25点) も同時開催した。	

企画者	劇団天地	
プログラム名	劇団天地 第19回公演『エレクトラ』	
会期	11/23(木・祝)	
会場	富士屋Galley一也百 ホール	
料金	2,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	21名／60名 (35%)	
実施内容	福岡を拠点に活動する『劇団天地』による初の大分公演を実施。ヨーロッパの古典作品であるギリシャ悲劇『エレクトラ』を披露した。	

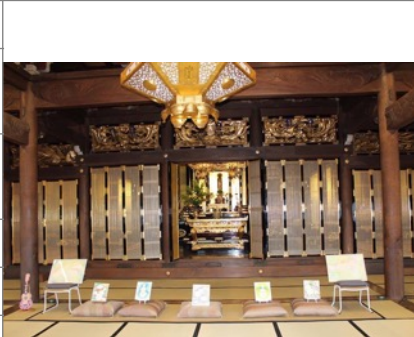
企画者	阿部起任	
プログラム名	極めて個人的な二律背反	
会期	11/23(木・祝)～27(月)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	故郷 (大分) から見た東京、東京から見た故郷の姿を対照的に描いた平面作品の展示を実施。	

企画者	ギャラリー花民+カフェ	
プログラム名	いけみかなこの第4回『やっぱり旅はいいね』水彩画展	
会期	11/1(水)～5(日)	
会場	ギャラリー花民+カフェ	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	70名／100名 (70%)	
実施内容	旅先であるベトナムとカナダでの水彩画スケッチの展示を実施。珍しい土産物などの展示・販売も行った。	

企画者	ギャラリー花民+カフェ	
プログラム名	竹と陶の手仕事展	
会期	11/11(土)～18(土) ※月・火曜定休	
会場	ギャラリー花民+カフェ	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	80名／100名 (80%)	
実施内容	竹と陶、それぞれの素材を活かした2人の作家による手仕事展を実施。作品に触れ、作家さんとの談話を楽しむ来場者が多かった。コラボ商品も展示し、好評をいただいた。	

企画者	社会福祉法人 ベっふ優ゆう	
プログラム名	紙すき体験	
会期	11/11(土)・18(土)	
会場	べっふ優ゆう	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	12名／4名 (300%)	
実施内容	紙すきの行程である、すく→バキューム作業→ローラー作業→板に貼り付け→乾燥までを実際に体験し、完成した作品は持ち帰ることができ喜んでいただいた。	

企画者	若竹良一	
プログラム名	シーグラスを使って陶芸体験	
会期	11/19(日)・25(土)	
会場	若竹陶芸教室	
料金	2,500円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	13名／10名 (130%)	
実施内容	教室の近所にある海浜で拾ったシーグラスを粘土で作った小鉢や皿に置いて釜で焼く陶芸体験を実施した。	

企画者	いるか姫	
プログラム名	いるか姫作品展 わたしたち同じ愛から生まれたの～神楽月～	
会期	展示：11/3(金・祝)～5(日) ウクレレ演奏：11/3(金・祝)	
会場	長覚寺	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	20名／50名 (40%)	
実施内容	女の子やいるかななどをモチーフにしたイラスト、絵画、写真、動画作品の展示を実施。ウクレレとギター演奏によるライブも行った。	

企画者	ボードゲーム ダイスキー!	
プログラム名	別府人狼村	
会期	11/11(土)・12(日)・18(土)・19(日)	
会場	長覚寺	
料金	1,000円 (見学のみ無料)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	80名／80名 (100%)	
実施内容	お寺の会場で、人狼ゲームやボードゲームで遊ぶ体験を行った。初心者も経験者も楽しそうに参加していた。	

企画者	Daruma artist Ai & LA漱石&KANA	
プログラム名	だるまカーニバル2017秋 with LA漱石&KANA	
会期	11/1(水)～7(火)	
会場	茶房たかさき アトリエパチパチ	
料金	鑑賞無料、だるまアートワークショップ：1,000円～、KANAカード占い：5,000円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	30名／200名 (15%)	
実施内容	オリジナルだるま作品の展示やだるまの絵付け体験ワークショップを実施。来場者は思い思いに絵付けを楽しんでいた。	

企画者	色喜彩～しきさい～	
プログラム名	別府de彩遊び～いろあそび～	
会期	11/3(金・祝)～12(日)	
会場	茶房たかさき	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	パステルアートと筆文字を使った作品の展示、書のライブパフォーマンスを実施。	

企画者	杠萼(yuzuriha utena)	
プログラム名	杠萼写真展『アルプラザラム・メランコリー』	
会期	11/28(火)～12/3(日)	
会場	茶房たかさき	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	25名／50名 (50%)	
実施内容	日本 (別府・大分)と母国 (インドネシア) の風景写真の展示を行った。	

企画者	混浴温泉世界実行委員会	
プログラム名	西野 達 in 別府	
会期	10/28(土)～12/24(日)	
会場	別府市内各所	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	13,391名／11,136名 (120%) ※作品の1つ『油屋ホテル』来場者数	
実施内容	個展形式の芸術祭を開催。別府名勝『地獄めぐり』ならぬ『芸術めぐり』をテーマとして、町じゅうに作品を点在させた。撮影：脇屋伸光	

企画者	混浴温泉世界実行委員会	
プログラム名	『西野 達 in 別府』 アーティスト・トーク	
会期	11/5(日)	
会場	別府ブルーバード会館 3階 フレックスホール	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	98名／150名 (65%)	
実施内容	西野 達によるアーティストトークと、日本を代表する美術批評家の1人である榎木野衣をゲストに迎え、対談を行った。	

企画者	混浴温泉世界実行委員会	
プログラム名	ポートランド視察報告会	
会期	11/12(日)	
会場	不老泉2階集会室	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	27名／20名 (135%)	
実施内容	ポートランドの視察で訪れて学んだこと、感じたことについて「クラフトビール」「DIY」「環境先進都市」「地産地消」などをキーワードに混浴温泉世界実行委員会 総合プロデューサー・山出淳也が報告した。	

企画者	混浴温泉世界実行委員会	
プログラム名	これからの芸術祭を考える～欧州、日本の事例を通して～	
会期	11/18(土)	
会場	別府ブルーバード会館地下	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	48名／40名 (120%)	
実施内容	今年開催された『ベネチアビエンナーレ』や『ドクメンタ 14』をはじめとした国際展や、国内の芸術祭の視察報告を実施した。	

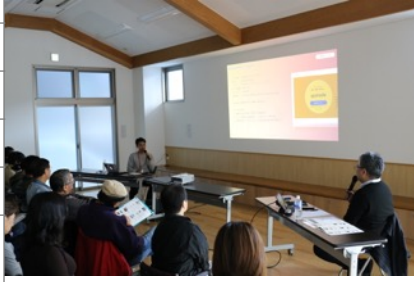
企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	アートに泊まる-浜脇の長屋-	
会期	11/1(水)～12/3(日)	
会場	別府市浜脇地区	
料金	大人 (中学生以上) 1名：7,980円、2名：14,960円	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	27名／50名 (54%)	
実施内容	別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』で生まれた作品のために作られた、趣の異なる2部屋『天空の庭』『白い箱』を宿泊できるアート作品として、宿泊者限定で公開した。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	ラジオジャーニー『音で旅する別府』	
会期	11/1(水)～12/3(日) ※火曜定休 (祝日は営業)	
会場	SELECT BEPPU出発	
料金	500円 (再生機・ヘッドホンのレンタル込)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	10名／50名 (20%)	
実施内容	2013年度のアーティスト・イン・レジデンス事業『KASHIMA』の滞在作家である、アルテラジオによる音声作品の体験。参加者は地図を片手に、音 (ラジオ) と共に町を散策した。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	松尾常巳作品展	
会期	11/5(日)～12(日)	
会場	紙屋温泉 2階公民館	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	163名／140名 (116%)	
実施内容	2016年度に制作した、紙屋温泉の壁画の原画を中心に、絵画や川柳など、元看板絵師・松尾常巳の長年にわたる創作活動を紹介する展示を実施。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	アートウォーク	
会期	11/11(土)	
会場	JR別府駅構内 総合インフォメーションセンター 前出発	
料金	大人：1,000円、小学生：500円、幼児：無料 (保険料・ドリンク込)	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	1名／10名 (10%)	
実施内容	中心市街地に点在する壁画やふすま絵などのアート作品を解説付きで巡るまちあるきツアーを開催。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	Creative Workshop in Beppu vol. 2	
会期	11/21(火)・22(水)	
会場	別府市役所 レセプションホール ほか	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	117名／120名 (98%)	
実施内容	「若年層の移住」「インバウンド」「空き家対策」「障がい者福祉／バリアフリー」の4項目をテーマに町の課題を見つめ直し、魅力創出のための本質的な考え方を学ぶ、座学とワークショップを実施。 ※主催：別府市、NPO法人 BEPPU PROJECT／共催：CREATIVE PLATFORM OITA	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	CREATIVE PLATFORM CAFE vol. 8	
会期	11/23(木・祝)	
会場	不老泉2階集会室	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	37名／30名 (123%)	
実施内容	『CREATIVE PLATFORM OITA』のWebサイトで取材した、グラフィックデザイン、Webデザイン、映像制作など、幅広い実績を持った県内在住クリエイター8名による自身の活動や理念のプレゼンテーションを実施。 ※主催：CREATIVE PLATFORM OITA	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	KASHIMA2017 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE アーティスト・イン・レジデンスに関する意見交換会	
会期	11/25(土)	
会場	不老泉2階集会室	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	12名／15名 (80%)	
実施内容	アーティストが地域に滞在し、その住民や文化に触れながら制作を行うアーティスト・イン・レジデンス。その現状と課題について、地域とアーティストそれぞれの視点から意見交換会を実施。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	福祉&アートのワークショップキャラバン in 別府	
会期	12/2(土)	
会場	別府市社会福祉会館	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数 (達成率)	15名／12名 (125%)	
実施内容	福祉施設にアーティストを派遣して美術や音楽、ダンスなどのワークショップを行う『みんなのアーツ体験事業』の取り組みをより多くの人々に知ってもらうため、ワークショップ体験会を実施した。参加者は音楽家・片岡祐介、舞踊家・佐久間 新とともに音楽と踊りの即興セッションを楽しんだ。 ※主催：大分県 (平成29年度 創造県おいた推進事業「みんなのアーツ体験事業」)	

2-3. 運営について

1. サポート内容

『ベップ・アート・マンス 2017』に登録をしたプログラム企画者に対し、事務局より以下のサポートを行った。

プログラム実施に関わる相談およびサポート

プログラム登録申請書〈申請期間：6月1日(木)～6月30日(金)〉の提出後、事務局によるヒアリング(面談)を行い、企画者の意向を確認しながら未確定事項の決定や、実現性、安全性の確認を行った。また、登録決定からプログラム開催直前まで企画のブラッシュアップに協力した。

無料およびディスカウント料金で利用できる会場(提供会場)の紹介

実行委員会が企画者に紹介する会場として8ヶ所を用意した。

- ・無料で使用できる会場…長覚寺(浜脇地区)、トキハ別府店 専門店棟3階連絡通路そば(中心市街地)、トキハ別府店 大屋根の下(中心市街地)
- ・ディスカウント料金で利用できる会場…茶房たかさき(朝見地区)、別府ブルーバード会館3階 フレックスホール(中心市街地)、えきマチ1丁目別府 コミュニティルーム(中心市街地)、富士屋Gallery一也百 ギャラリースペース(鉄輪地区)、富士也Gallery一也百 ホール(鉄輪地区)。また、提供会場以外にも使用できる会場を複数ヶ所紹介をした。

広報業務の一部代行

- ・全プログラムが掲載されたパンフレット(12,000部)や事業全体を告知するポスター(500部)を作成し、別府市内や近郊を中心に全国へ配布した。
- ・Webサイトで、個別のプログラムの情報提供や予約受付を行った。
- ・SNS(Twitter、Facebook、Instagram)を通じた情報発信を行った。
- ・記者発表を開催し、企画者が記者に対し直接告知できる機会を作った。
- ・会場目印ののぼり(100枚)、富士見通りの巨大看板(1枚)、駅前通りの街灯にのぼり(64枚)を設置した。

総合インフォメーションセンター

開催中はJR別府駅構内に有人のインフォメーションセンターを設け、事業のPRや問合せ対応をした。

問合せ受付・連絡先窓口などの事務局業務

企画者が希望する場合、プログラムの予約受付や問合せ対応を事務局が代行した。予約は電話、Fax、Webサイト、総合インフォメーションセンターにて受け付けた。



＜総合インフォメーションセンター＞

週刊チラシの発行

パンフレットとは別に、1週間分の予定を掲載したチラシ『ベップ・アートなんす』を作り、総合インフォメーションセンターを中心に配布した(A3サイズ両面モノクロ／全4号／1,200部)。また、Webサイトよりダウンロードを可能にした。2013年に引き続き5度目の取り組みで、2014年より市民ボランティアに紙面作成を託している。



＜パンフレット表紙＞



＜パンフレット プログラム紹介ページ＞



＜Webサイト＞



＜週刊チラシ 紙面＞

2. 加盟店

プログラム実施会場に近い小売店・小規模飲食店を中心に、本事業に賛同してくださる店舗を『ベップ・アート・マンス 2017 加盟店』とし、パンフレットやWebサイトで紹介した。加盟店には、店頭用のポップを配布し掲示していただいた。2017年は44店舗の加盟があった。



<加盟店ポップ>



<パンフレットに掲載した店舗情報>

2-4. 『ベップ・アート・マンス 2017』意見交換会の開催

市民による主体的な運営を目指し、プログラム企画者を中心に、地域の方などを交え、事業についての意見交換、企画者同士の交流を図る『ベップ・アート・マンスをつくろう会』を実施した。本年度は計18回 (2013年より通算84回) の実施で計131名が参加した。事務局が日時・場所を決定し、任意参加行事として呼びかける。場所の提供や司会進行は事務局が行った。

回	日程	参加人数	会場
70	2017/4/17(月)	10	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
71	2017/5/8(月)	3	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
72	2017/5/18(木)	6	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
73	2017/5/28(日)	9	えきマチ1丁目別府 コミュニティルーム ※1)
74	2017/6/1(木)	6	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
75	2017/6/10(土)	10	JR別府駅北高架商店街 SLOWLY MARKET ※1)
76	2017/6/15(木)	21	えきマチ1丁目別府 コミュニティルーム、事務局 (BEPPU PROJECT事務所内) ※1)
77	2017/7/6(木)	2	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
78	2017/7/20(木)	4	弓松温泉2階公民館 ※2)
79	2017/7/30(日)	20	別府スパピーチ ※2)
80	2017/8/3(木)	3	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
81	2017/8/17(木)	4	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
82	2017/9/7(木)	4	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
83	2017/9/21(木)	6	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
84	2017/10/5(木)	4	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
85	2017/10/19(木)	8	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
86	2017/11/2(木)	7	事務局 (BEPPU PROJECT事務所内)
87	2017/11/16(木)	4	おにぎりかふえ ※3)

※1) 説明会も同時開催

※2) ベっふ火の海まつり『納涼音頭大会』の練習、本番も同時開催

※3) 会期中のプログラム会場見学も同時開催



<『ベップ・アート・マンスをつくろう会』の様子>

2-5. サポートへの評価

プログラム終了後、プログラム企画者へアンケートを実施した。回収枚数は87枚。

設問	2017年	2016年
これまでにプログラムを登録したことがあるか	はい (55%) / いいえ (45%)	はい (54%) / いいえ (46%)
『ベップ・アート・マンス』という取り組みへの評価	大変よい (69%) / よい (27%) / 普通 (4%)	大変よい (85%) / よい (13%) / 普通 (2%)
『ベップ・アート・マンス』に登録してよかったか	大変よかった (57%) / よかった (37%) / 普通 (6%)	大変よかった (70%) / よかった (23%) / 普通 (4%) / よくない (3%)
また『ベップ・アート・マンス』へ登録したいか	はい (95%) / いいえ (5%)	はい (92%) / いいえ (8%)
事務局の対応に対する評価	大変よい (64%) / よい (25%) / 普通 (10%) / よくない (1%)	大変よい (71%) / よい (24%) / 普通 (1%) / よくない (3%) / 全くよくない (1%)
広報業務の一部代行による効果があったか	はい (87%) / いいえ (13%)	はい (89%) / いいえ (11%)
提供会場の取り組みをどう思うか	大変よい (55%) / よい (36%) / 普通 (9%)	大変よい (70%) / よい (17%) / 普通 (13%)
『ベップ・アート・マンスをつくろう会』には参加したか	はい (30%) / いいえ (70%)	はい (27%) / いいえ (73%)

- ・企画者、来場者ともに、アートに触れるだけでなく、別府という町を改めて知る (感じる) 良い機会になっていると思います。
- ・作品や活動状況の発表の機会として、会場費や宣伝面で協力していただけることはとても助けになりました。
- ・パンフレットに掲載されているプログラム数が多いので、ひとつひとつの広報がなかなか難しいと思います。独自にSNSを活用するなど、広報活動の必要性を感じました。
- ・間口が広く、さまざまなプログラムが受け入れられているのも面白いと思います。
- ・別府の個性を表現するのに非常に適した企画だと思う。
- ・アートは特別な芸術家たちだけのものと思われていたが、自分も参加することができるのだという希望を持てた。
- ・イベントを通じて多くの人と交流ができた。
- ・1ヶ月もの期間、展示するというのは通常ではとても費用がかかると思うので、提供会場の取り組みは出展者にとってとても助かります。
- ・学生や中心地から離れた地域に住んでいる方の認知度が低いと感じた。
- ・アートマンスは別府のアートの原点だと思っています。
- ・まだまだ知らない人が多いので、いろいろな呼びかけや新聞チラシなどで宣伝するのはどうでしょうか。
- ・今年は初参加の方が多く、広がりを見せていると思います。次年度の展開が楽しみです。

(アンケートより原文を抜粋)

2-6. 来場者について

1. 来場者数

来場者は10,005名を数えた。事業開始以降の来場者数は以下のとおり。

開催年	会期	来場者数
2010年	11/1(月)～11/30(火) [30日間]	3,930名
2011年	11/1(火)～11/30(水) [30日間]	11,751名
2012年	10/6(土)～12/2(日) [58日間] ※1)	53,736名
2013年	11/1(金)～11/30(土) [30日間]	25,147名
2014年	11/1(土)～11/30(日) [30日間]	22,134名
2015年	7/18(土)～9/27(日) [72日間] ※1)	53,474名
2016年	10/29(土)～11/30(水) [33日間]	13,225名 ※2) 『目 In Beppu』の入場者数1,122名を含む

※1) 2012年、2015年は別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』の開催に合わせて、約2ヶ月間の会期。

※2) 来場者数は昨年より減少しているが、2016年は『目 In Beppu』の来場者数も含めていたため、差し引けば昨年並みの来場者数といえる。2016年は個展形式の『in BEPPU』の初開催ということもあり、『in BEPPU』も含めての全体像を見るため合算して集計したが、2017年は2回目の開催となり、具体的な実施方式が別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』同様、毎年様変わりすることが明らかになったため、『in BEPPU』と『ベップ・アート・マンス』を分けて集計・分析する方が良いと判断するに至った。

2. アンケート結果

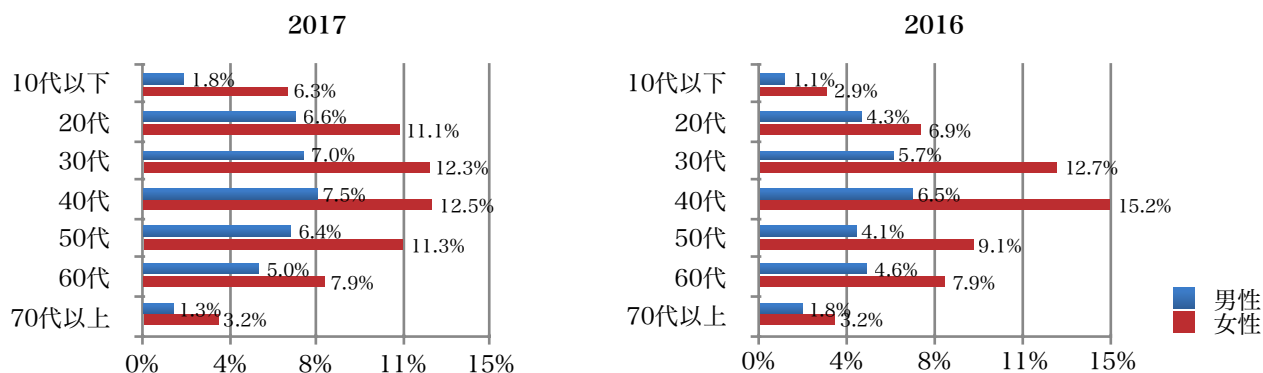
会期中、来場者に下記の質問を記したアンケートを実施した。回収枚数は664枚。

※小数点以下の記載がないものに関しては四捨五入している。

1. 年齢、性別、居住地、滞在期間
2. 今回のプログラムのことをどこで知ったか (複数回答可)
3. 『ベップ・アート・マンス』のことをいつから知っていたか
4. 『ベップ・アート・マンス』にこれまで参加したことがあるか
5. 『ベップ・アート・マンス』のことを何で知ったか (複数回答可)
6. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか
7. 『ベップ・アート・マンス』という取り組みへの評価
8. 7の理由
9. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか
10. 『西野 達 in 別府』には参加したか
11. 「別府は温泉観光地だけではなくアートの町でもある」というイメージはあるか (2017年のみの設問)

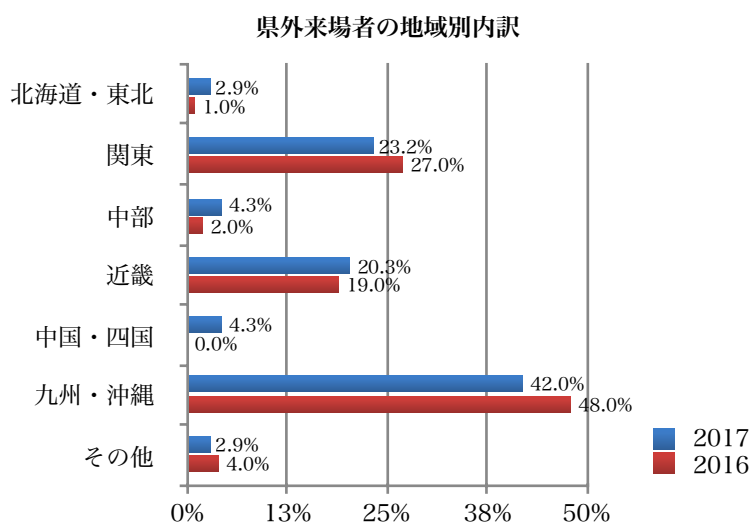
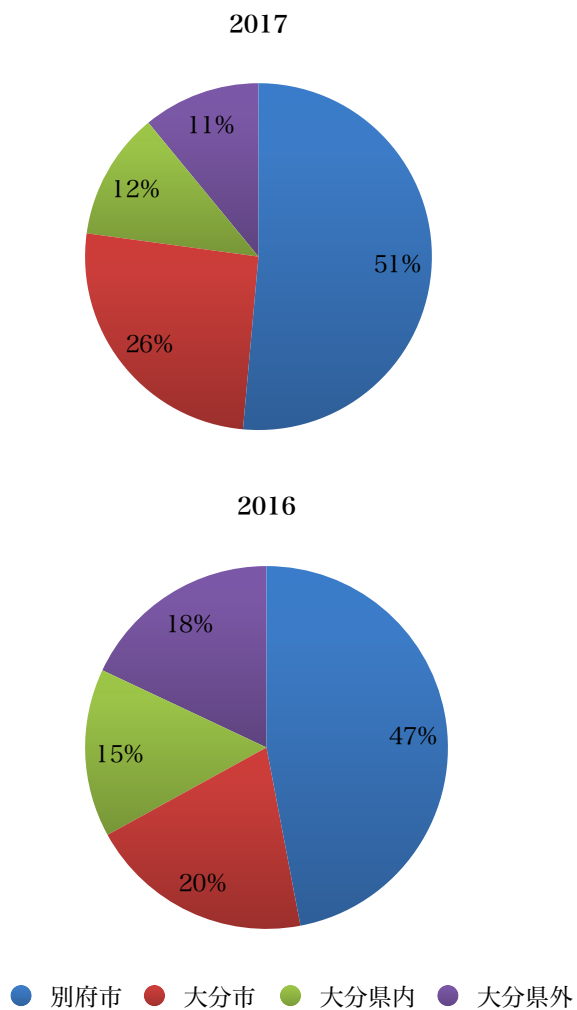
1-1. 年齢、性別

昨年と比較し、全体的に男性の割合が伸びている。また、40代女性が減少し、10代以下、20代女性の割合が増加している。



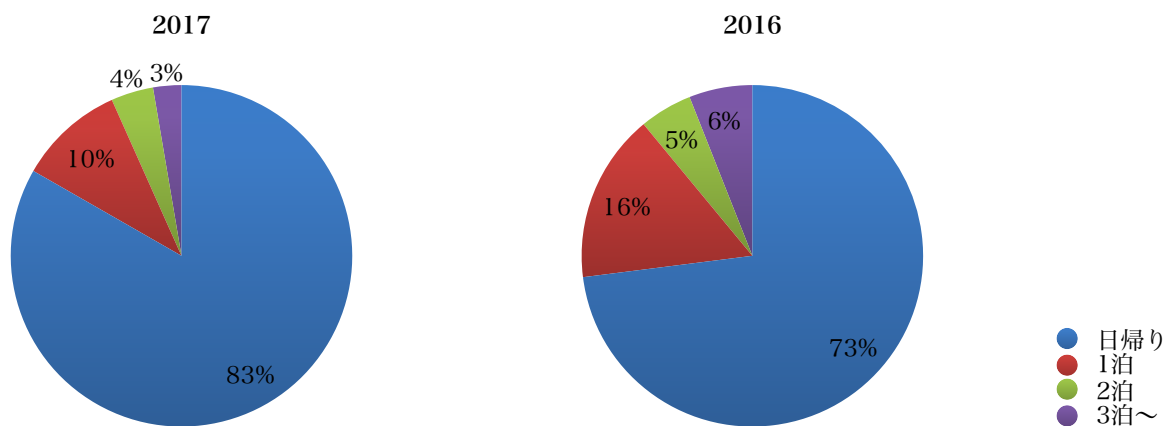
1-2. 居住地

昨年と比較して、「別府市」に居住している来場者が全体の半数を越えたこともあり、県内来場者が微増した。県外来場者の地域別内訳をみると、昨年同様「九州・沖縄」「関東」「近畿」の順となっている。



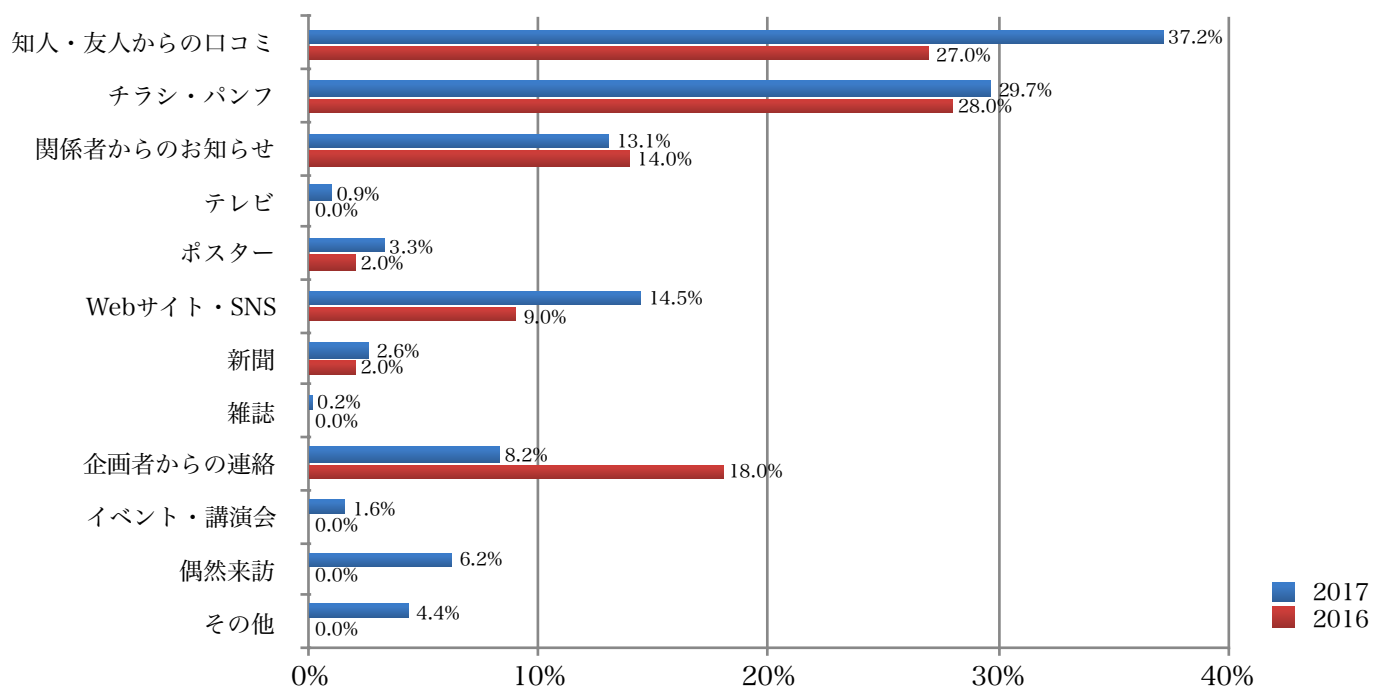
1-3. 滞在期間

2016年と比較して日帰り客が10%増加し、宿泊をとまなう来場者が減少したことがわかる。



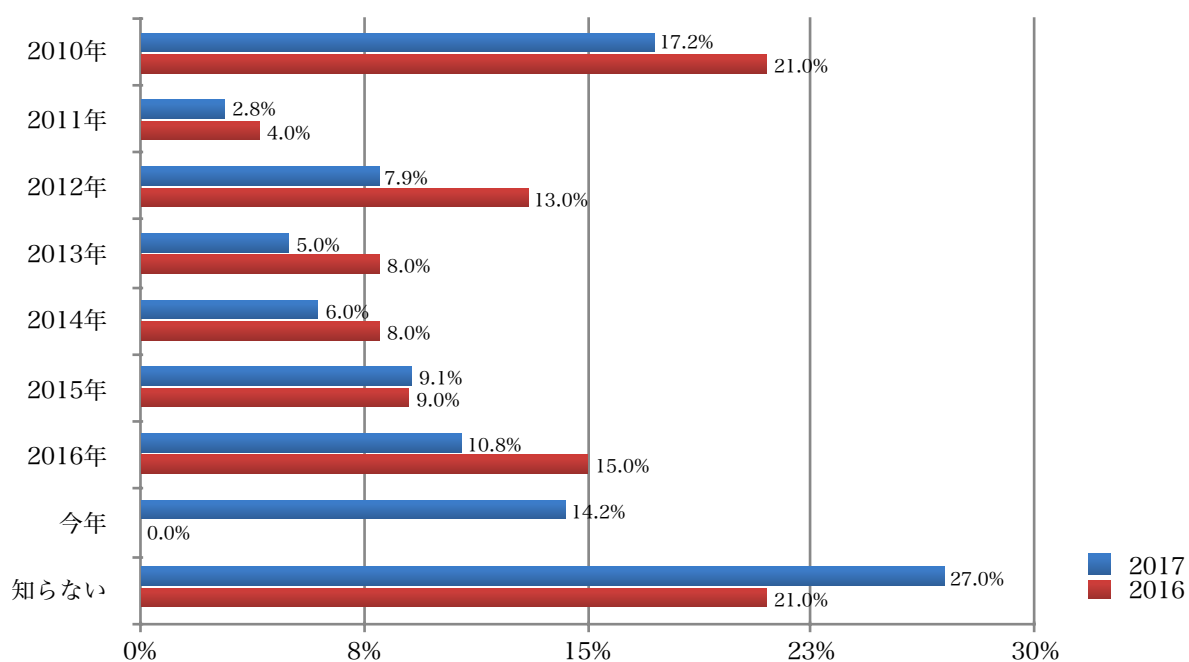
2. 今回のプログラムのことをどこで知ったか (複数回答可)

「知人・友人からの口コミ」の割合が他の項目よりも10.2%大きく上回る結果となった。「Webサイト・SNS」も5.5%増加した。



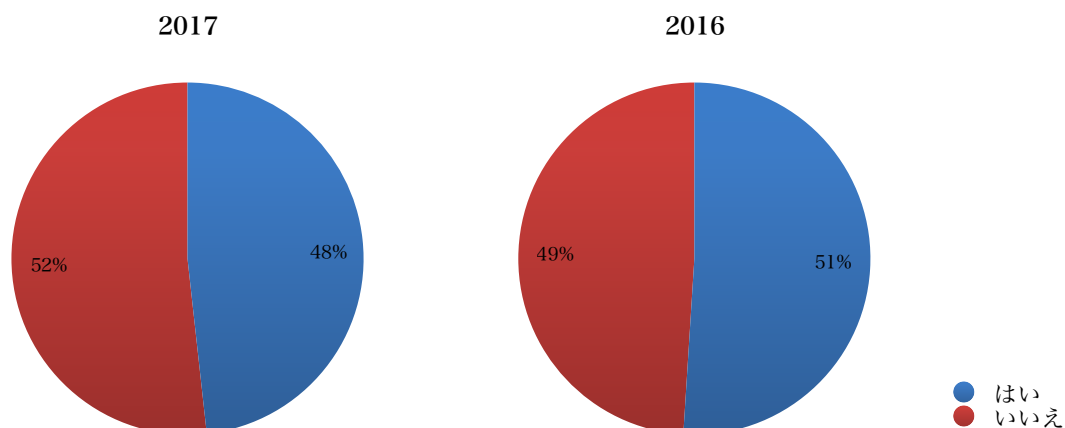
3. 『ベップ・アート・マンス』のことをいつから知っていたか

昨年同様、知っていると回答した中では「2010年」の比率が高い。また、「知らない」と回答した来場者が全体の27%と一番高い割合を占めている。



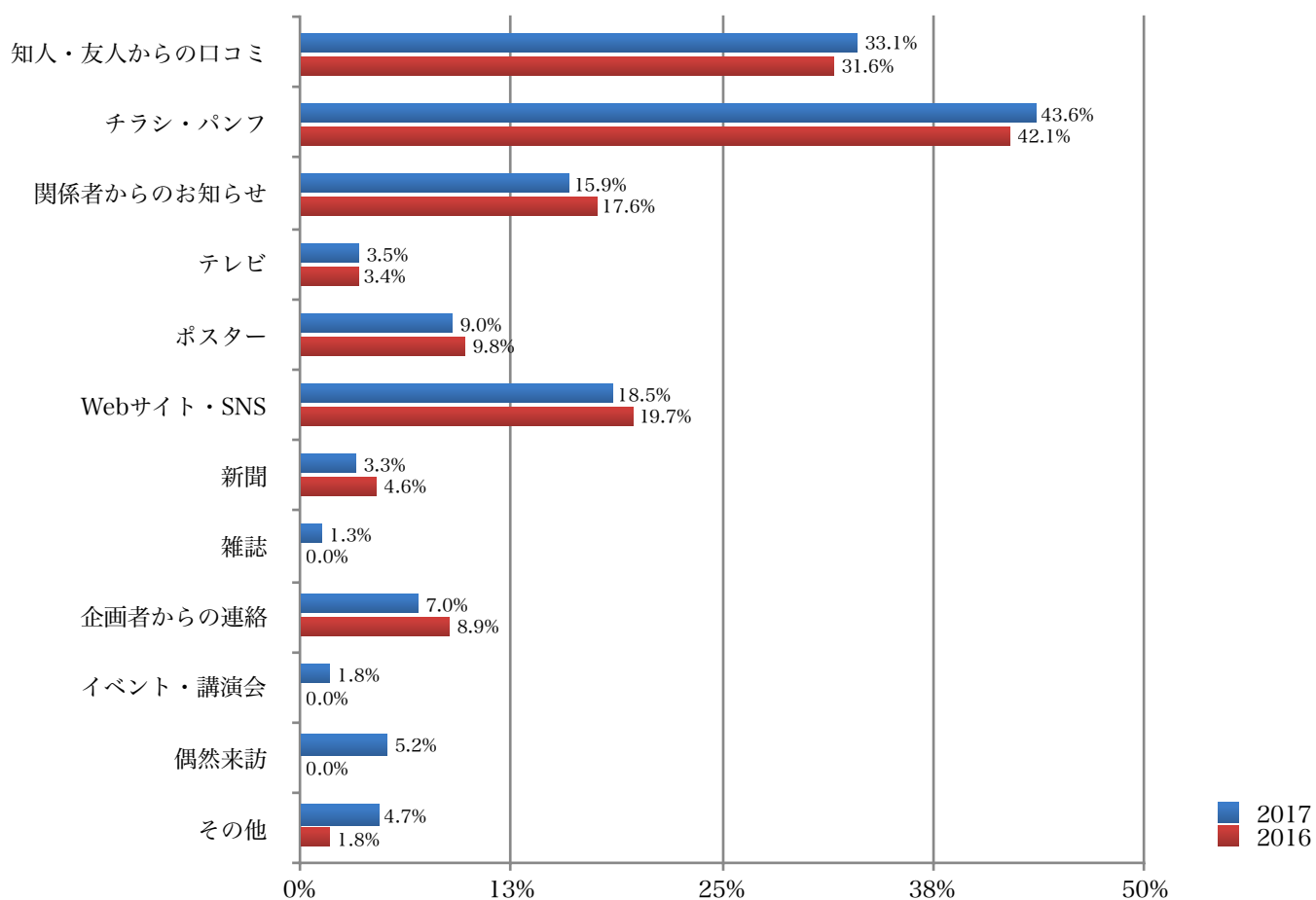
4. 『ベップ・アート・マンス』にこれまで参加したことがあるか

昨年と比較して、これまで参加したことがある来場者は微減している。



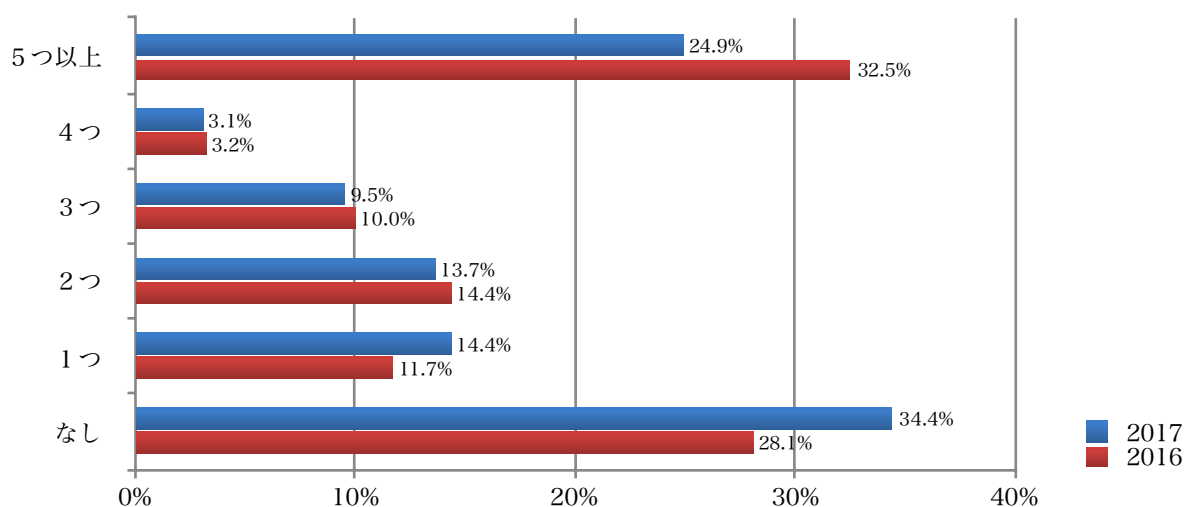
5. 『ベップ・アート・マンス』のことを何で知ったか (複数回答可)

昨年と同様、「チラシ・パンフ」「知人・友人からの口コミ」「Webサイト・SNS」という順となった。



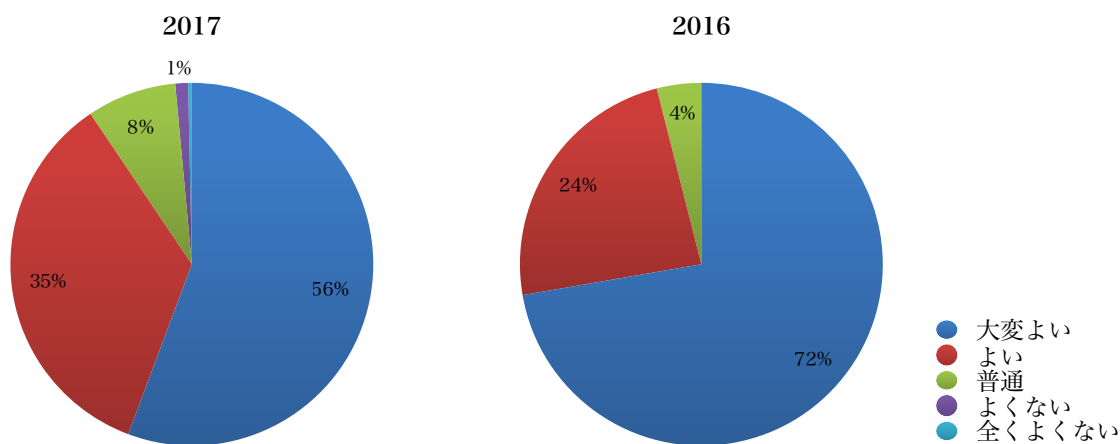
6. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか

昨年と比較して、「5つ以上」の割合が減少し、「なし」と選択した来場者が増加している。



7. 『ベップ・アート・マンス』という取り組みへの評価

「大変よい」と選択した来場者が16%減少し、「よい」が11%増加している。



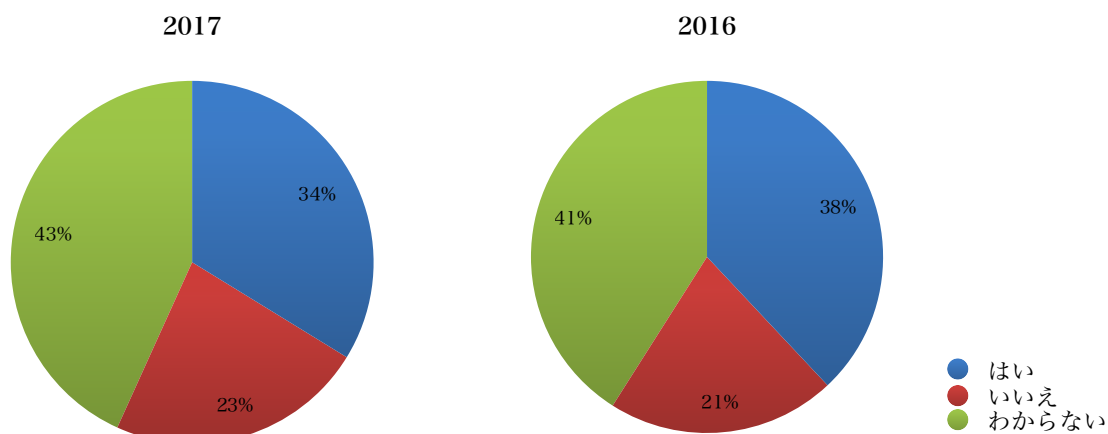
8. 7の理由

- ・展示する側も観る側もアートに触れる機会が持てるので良いと思う。
- ・プログラムを巡る中で、別府の町の良さも知れるから。
- ・地域の活性化につながると思うから。
- ・色々な作品や人が集まって楽しい。作品だけでなく企画者自身とも触れることができるから。
- ・普段行かない場所を訪れることができる。別府市民にもっと知ってもらいたい。
- ・毎年の恒例行事になってきた。大人の文化祭のようで楽しい。
- ・まだ知らない人も多いのでこれからも継続してほしい。もっと別府を盛り上げて欲しい!
- ・もっと芸術に興味を湧くような企画を増やしてほしい。
- ・良いと思うが、まだまだ地元の方に浸透していない。

(アンケートより原文を抜粋)

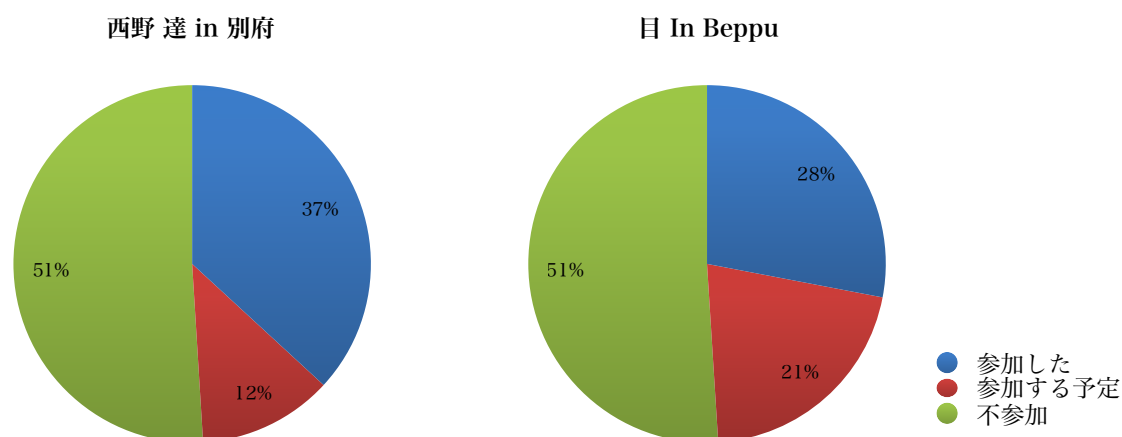
9. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか

昨年と比較して、「参加したい」の占める割合が若干数減少しているが、回答バランスはほとんど変わらない。



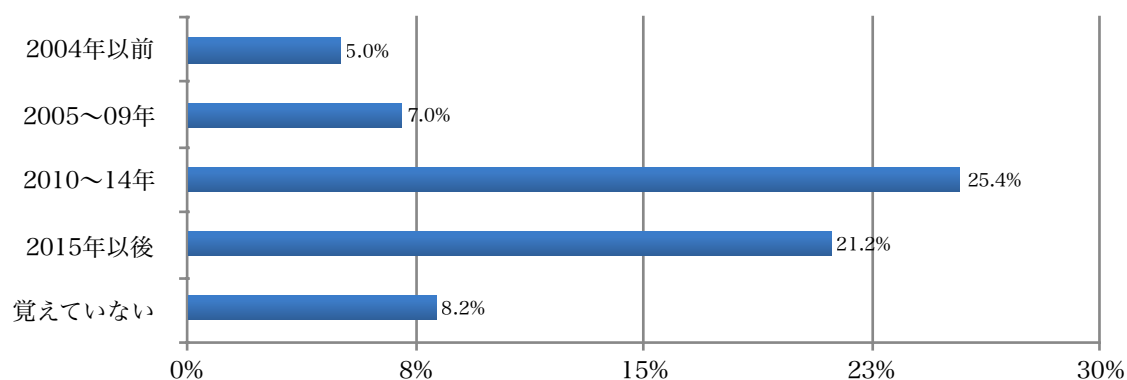
10. 『西野 達 in 別府』には参加したか

「不参加」と選択した割合は昨年と同様である。



11. 「別府は温泉観光地だけではなくアートの町でもある」というイメージを持っているか (2017年のみの設問)

「いいえ」の回答が33%、「はい」の回答が67%であった。「はい」のうち、いつごろからそのイメージを持つようになったかを設問した内訳は以下の通りとなり、「2010～14年」が最も高い結果となった。



3. アンケート結果を踏まえた考察

まず、来場者の年代は2016年と比較すると男性の比率が全体的に伸び、10代以下、20代女性の割合が増加している。これは、男性や若年層女性の来場者が多くアンケートに回答したためと考える。次年度は企画者に負担の少ない方法で、より実態に即した来場者性別・年代バランスを把握する方法を検討したい。

次に、『ベップ・アート・マンス』自体や、各プログラムの告知方法として、今回「Webサイト・SNS」の割合が増加したが、これは今年からWebサイトのスマートフォン対応やInstagramを使ったプログラムの紹介を始めた結果、情報を得るツールが増えたためではないかと推測する。

一方で、新聞・雑誌などによる周知が弱いことが明らかとなった。アートや文化に興味がなく、『ベップ・アート・マンス』を知らない層へのアプローチとして新聞・雑誌など広い層に告知できる媒体が有効であると考えられるため、今後はこれらのメディアをターゲットにした広報戦略が必要である。

また、プログラム参加数は昨年に比べ、「5つ以上」の割合が減少し、「1つのみ」が増加している。平均すると1人あたりの参加プログラム数が減少していることがわかった。今後、プログラム同士の連携や、ツアーやスタンプラリーなどプログラム間を巡るような仕組みをつくる必要がある。また、『in BEPPU』に「不参加」と選択した割合も過半数あり、今後『ベップ・アート・マンス』と同時期開催予定の『in BEPPU』を相互に行き交うような対策も必要だと考える。

そして、今年度新たに加えた「別府は温泉観光地だけではなくアートの町でもある」というイメージを持っているかという設問では、7割近くの人が「はい」を選択し、認知した時期は「2010～14年」という回答が最も多かった。2010年は『ベップ・アート・マンス』が始まった年でもあり、毎年継続して開催することで、『ベップ・アート・マンス』が「別府＝アートの町」というイメージを定着する一助となっているといえる。

企画者アンケートでは、「事務局の対応に対する評価」を含め、全体的に「大変よい」が減少している。次年度以降は、業務の効率化を図り、登録団体へのサービス・対応をより丁寧に行い、満足度を高めるよう努めたい。

3-1. 企画概要

1. はじめに

『in BEPPU』は別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』の後継企画として2016年より始動したアートプロジェクトである。別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』は2009年から2015年まで3年に1度、計3回開催し、美術やダンス、音楽など、国際色豊かな多くのアーティストが別府に滞在して構想した新作を発表した。

これに対して『in BEPPU』では、国際的に活躍する1組のアーティストのみを別府に招聘し、地域性を活かしたアートプロジェクトを毎年秋に実現する。第1回目は現代芸術活動チーム【目】が別府市役所を舞台に作品を発表した。第2回目となる今年は、公共空間を大胆に変容させるアートプロジェクトを展開し、国内外で話題を巻き起こしてきた西野達を招聘し、『西野 達 in 別府』と題して『ベップ・アート・マンス 2017』の期間にあわせて実施した。

2. アーティストについて



西野 達 (にしの・たつ)

1960年名古屋生まれ。ミュンスター芸術アカデミーで彫刻を学び、1997年から主にヨーロッパで活動。世界中の有名な彫像や建造物、時計台、公衆トイレなどを仮設壁で囲み、リビングルームや宿泊が可能なホテルに変容させてしまうなど、大がかりなインスタレーション作品を制作。近年ではシンガポールの象徴であるマライオン、ニューヨークのコロンブス像を作品化し大きな話題を呼んだ。

3. ロゴマークについて



西野 達本人の直筆により、手描きの味を活かした『西野 達 in 別府』公式ロゴが制作された。

3-2. 作品について

展覧会名／英語表記	西野 達 in 別府／Tatzu Nishi in Beppu
全体概要	別府名勝『地獄めぐり』にちなんで『芸術めぐり』をテーマに中心市街地の各所に大型の屋外インスタレーション作品4点と写真作品9点を展示。『西野 達 in 別府 アートまちあるきマップ』を無料配布し、来場者は点在する作品を巡りながら、町の秘められた魅力と出会った。また、会期後半には事務局スタッフの解説付きで作品を鑑賞する『西野 達 in 別府 オリジナルツアー』を実施し、アーティストが惹かれた別府の見どころを、町の歴史や特徴などを交えながら紹介した。
会期	2017年10月28日(土)～12月24日(日) (58日間) 10:00～18:00 『西野 達 in 別府 オリジナルツアー』(全7回) 料金：無料 定員：20名 開催日と参加者人数：12月9日(土)8名、10日(日)5名、11日(月)5名、15日(金)5名、16日(土)15名、17日(日)14名、18日(月)6名 合計58名
オリジナルスタンプ	作品めぐりを楽しむ要素として、作品にちなんだオリジナルスタンプを各会場に設置した。またオリジナルグッズとして『in BEPPU スタンプブック』を1冊100円で販売した。



『西野 達 in 別府 アートまちあるきマップ』



オリジナルツアーの様子



オリジナルツアーの様子



スタッフが独自のツアールートを考案した



スタンプブック



スタンプを押す様子

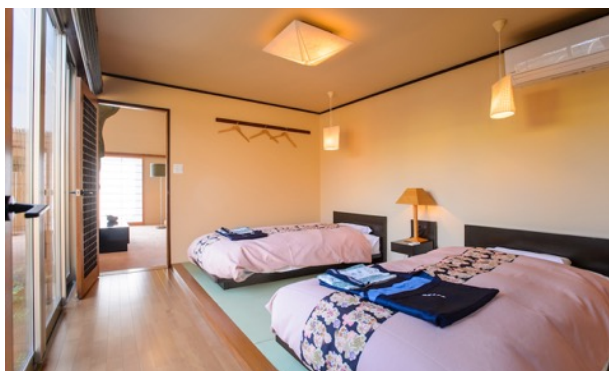
作品名／英語表記	油屋ホテル／Aburaya Hotel
会場	別府市駅前町12-13
内容	JR別府駅前の『油屋熊八像 (制作者：辻畑隆子) 』や手湯を取り込む仮設物を建設し、ホテルのような空間をつくる作品。日中は無料で入場できるほか、週末には1日1組限定の夜間特別鑑賞体験 (抽選) も実施した。 夜間特別鑑賞体験 (抽選) 夜間から翌日の早朝まで、『油屋ホテル』内のベッドルームやトイレ、手湯を活かした露天風呂などを実際に利用することで、ホテルルームとしての作品空間をより深く体験した。 開催：会期中の金曜・土曜・祝前日 ※10月28日(土)、12月23日(土・祝)を除く 時間：19:30～翌朝8:30 〈申込方法〉 公式Webサイトの予約フォームまたは電話 ※抽選により1日につき1組 (最大2名まで) を決定 〈申込受付期間〉 第1期 11月2日(木・祝前日)～11月25日(土) 開催分 申込受付 10月2日(月)～10月12日(木) 抽選結果発表 10月16日(月) 申込倍率 11.1倍 第2期 12月1日(金)～12月22日(金) 開催分 申込受付 10月28日(土)～11月10日(金) 抽選結果発表 11月14日(火) 申込倍率 40.8倍



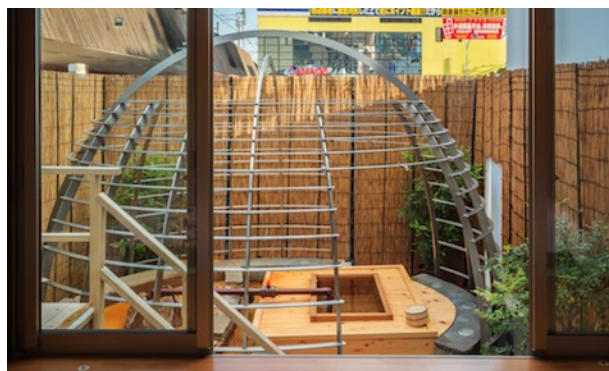
外観の様子



レセプションルーム



ベッドルーム



露天風呂



スタンプデザイン

作品名／英語表記	別府タワー地蔵／Beppu Tower Jizo
会場	別府市北浜3丁目10-2
内容	別府の公衆浴場に必ず祀ってある薬師像からヒントを得た作品。今年5月に60周年を迎えた別府タワーを町や旅行者を見守るお地蔵様に見立てた。



展示の様子



スタンプデザイン

作品名／英語表記	残るのはいい思い出ばかり／Only Good Memories Remain after All
会場	別府市駅前本町10-35
内容	最近まで家屋が建っていた空き地に発泡スチロールで家屋を仮設。その場所の記憶を象徴するものとして再現することで、独特な歴史を持つ別府の移り変わりを表現した作品。



展示の様子



スタンプデザイン

作品名／英語表記	別府の魅力から逃れられるか？／Can We Be Released From Beppu's Fascination?
会場	別府市楠町11-5
内容	別府の町に魅了されたアーティストがこの土地から離れたいという強い気持ちを表現した作品。引っ越しの荷物を載せたトラックが地面に串刺しになっており、日暮れとともに電灯に明かりが灯る。



展示の様子



スタンプデザイン

作品名／英語表記	西野 達 秘宝写真館／Tatzu Nishi Strange eroticism Photography Museum
会場	屋内展示：別府市元町4-13 屋外展示：別府市元町2-15、3-15
内容	2011年まで別府に存在していた秘宝館に着想を得た写真展。別府の魅力の1つである猥雑さを『秘宝』として表現した。屋内会場の他に屋外に2ヶ所展示した。 〈屋内展示出品作品〉 ・あなたはあなた、私は私／You're You, I'm Me ・ミラーボールマン／Mirror Ball Man ・アップルマン／Apple Man ・口内ランプ／Light Bulb in the Mouth ・楽しくないと言えば嘘になる／Not True to Say It Is Not Fun ※ ・あなたの側、わたしの側、そして真実／My Side, Your Side, and the Truth ※ ・無題（写真作品）／No title ・無題（照明作品）／No title ※ 〈屋外展示出品作品〉 ・無口なやつ／A Tight-Lipped Man ※ ・これはパイプである／Ceci Est Une Pipe ※ ※本展のために制作した作品



屋内展示の会場



屋内展示の様子



屋外展示の様子（無口なやつ）



屋外展示の様子（これはパイプである）

スタンプデザイン



3-3. 関連イベント

イベント名	『西野 達 in 別府』アーティスト・トーク
実施場所	別府ブルーバード会館3階 フレックスホール (別府市北浜1-2-12)
参加費	無料
実施日	2017年11月5日(日) 18:00~20:00 (開場17:30)
参加者人数	98名
登壇	西野 達、樫木野衣 (美術批評家)
進行	山出淳也 (混浴温泉世界実行委員会 総合プロデューサー)
内容	
前半は山出淳也より『in BEPPU』の趣旨および『西野 達 in 別府』の開催概要を説明し、西野 達よりこれまでの活動と『西野 達 in 別府』出品作品の紹介を行った。後半は日本を代表する美術批評家の1人である樫木野衣氏をゲストに迎え、本展の内容や作家自身の魅力を掘り下げていく対談を行った。	



イベント名	これからの芸術祭を考える ―欧州、日本の事例を通して―
実施場所	別府ブルーバード会館地下 (別府市北浜1-2-12)
参加費	無料
実施日	2017年11月18日(土) 14:00~17:00 (開場13:30)
参加者人数	48名
登壇	飯田 志保子 (キュレーター・東京芸術大学芸術学部先端芸術表現科 准教授)、山出淳也 (混浴温泉世界実行委員会 総合プロデューサー)
内容	
前半は『国内外芸術祭レポート』として、混浴温泉世界実行委員会 事務局の松田雅代より、今年開催された『ベネチアビエンナーレ』や『ドクメンタ14』をはじめとした国際展や国内の芸術祭の視察報告を行った。後半は国内外の国際展に精通するキュレーター・飯田志保子氏と山出淳也によるトークセッションを行い、地域や都市におけるアートの役割や、芸術祭の課題や可能性について議論した。	



イベント名	連続トークイベント『達の部屋』(全5回)
実施場所	別府ブルーバード会館地下(別府市北浜1-2-12)
参加費	1,000円+1ドリンクオーダー制
内容	西野 達が今話したいゲストを招き対談を行うトークイベントとして、写真家、漫画家、アーティストなど多彩なゲストを招いて開催した。
第一夜	
日 時：10月28日(土) 18:00～20:00 ゲスト：藤田洋三(写真家) 参加者人数：34名 地元大分の歴史や文化を研究する写真家・藤田洋三氏を招き、藤田嗣治や岡本太郎、デビット・ホックニーなど過去に別府を訪れた数々の巨匠芸術家の逸話についてトークを行った。	
第二夜	
日 時：11月26日(日) 14:00～16:00 ゲスト：THE TETORAPOTZ(ハヤシヤスヒコ〈Paramodel〉、Mrs.Yuki、加藤 泉) 参加者人数：25名 著名アーティストによって結成されたバンド『THE TETORAPOTZ』を招き、メンバーそれぞれのアーティスト活動とバンドとしての活動を紹介するトークと、ライブパフォーマンスの2部構成で開催した。	
第三夜	
日 時：12月2日(土) 18:00～20:00 ゲスト：しりあがり寿(漫画家) 参加者人数：56名 漫画だけでなくとどまらず執筆、映像、アート、音楽など多方面で活躍するしりあがり寿氏を招いてのトーク。翌日同会場にて前日のトーク映像を鑑賞しながらしりあがり氏と西野 達が対談するという実験的な試みも行った。(参加者人数：30名)。	
第四夜	
日 時：12月23日(土・祝) 15:00～17:00 ゲスト：奈良美智(美術家) 参加者人数：82名 西野 達と古くから親交があり、日本を代表するアーティストとして世界的に知られる奈良美智氏を招き、2人の思い出話や最近の作家活動についてトークを行った。	
第五夜	
日 時：12月24日(日) 15:00～17:00 ゲスト：現代芸術活動チーム【目】 参加者人数：60名 昨年の『in BEPPU』招聘アーティストである【目】を招き、彼らの作家活動や別府の印象など、それぞれに『in BEPPU』を語り合う一夜となった。	

3-4. 運営について

関係者説明会	作品制作に関わる企業や地域のステークホルダー、ボランティアスタッフなど関係者向けに『西野 達 in 別府』開催概要の説明と、アーティスト本人によるこれまでの活動紹介や今回の出品作品の紹介を行った。 第1回：10月16日(月)19:00～20:30 場所：不老泉2階集会室(別府市中央町7-16) 第2回：10月20日(金)19:00～20:30 場所：別府市公会堂(別府市上田の湯町6-37)
総合インフォメーションセンター	JR別府駅構内に『西野 達 in 別府』『ベップ・アート・マンス 2017』の総合インフォメーションセンターを設置し、『西野 達 in 別府 アートまちあるきマップ』の配布や展示案内、イベント受付などを行った。 開設期間：10月21日(土)～12月24日(日)10:00～18:00 場所：別府市駅前町12-13
広報物作成	・Webサイト ・ポストカード ・『西野 達 in 別府』『ホテル裸島 リゾート・オブ・メモリー』共同チラシ(A4サイズ) ・見開きパンフレット(A4サイズ3ツ折り) ・ポスター(B2サイズ×3種) ・『西野 達 in 別府 アートまちあるきマップ』
ボランティアの状況	本実行委員会では、2012年よりボランティアスタッフを温泉の管理をする番台さんになぞらい『ばんだいさん』と呼んでいる。ボランティアは延べ83名が参加し、うち新規登録者は16名となった。活動内容は、作品制作補助、広報活動、展覧会受付業務、作品監視業務、展覧会案内、事務作業と多岐に渡った。
オリジナルグッズの製作	『西野 達 in 別府』の作品にちなんだオリジナルグッズを製作し、総合インフォメーションセンター、SELECT BEPPU、一部を『油屋ホテル』で販売した。コーヒーやタオルなど、地元企業とのコラボレーション商品も製作した。



関係者説明会の様子



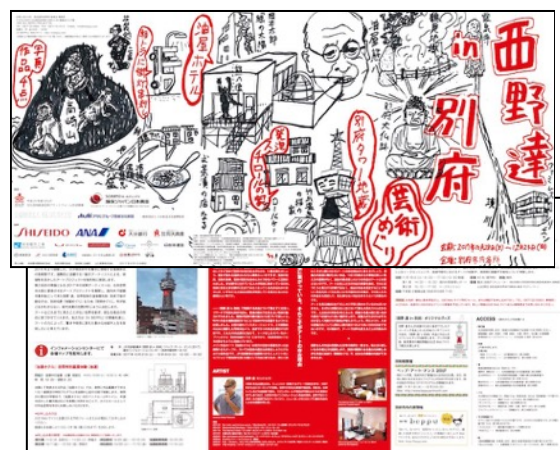
総合インフォメーションセンター



『西野 達 in 別府』『ホテル裸島
リゾート・オブ・メモリー』共同チラシ



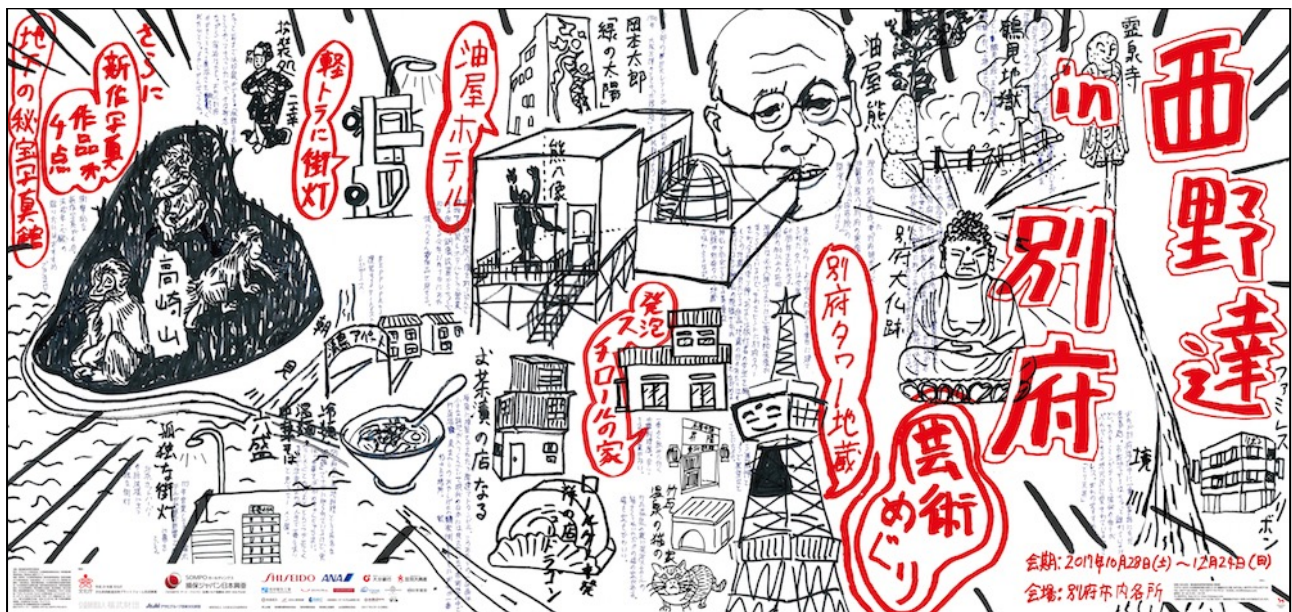
ポストカード



見開きパンフレット (A4サイズ3ツ折り)



Webサイト



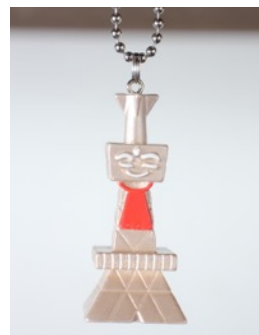
ポスター (B2サイズ×3種)



『西野 達 in 別府 アートまちあるきマップ』



オリジナルグッズ (一例)



左: Tシャツ 中央: 手ぬぐい 右: 『別府タワー地蔵』キーホルダー



左: マグカップ、コーヒー 中央: 石けん 右: タオル 『油屋ホテル』夜間特別鑑賞体験のアメニティとしても使用。

3-5. 関連展示と地域連携

1. 関連展示

『西野 達 in 別府』の会期中、以下の2会場で関連展示を行った。

会場	別府市まちなか交流館 (別府市元町5-18) 10:00~18:00 (月曜定休)
内容	『西野 達 in 別府』や油屋熊八、別府観光の歴史にまつわる資料を展示した。
	
展覧会ポスターを拡大印刷し、会期中作家が訪れる度に、気に入った町のポイントを描き加えていった。	作家直筆の『別府タワー地蔵』の顔はめパネルを作成し、入口に展示した。

会場	SELECT BEPPU 2階 (別府市中央町9-33) 11:00~18:00 (火曜定休)
内容	過去に別府で開催された文化芸術事業や、『混浴温泉世界』『in BEPPU』のアーカイブ展示として、当時の広報物や関連書籍、映像の展示を行った。
	
展示の様子	1階のセレクトショップでは『西野 達 in 別府』オリジナルグッズの販売を行った。

2. 地域連携

『西野 達 in 別府』を運営するにあたり、以下の通り地域の企業や旅館、商店、団体と連携することができた。

連携先	内容
JR九州(九州旅客鉄道株式会社)	『油屋ホテル』に設置した車椅子用電動昇降機の起動および、車椅子利用者のスロープの補助。
TOSテレビ大分	ドキュメンタリードラマ『〜油屋熊八伝 100年前、別府を世界に売り出した男〜』(2016)のDVDを別府市まちなか交流館での関連展示にて上映。
市内の旅館	『油屋ホテル』展示品として、市内3軒の旅館からソファや棚、調度品を借用。また『夜間特別鑑賞体験』の運営にあたり、ベッド用リネンの手配や室内清掃の協力。
市内の文房具店	『夜間特別鑑賞体験』での体験をつづるため、ポストカードと万年筆を提供。
まちあるき団体	まちあるきツアーを実施する団体『別府八湯語り部の会』『あさみ地域振興会』による『西野 達 in 別府』の作品を巡るルートの考案・実施。

3-6. 来場者について

1. 来場者数

会期中の総来場者は、13,391名(目標来場者数：11,136名)を数えた。

※来場者数は『油屋ホテル』来場者のみ計上している。目標来場者数は下記の通り算出した。

収容人数：8名(随時入れ替え)、1人あたりの滞留時間：20分、1日あたりの展示時間：8時間(10:00～18:00)、会期：58日間(10/28～12/24)

2. アンケート結果

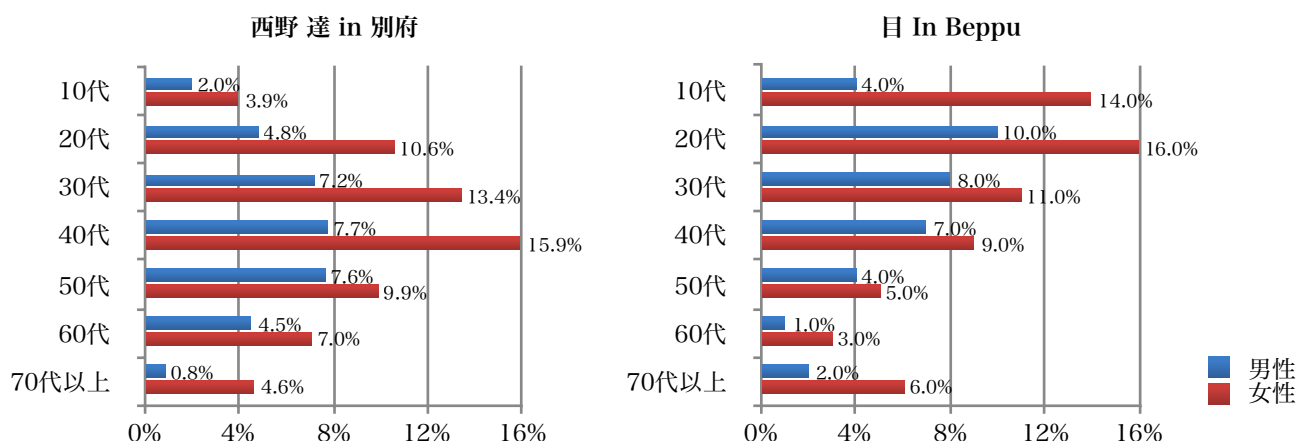
会期中、来場者へアンケートを実施した。回収枚数は825枚。比較のため昨年開催された『目 In Beppu』の回答も掲載する(『西野 達 in 別府』のアンケートとの比較項目がない回答は掲載しない)。

※小数点以下の記載のないものに関しては四捨五入している。

1. 年齢、性別、居住地、滞在期間
2. 『西野 達 in 別府』の評価
3. 2の理由
4. 感想や気付いた点
5. どこで知ったか(複数回答可)
6. 『混浴温泉世界』や『in BEPPU』に参加したか(複数回答可)
7. 『ベップ・アート・マンス』をいつから知っていたか
8. 『ベップ・アート・マンス』に以前も参加したことがあるか
9. 『ベップ・アート・マンス』をどこで知ったか(複数回答可)
10. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか
11. 『ベップ・アート・マンス』という取り組みへの評価
12. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか
13. 「別府は温泉観光地だけではなくアートの町でもある」というイメージを持っているか(2017年のみの設問)

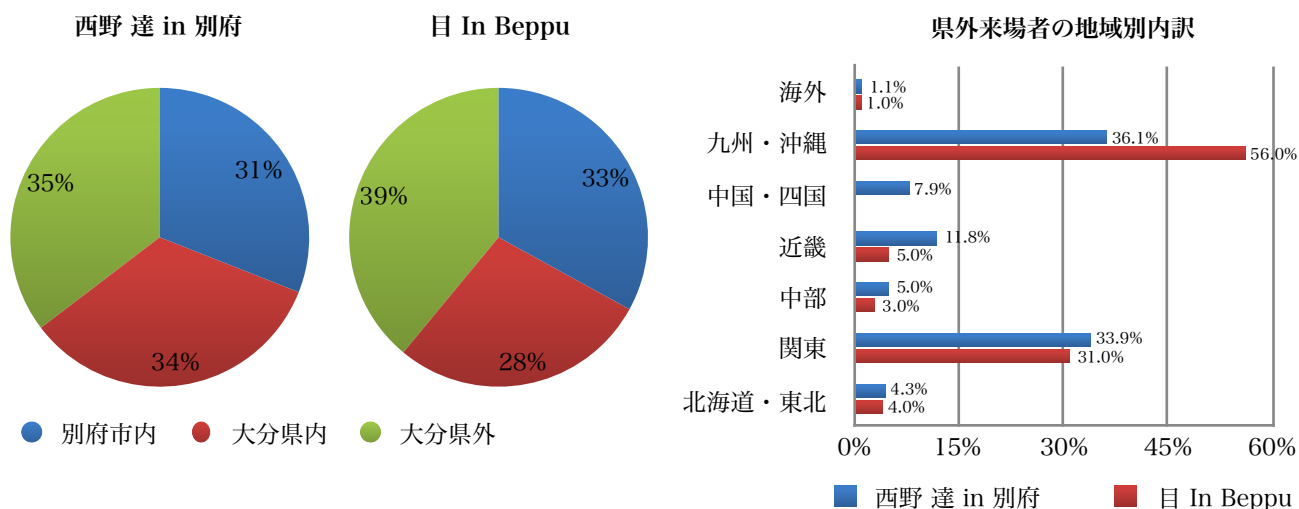
1-1. 年齢、性別

『目 In Beppu』では10～20代の女性の回答が多かったのに対し、『西野 達 in 別府』では30～40代の女性の回答が多い。



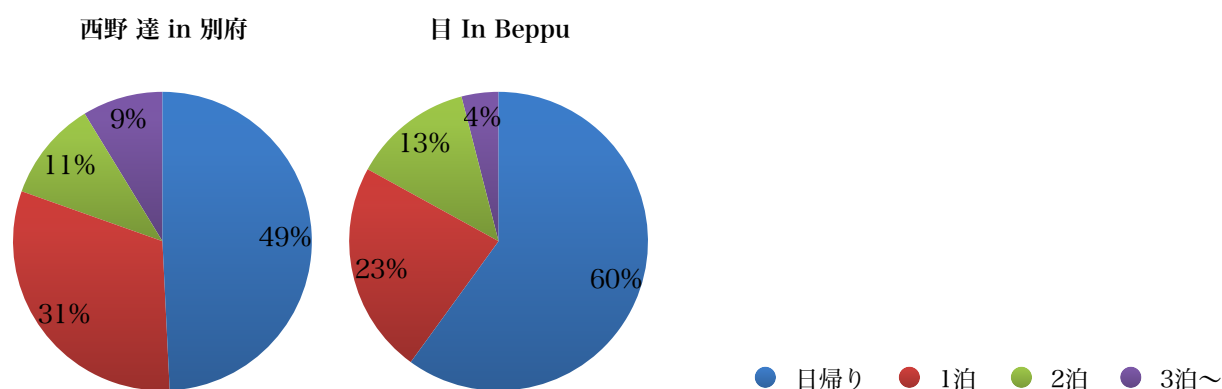
1-2. 居住地

居住地のバランスは『目 In Beppu』とほぼ変わらないが、地域別内訳を見ると、「中国・四国」「近畿」の回答が10%程度増加し、「九州・沖縄」の回答が20%減少している。



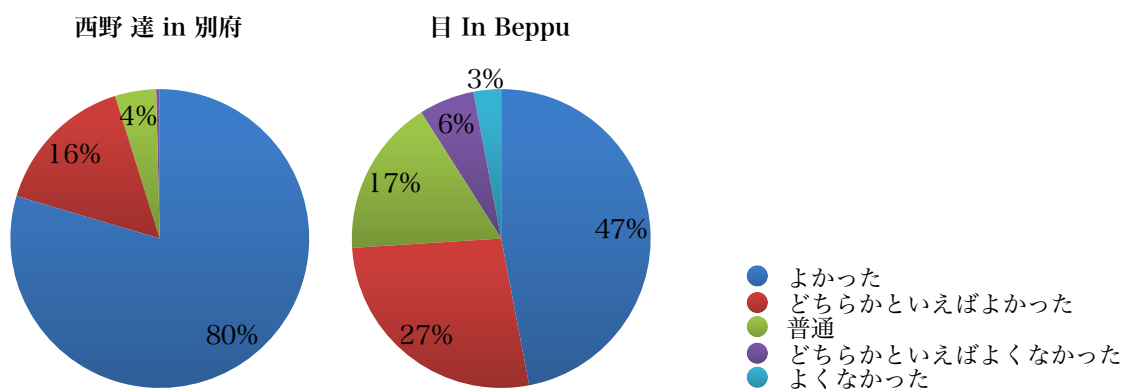
1-3. 滞在期間

『目 In Beppu』と比較すると「1泊」の回答が10%程度増加した。



2. 『西野 達 in 別府』の評価

『目 In Beppu』では「よかった」「どちらかといえばよかった」の回答の合計が74%であったのに対し、『西野 達 in 別府』では合計96%と、22%増加している。



3. 2の理由

- ・日常の中にいつもと違う驚きがある。
- ・普段見慣れている像が新鮮に感じられた。
- ・間近で像を見れたから。くつろげる空間がすごく良かった！
- ・いろんな所に作品があって、町の散策を兼ねて鑑賞できたのが良かった。
- ・別府に長年住んでいても行ったことのない場所を子どもと回れる機会ができて良かった。
- ・偶然立ち寄った駅前のプロジェクトを機に、1日の観光が温泉巡りだけでなく、アート観光にもなりました。
- ・別府をもう一度じっくり見る良い機会になり、作品も素晴らしかったです。
- ・別府は温泉だけでなくアートのイメージがついたと思う。
- ・大分市よりも別府市はエネルギーとエキセントリックさがあるので「らしい」と感じます。
- ・駅前に『油屋ホテル』があることで、駅に降りてすぐにイベントが開かれていることがわかり、別府にとっても興味を持つきっかけをもらえた。大胆で面白い。ある意味別府っぽい。

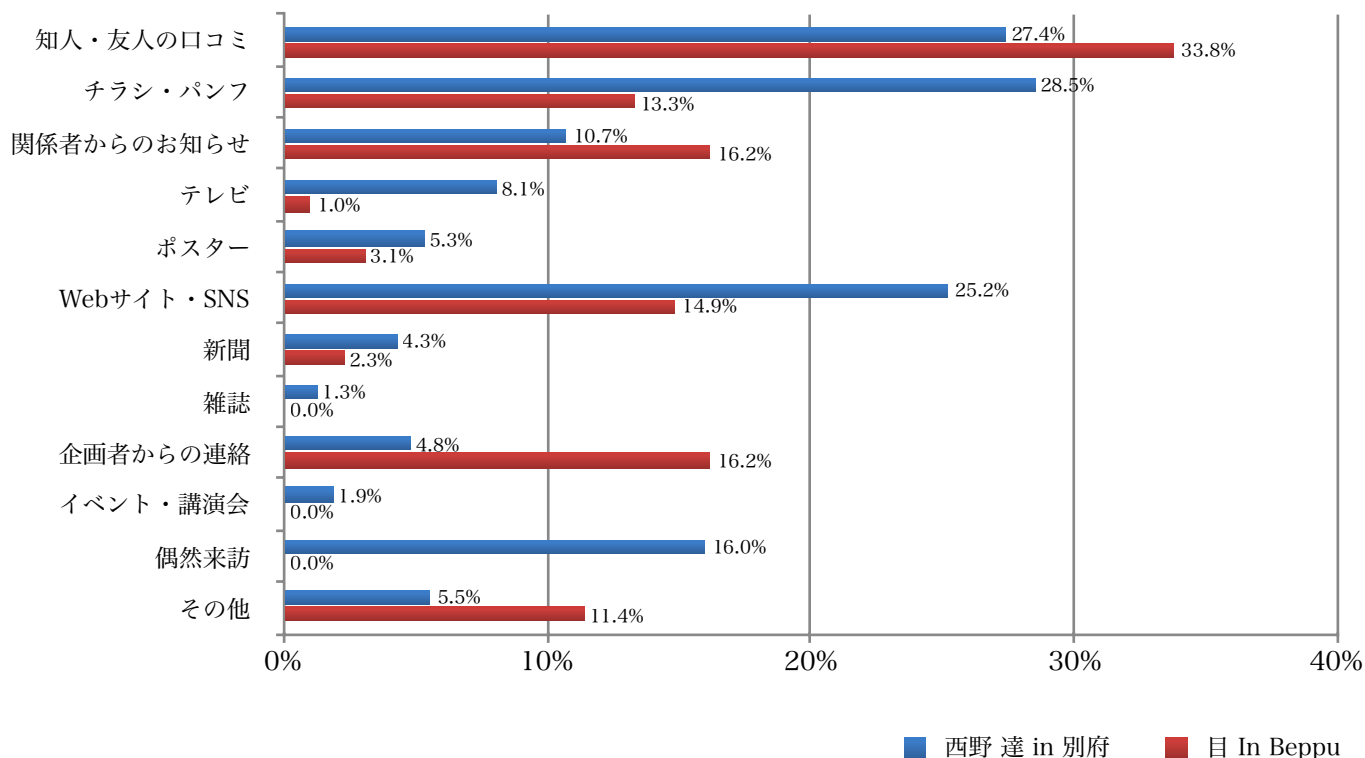
4. 感想や気付いた点

- ・一時的に作ったにしては素晴らしい建物で、取り壊すのはもったいない感じがしました。
- ・このまま残してほしい位素敵でした。
- ・『夜間特別鑑賞体験』は会期の週末だけでなく無休でやって欲しい。せっかく作ったので活用した方が良い。
- ・この会場を訪れて面白い企画だと知りました。2ヶ月で終わるとはもったいないと思いました。
- ・実際に夜から朝まで滞在出来るというのが素晴らしい!!
- ・『別府タワー地蔵』の可愛い遊び心が楽しい。
- ・ホテル形式にしたことが面白いと思った。
- ・半日でアート巡りができて気楽で丁度よい。
- ・体験型アートの楽しさを肌で感じた、大変貴重な時間でした。ありがとうございました。
- ・福岡在住ですが、このイベントを知らなかったのももったいないと思います。

(アンケートより原文を抜粋)

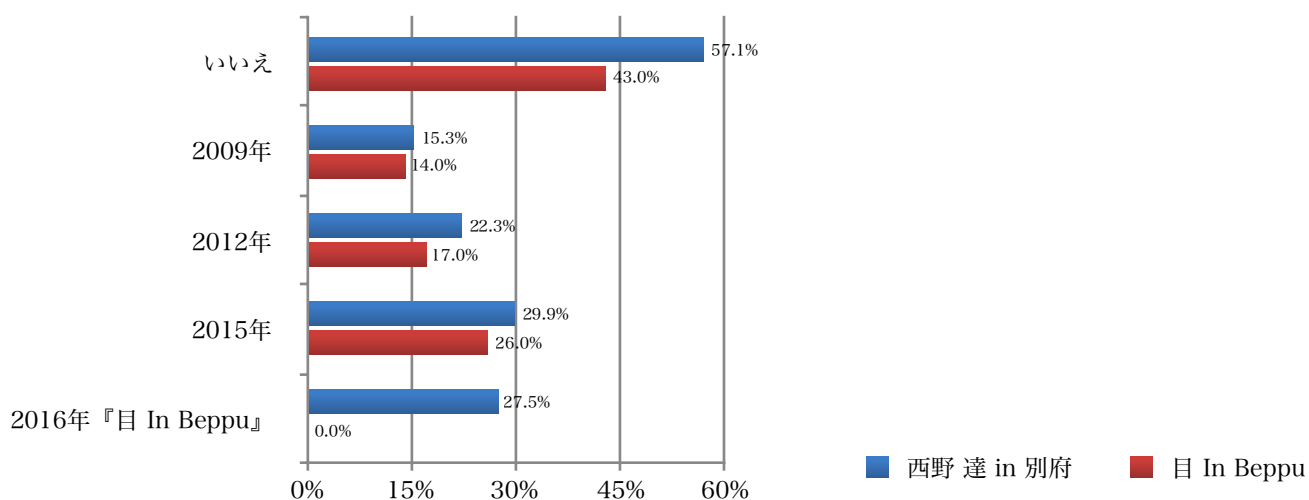
5. どこで知ったか(複数回答)

『目 In Beppu』では「知人・友人の口コミ」の回答が最も高かったのに対し、『西野 達 in 別府』では「知人・友人の口コミ」に加えて「チラシ・パンフ」「Webサイト・SNS」の回答が高く、3項の合計が全体の81%を占めている。また、駅前という会場の特性もあり「偶然来訪」の回答が16%もあった。



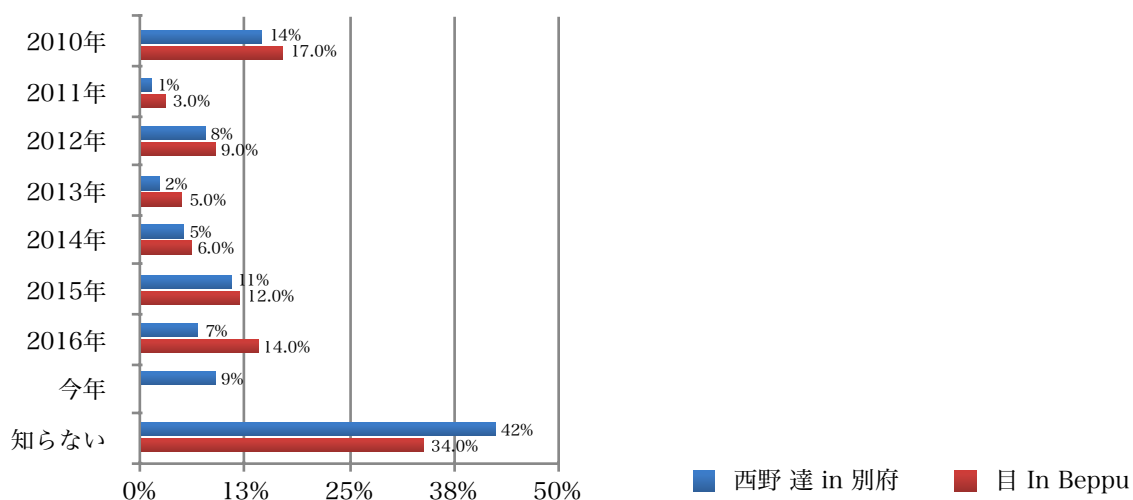
6. 『混浴温泉世界』や『in BEPPU』に参加したか (複数回答可)

『目 In Beppu』では「いいえ」の回答が43%だったのに対し、『西野 達 in 別府』では57%と14%増加している。



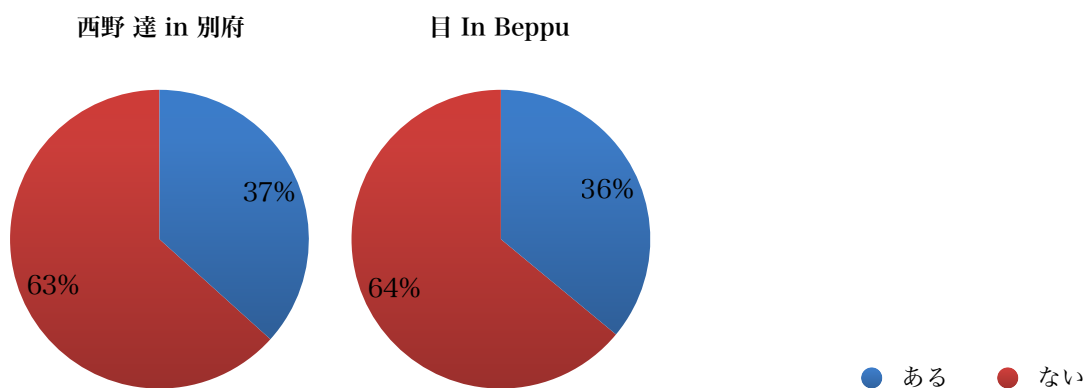
7. 『ベップ・アート・マンス』をいつから知っていたか

『目 In Beppu』と同様に、「知らない」の回答が多数であるが、知っていたなかでは「2010年」からの回答が最も多い。



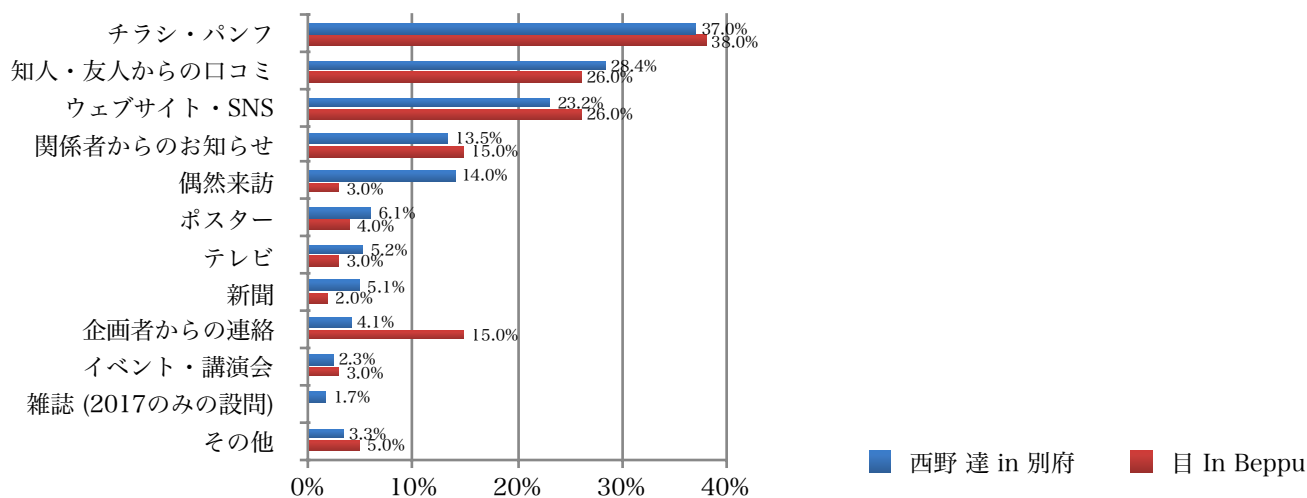
8. 『ベップ・アート・マンス』に以前も参加したことがあるか

回答のバランスは『目 In Beppu』とほぼ変わらない。



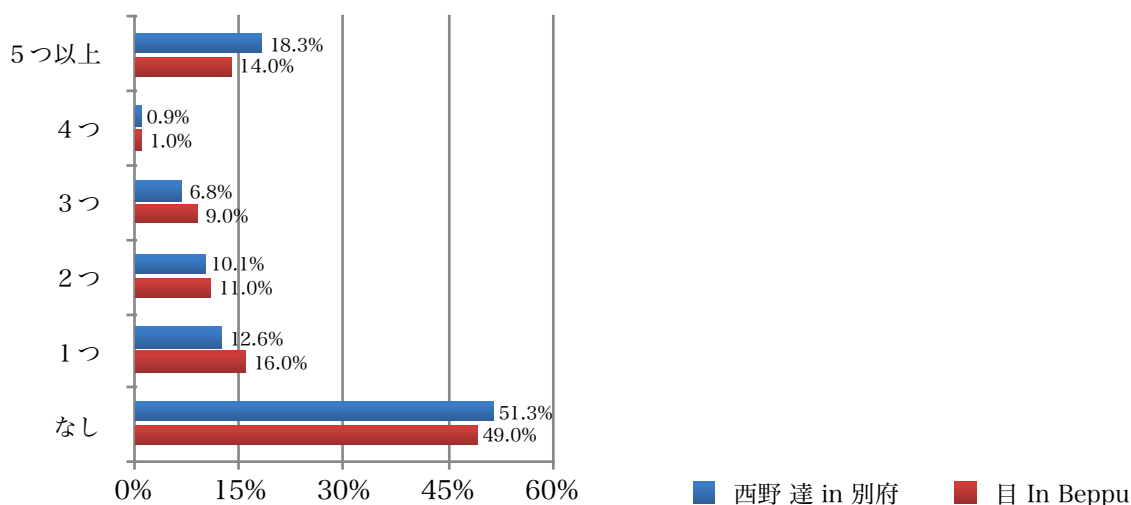
9. 『ベップ・アート・マンス』をどこで知ったか (複数回答可)

『目 In Beppu』と同様に、「チラシ・パンフ」の回答が30%を超えて高い比率となった。



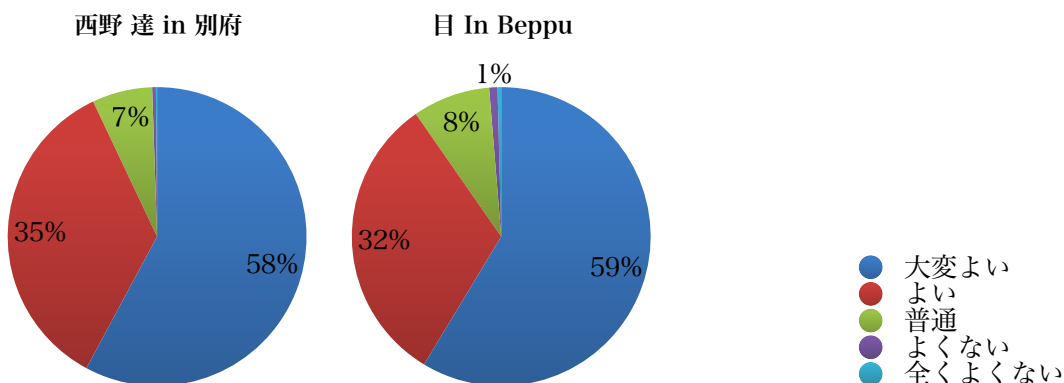
10. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか

「なし」の回答が5割を占めていた。



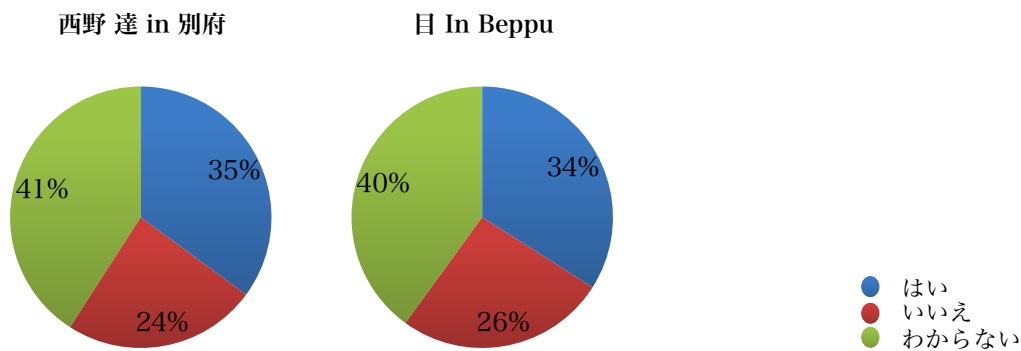
11. 『ベップ・アート・マンス』という取り組みへの評価

回答者の90%が『ベップ・アート・マンス』を高く評価している。「大変よい」「よい」の回答の合計が93%を占めている。



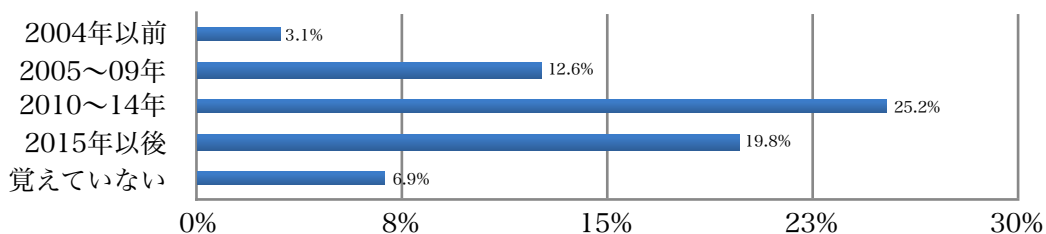
12. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか

「わからない」の回答が41%と一番高く、「はい」の回答は『目 In Beppu』とほぼ変わらない。



13. 「別府は温泉観光地だけではなくアートの町でもある」というイメージを持っているか (2017年のみの設問)

「いいえ」の回答が32%、「はい」の回答が68%であった。「はい」のうち、いつごろからそのイメージを持つようになったかを設問した内訳は以下の通りとなり、「2010～14年」が最も高い結果となった。



3. アンケート結果を踏まえた考察

まず、来場者の年代について、30・40代の女性を中心にバランスよく来場していたと考える。特に50・60代の割合が増加した理由として、主にアンケート調査を行った場所が『油屋ホテル』であったためと推測する。中高年やシニアの来場者はレセプションルームに設置されたソファに腰掛ける方が多く、会場スタッフも積極的にアンケート記入の依頼を行った。

次に、来場者の居住地の70%が「九州・沖縄」「関東」の内訳であったため、今後は関西の都市部や中国・四国地方に向けた広報にも注力する必要があると考える。2016年に比べて宿泊客が増加したことは喜ばしい点である。

『別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」』(2009、2012、2015年)では、全国各地で開催される芸術祭と同様に20代、30代の女性県外客が突出して多い傾向にあったが、『in BEPPU』では、年毎にその傾向が変化している。展覧会の内容や会場によって左右されるものと考え、継続的に観察・調査したい。

また、展覧会の評価は「よかった」「どちらかといえばよかった」の回答合計が96%と非常に高い結果となった。『芸術めぐり』をテーマにした回遊型の企画や、作家の大胆な発想により制作された作品が、鑑賞体験の満足度を高めた要因になったと考える。

『西野 達 in 別府』をどこで知ったかという設問については「チラシ・パンフ」「知人・友人」「Webサイト・SNS」「偶然大き訪」の順に回答が多い。今年度から『ベップ・アート・マンス 2017』『西野 達 in 別府』はInstagramでのSNS発信をそれぞれに開始し、会期中のスナップショットを配信していった。しかしフォロワーはまだ少なく、十分に活用できたとは言えない。情報発信の方法については今後も検討を重ね、設定したターゲットに確かに情報が届くように広報活動を行いたい。

また、来場者の半数近くが『ベップ・アート・マンス』の存在を知らず、認知が進んでいないことは大きな課題である。

『in BEPPU』の観客が『ベップ・アート・マンス』に積極的に参加したくなる仕組みをつくる必要がある。

そして、今年度から設問に加えた「別府は温泉観光地だけではなくアートの町でもある」というイメージを持っているか、については半数以上が「はい」と回答した。特に2010～2014年からイメージを持つようになった方が一番多く、これは『ベップ・アート・マンス』が2010年から休みなく継続開催されていることに加え、アートイベントが活発に開催され始めたことや『旅手帖 beppu』の発行(2011年)などにより、「アートの町・別府」としてのメディア露出が増えたことが起因していると考えられる。

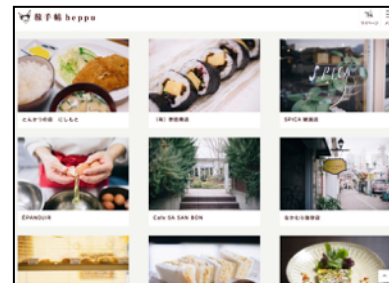
4-1. 情報発信事業

地域の魅力を発信するためにWebサイト『旅手帖 beppu』の記事の拡充と、外国人向けコンテンツ『豆知識 beppu』の活用を行った。

1. 『旅手帖 beppu』

今年度の取り組みとして以下の2点を行った。

- ①新規30件の取材・執筆を行い、合計記事数は86件+30件=116件となった。
- ②掲載記事の英語版を公開するためのWebシステムの構築を行った。

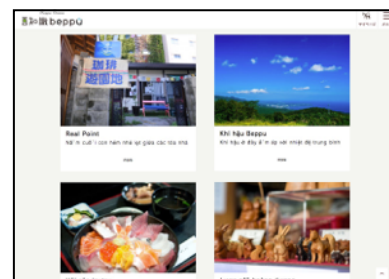


旅手帖beppu

2. 『豆知識 beppu』

立命館アジア太平洋大学言語教育センターが有志学生を対象に『豆知識 beppu』を取り入れた課外活動を考案・実施した。英語を学ぶ日本人学生と日本語を学ぶ留学生が『豆知識 beppu』で取り上げられているスポットを実際に訪れ、オリジナルのブログサイト『Mame Machi Meet-up!』内の記事を作成した。

来年度は『豆知識 beppu』の新しい記事を作成し内容を充実させ、観光協会や外国人観光客案内所などとも連携し、さらなる情報発信をはかりたい。



豆知識beppu

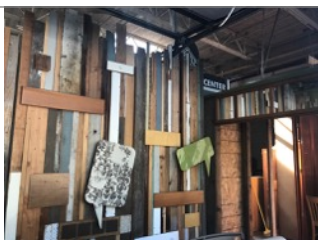


Mame Machi Meet-up!

今年度、『旅手帖 beppu』と『豆知識 beppu』はともにサイトの閲覧数が目標を下回る結果となった(目標閲覧数合計79,000ビューに対し、閲覧数合計53,000ビュー)。今後は記事の拡充を進め内容をより充実させるとともに、サイト自体の広報戦略について検討し、実践を重ね別府の魅力を発信するポータルサイトとしての認知度を高めていきたい。

1. ポートランドの視察報告

「全米で最も住みやすい都市」「全米で最も環境に優しい都市」「全米で最も自転車通勤に適した都市」など、数々の全米ランキング第1位に選ばれたポートランド。近年は日本でも、その都市の構造やライフスタイルが注目され、メディアに取り上げられることが増えてきている。2017年6月、さまざまな視点からクリエイティブな都市と評されるポートランドの魅力を探るべく、移住・定住促進の先進的事例として現地視察を行った。以下がその報告の一例である。

街のことを自分ごととして捉え、始まった活動	
市民主体で制作されたストリートペインティング。これは、交差点をカラフルにペイントしてドライバーの目を引くことで、スピードの出し過ぎを防ぐことができるのではないかというアイデアから始まった活動である。交差点の周辺にはカラフルなベンチや柱、アート作品なども設置され、地域住民が自らの手で住みやすい環境をつくろうとしていることが感じられた。	
コミュニティの場へ転化したコインランドリー	
『Spin Laundry Lounge』は、カフェやバーが併設されたコインランドリーである。開放的な空間には大きなソファが設置され、ビールを片手にくつろぐ人の姿も見られた。退屈なコインランドリーでの待ち時間を豊かなものへと転化するサービスだ。	
DIY精神が根付くポートランドのリサイクルセンター	
非営利団体の運営する建築資材リサイクルセンター『The ReBuilding Center』には、改装や解体で不要になった資材が大きな倉庫に所狭しと並べられている。不要となった廃材の利活用による環境配慮と、自らの手で工夫してより良くしていこうというDIY精神が融合された、ポートランドという都市の理念を具現化したような店である。	
ポートランドのものづくりを牽引する『ADX』	
昔から職人が多く、ものづくり文化が根付いていたポートランド。会員制メイカースペース『ADX』は、一般の人が気軽にものづくりを始められるコミュニティスペースとして、2011年に誕生した。現在400人を超える有料会員（ベーシック会員\$75/月）が所属しており、趣味として気軽にもものづくりを楽しむ人から本格的に職人を目指す人まで、利用の目的はさまざまである。	

上記のように、ポートランドでは住みやすい環境を自らの手でつくるという意識や、「足りないものは自分でつくる」というDIY精神が根付き、大手チェーン店などはほとんどなく、地元発のsmallビジネスが盛んであることがわかった。革製品、日用雑貨、アクセサリ、インテリア家具など、ものづくりの職人も多く、メイド・イン・ポートランド商品が日々生まれ、そのデザイン性やクオリティの高さで注目を浴びている。さらに、オレゴン州知事のトム・マッコール氏によるユニークな都市計画『都市成長境界線』を約40年かけて実現し、少し郊外に足をのばせば雄大な自然があるなか、都市機能を中心部に集中させることで、生活利便性を確保している。これらのライフスタイルに共感し移住する人も多く、現在ポートランドの人口は週に300人程増えているという。

ポートランドではその豊かさに魅せられて移住者が増加し、街に多様性やクリエイティビティが生まれることで、さらなる発展を遂げていると感じた。そして、市民が自分たちの街や暮らしを守ろうという意識が強く、自分たちが住む街のことを自分ごととして捉えている。その意識こそが、魅力的な街を形作るうえで重要だと考える。

また、『ベップ・アート・マンス 2017』期間中に『ポートランド視察報告会』を実施し、視察で学んだこと、感じたことについて混浴温泉世界実行委員会 総合プロデューサー・山出淳也が報告した。

2. 空き家物件所有者への意識調査

■ 調査目的

別府市が掲げる総合計画の『アートが溢れるまちづくり』の実現を目指し、クリエイター・アーティストを生み、育てていく環境整備の一環として、空き家物件の調査を行った。本調査は別府市内の空き家物件を発掘するとともに、今後、移住を希望するクリエイター・アーティストの受け入れ物件となる可能性を探るために、空き家物件所有者へ移住・定住に関するアンケートを実施するものである。

■ 調査概要

【現地調査】

2017年4月から6月にかけて、別府市内を実際に歩き、目視で空き家物件を抽出した。その結果をもとに空き家と推測される建物の登記記録を調べ、空き家物件所有者へアンケート用紙を郵送し、調査を行った。

【アンケート調査】

調査期間：2017年6月28日(水)～2017年8月31日(木)

調査対象：別府市内にある空き家物件の所有者

調査方法：郵送による調査 (200件)

回収数：36件

未回収数：91件 あて所なしで返還：73件 有効回収率：18%

1：アンケート調査を行ううえで見えてきた現状

登記記録で調べた物件所有者へアンケートを郵送したところ、「あて所に尋ねあたりません(あて先の住所に受取人が居住していない)」という理由で73件が返還された。主な理由としては、物件所有者が転居などにより登記住所を離れたものの登記記録の住所が更新されていないなどが考えられる。未回収分のうち、別府市内に居住している物件所有者には、電話もしくは訪問を行い、アンケートの協力を仰いだ。最終的に200件のうち、回収できた36件の分析を行った。

2：アンケート結果から見えてきた主な特徴

・建物の特徴

建築時期は約40～50年前の「昭和41年～昭和50年」が最も多く、所有者の54%が70歳以上と高齢者が半数以上を占める。現在居住していない理由として「居住者が病院や福祉施設に入った」「居住者が死去」など高齢化による要因の割合が高い結果となった。

・建物の賃貸・売却・譲渡の条件

提供するにあたり、建物の補修費用を所有者以外が負担する場合は「市場価格より安く賃貸・売却・譲渡してもよい」と回答した方は80%と高い割合となった。また前年度のアンケートより、クリエイター・アーティストは自由度が高く改装が可能な物件を求める傾向にあることがわかったが、「借主が費用負担する場合」は改装・補修が可能と回答した所有者が70%いるという結果となった。

・建物の利活用の意向

今後の管理や活用については「条件が合えば他の人に賃貸・売却したい」が36%、「あなたまたは関係者が利用する」が14%となり、将来的に賃貸・売却や自身・関係者の居住のために利用したいという考えが半数あり、所有者は何らかの活用を検討していることがわかった。

【インタビュー調査(追加調査)】

アンケート調査の回答者のうち、条件が合えばクリエイター・アーティストに賃貸もしくは売却を希望する空き家物件所有者1名に、追加調査を行った。

インタビュー結果

・空き家物件所有者について

鉄輪エリアにある旅館の持ち主。東京出身の72歳の男性で、34歳の時に東京の会社を退職し、夫婦で別府へ移住した。昭和54年に建物を購入してから現在まで旅館業に勤しんでいた。子どもたちは自立し東京で働いており、現在は夫婦2人で旅館を縮小営業している。旅館はいずれ賃貸もしくは売却する意向がある。夫婦どちらも元々、芸術や文化には関心がなかったそうだ。

・貸し出しを決めたきっかけ

年々旅館の客が減少していることから、貸し出しをすることで少しでも収入になればと考えた。この場所を大切に思っているので取り壊さずに活かせる方法を探していたところ、新聞で本事業の記事を見つけ、協力したいと思い連絡した。

・建物について

昭和40年代に建築された。代々旅館として使用されており、部屋数は12室ある。バスターミナルやコンビニエンスストアが近くにある。広い玄関の前に駐車場があり、道路に面しているため、大きな荷物の運び入れも可能。温泉や中庭があり、部屋の窓からは湯けむり越しの海という鉄輪ならではの景色が一望できる。

・制作環境について

借主自身で費用負担するのであれば、自由に改修・修繕可能。NGな制作分野(平面、立体、工芸、デザイン、映像、身体表現、音楽など制作分野における制限)も特になく、音や振動も迷惑をかけない程度(電動ドリル、ノコギリなど)であれば可能。

・クリエイター・アーティストの印象

特定の分野に優れている人、特殊な技能をもった人という印象。

・クリエイター・アーティストが居住することで、建物や環境がどのようになってほしいか

持ち主は建物や環境に対して大変思い入れがあり「若いクリエイター・アーティストが集まってくる清島アパートのような場所にすることで、温泉以外の文化的な面でも別府や鉄輪をアピールし、観光客にも見物してもらえるような場所にしたい」と考えている。

・困っていること

賃貸を検討しているが、高齢のため管理をすることが困難である。管理会社に依頼しようと考えているが、どこに相談すれば良いかわからないため、気軽に相談できる窓口がほしい。

以上、本調査の結果を別府市内の空き家物件とクリエイター・アーティストのマッチングに活かしたい。

第5章 共通の取り組み

5-1. 広報活動と開催効果

1. メディア掲載実績ならびに広告換算

2017年4月1日以降、新聞・テレビ・ラジオ・Webなどのメディアで、合計187回の掲載・放送があった。その結果を広告換算すると120,031,176円となった。

『目 In Beppu』は84,707,313円であり、今年の広告換算は2016年と比べると、35,323,863円上回った。

メディア媒体件数 (2017年4月～2018年1月)

(今年度事業 / 前年度事業)※1

	全国(回)	地方(回) ※3	媒体合計(回)
新聞	4/0	96/67	100/67
テレビ	0/0	14/6	14/6
ラジオ	0/0	2/3	2/3
雑誌	12/5	12/6	24/11
Web ※2	47/24	—	47/24
エリア合計	63/29	124/82	187/111

※1) 掲載・放送媒体件数は、『西野 達 in 別府』と『ベップ・アート・マンス 2017』を合算した数字。

※2) 今年度のWeb掲載件数は、オリジナル記事のみ集計し、記事を転載したWebサイトは除外している。

※3) 県内で取り上げられたニュースなども含める。また、掲載・放送実績が確認できているもののみ集計。

広告換算

メディア	掲載・放送(回)	換算金額(円)
新聞	100	79,308,639
テレビ	14	21,664,480
ラジオ	2	1,362,000
雑誌	24	12,265,886
Web	47	5,430,171
合計	187	120,031,176

(集計：株式会社 ジャパン通信社)

※3/22現在

主な掲載・放送先実績 (順不同)

新聞	朝日新聞、東京新聞、西日本新聞、上毛新聞、大分合同新聞、今日新聞
テレビ	テレビ西日本、NHK大分放送、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、CTBメディア
ラジオ	ラジオ関西、ゆふいんラヂオ
雑誌	BRUTUS、フィガロジャポン、OZ magazine、Numero TOKYO、Richesse、美術手帖、ソトコト、コロンプス、旅の手帖、地域創造レター、シティ情報おいた、市報べっふ、eyan、セーノ、モグモグ、ぐるり、遊・悠・WEST、タウン情報クマモト、ファンファン福岡
Web	朝日新聞、毎日新聞、西日本新聞、大分合同新聞、大分経済新聞、沖縄タイムス+、47NEWS、casabrutus.com、FIGARO.jp、Numero TOKYO、byron、HARBOR BUSINESS Online、男の隠れ家 ONLINE、美術手帖、JDN、artscape、TOKYO ART BEAT、ARTNE、ARTLOGUE、ART NAVI、Yahoo! ライフマガジン、じゃらん、ウォーカープラス、トリップアドバイザー、B to B プラットフォーム業界チャンネル、都市商業研究所、九州旅ネット、大分県民芸術文化祭、大分県芸術文化振興会議、オオイタカタテ!、日本一のおんせん県おいた、まなびの広場おいた、温泉ハイスタンダード! 極楽地獄 別府、べっふる、わくわくとんぼビデオ

※ 新聞・雑誌は出版社名ではなく、新聞・雑誌名で記載

2. 情報発信について

今回の事業での主な情報発信媒体は以下の通り。

公式Webサイト	当事業全般の情報を発信する公式Webサイト。	『ベップ・アート・マンス 2017』期間：4月1日～翌年3月7日 ・ユーザー数：9,213 (昨年度110,999)、ページビュー数：43,467 (昨年度2,164,676) ・アクセス元の国：43ヶ国 (昨年度48ヶ国) 『西野 達 in 別府』期間：6月15日(開設日)～翌年3月7日 ・ユーザー数：15,054 (昨年度6,687)、ページビュー数：19,652 (昨年度12,664) ・アクセス元の国：42ヶ国 (昨年度10ヶ国) ※参考元：グーグルアナリティクス解析
Facebook	イベント情報や、来場者などとのコミュニケーション、公式情報以外の町の状況や作品の制作状況などを発信。	『ベップ・アート・マンス 2017』期間：4月1日～翌年3月7日 ・「いいね」数：851 ・4月1日以降の新規「いいね」数：98 『西野 達 in 別府』期間：4月1日～翌年3月7日 ・「いいね」数：726 ・4月1日以降の新規「いいね」数：183
Twitter	イベントの最新情報を発信。	『ベップ・アート・マンス 2017』期間：4月1日～翌年3月7日 ・ツイート数：1795、フォロワー数：938 ・4月1日以降の新規フォロワー数：50 『西野 達 in 別府』期間：4月1日～翌年3月7日 ・ツイート数：1439、フォロワー数：2642 ・4月1日以降の新規フォロワー数：55
Instagram	イベントの最新情報や会期中の会場の様子を発信。	『ベップ・アート・マンス 2017』期間：10月11日(開設日)～翌年3月7日 ・投稿数：117、フォロワー数：178 『西野 達 in 別府』期間：8月25日(開設日)～翌年3月7日 ・投稿数：63、フォロワー数：167

5-2. 観光消費額

1. 観光消費額

別府市観光戦略部観光課が作成した『平成28年別府市観光動態要覧』に掲載されている1人あたりの消費額〈宿泊客：25,585円、日帰り客：5,737円〉を基に算出すると、今年度は324,566,551円となった。昨年度の56,326,863円※と比較すると268,239,688円増加した。

※昨年度の観光消費額は『別府市 平成27年観光動態要覧』〈宿泊客：26,169円、日帰り客：5,436円〉を基に集計。

2. 地域内消費額

来場者の地域内での実質的な消費額を見るために、事務局独自の算出方法を下記の様に設定した。

1泊2日	宿泊費7,000円+交通費2,000円+飲食費5,000円+お土産代3,000円=17,000円
2泊3日	宿泊費14,000円+交通費2,000円+飲食費10,000円+お土産代3,000円=29,000円
3泊4日	宿泊費21,000円+交通費2,000円+飲食費15,000円+お土産代3,000円=41,000円
日帰り	交通費500円+飲食代2,000円+お土産代2,000円=4,500円

上記の設定を基に算出した『ベップ・アート・マンス 2017』ならびに『西野 達 in 別府』の地域内消費額は、200,839,000円となった。『別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会 平成28年度事業報告書』によると、昨年度事業の地域内消費額は78,503,000円であるが、今年度の算出方法と異なる。昨年度事業を今年度の算出方法で計算し比較すると、54,355,000円となり、今年度は146,484,000円増加した。

		客数 (人)		1人当たりの消費額 (円)	消費額 (円)	合計 (円)
『ベップ・アート・マンス 2017』 (A)	宿泊客	1泊	110	17,000	1,870,000	8,621,000
		2泊	44	29,000	1,276,000	
		3泊	33	41,000	1,353,000	
	日帰り客	916		4,500	4,122,000	
	小計	1,103				
『西野 達 in 別府』 (B)	宿泊客	1泊	4,151	17,000	70,567,000	192,218,000
		2泊	1,473	29,000	42,717,000	
		3泊	1,205	41,000	49,405,000	
	日帰り客	6,562		4,500	29,529,000	
	小計	13,391				
観光消費額 (A)+(B)		200,839,000				

【客数の算出方法】

(A)…『ベップ・アート・マンス 2017』の述べ来場者数10,005名のうち、『西野 達 in 別府』に参加せず『ベップ・アート・マンス 2017』のみに参加した純粋な客数を以下の計算式で算出した。

$$10,005 - (13,391 \times 0.5 \times 2) = 3,309 \quad 3,309 \div 3 \times 2 = 1,103$$

※1)『西野 達 in 別府』総来場者数13,391名のうち、『西野 達 in 別府』アンケートで「ベップ・アート・マンス 2017に参加した」と回答したパーセンテージの人数

※2)『ベップ・アート・マンス 2017』の1名あたりの平均参加プログラム数

アンケート結果の宿泊／日帰りの比率から、泊数ごとの客数を算出した。

(B)…『西野 達 in 別府』の総来場者数13,391名のうち、アンケート結果の宿泊／日帰りの比率から、泊数ごとの客数を算出した。(B)は『ベップ・アート・マンス 2017』と『西野 達 in 別府』両方に参加した客数と、『ベップ・アート・マンス 2017』に参加せず『西野 達 in 別府』のみに参加した客数を含んでいる。

第6章 収支状況

収支としては、75,109,462円の収入に対して、75,109,462円の支出となり、収支差額0円となった。

1. 収入

負担金	大分県	¥45,000,000
	別府市	¥20,000,000
	実行委員会参画団体	¥210,000
助成金		¥4,950,000
協賛金		¥2,590,000
グッズ販売費		¥1,140,648
参加費		¥325,500
その他		¥893,314
計		¥75,109,462

2. 支出

旅手帖beppu Web 制作事業	¥1,972,800
ベップ・アート・マンス 2017 開催事業	¥7,090,393
in BEPPU 開催事業	¥41,613,683
定住促進調査事業	¥300,000
事務局運営費	¥16,997,345
広報費	¥7,135,241
計	¥75,109,462

3. 収支差額

収入	¥75,109,462
支出	¥75,109,462
収支差額	¥0

第7章 まとめと課題

2010年から継続開催する『ベップ・アート・マンス』は、今年度で8回目を迎え、1ヶ月の開催期間の中では過去最多のプログラムを実現することができた。これは市内の文化芸術におけるさまざまなプレイヤーが育った成果だと考える。しかしながら、事務局業務の質の改善や、プログラム企画者とのより密接な関係の構築、さらなる事業周知活動など、課題も散見される。

また、その中核事業として開催する『in BEPPU』は、西野 達氏を招聘し中心市街地を舞台にアートプロジェクトを展開した。さまざまなイベントを通しアーティストや作品についての理解を深める場を設けるなど、市民や来場者に向けた情報発信に工夫を凝らしたことにより、概ね好評を得ることができたと感じている。氏にとって過去最大規模の個展となった本展は、多くのメディアにも取り上げていただき、当初予定していた目標数を超える13,391名の来場者を迎えることができた。さらに、1人のアーティストにフォーカスするというこの新たな取り組みは2年目を迎え、徐々に地域に浸透し始め、多くの方々のご理解とご協力を得ることができた。これは作品の質の向上にも繋がったと考えている。この結果が評価され、氏が平成29年度芸術選奨・文部科学大臣賞(美術部門)を受賞したことは我々事務局にとっても大きな成果である。

しかしながら、『ベップ・アート・マンス』『in BEPPU』を始めとした当実行委員会事業の質をさらに高めるためには、事務局の至らない部分を増強していかなければならない。事業を遂行する事務局体制の強化や、スタッフそれぞれの目的意識の向上など、多数の課題が眼前にある。

そこで我々は、現状の課題を明らかにし事務局の成長を当実行委員会の目指すべきビジョンの達成に直結させていきたいと考え、2011年度より利用していた事業評価シートの改定を行うことにした。これは、与えられる評価ではなく、事務局スタッフにとって「活動の心得」「道しるべ」として機能する評価指標となるものである。

作成にあたってはアーツ・コンソーシアム大分 事務局長三浦氏にご協力いただき、事務局との全5回に及ぶワークショップを通じ評価シートを造成した。次の章からはこの評価シートの作成の意図や経緯を明らかにし、これを県内や全国の文化事業の評価モデルとして活用していただくことを望む所存である。

8-1. 評価のフレームワーク

1. 評価の対象

混浴温泉世界実行委員会（以下、実行委員会）が主催者となって実施する事業『混浴温泉世界実行委員会事業』を評価対象とする。実行委員会事業は、『ベップ・アート・マンス』と『in BEPPU』、ならびに両事業に関連して実施される情報発信事業、定住促進事業から構成される。

2. 評価の位置づけ

今回の事業評価は（1）事前評価、（2）中間評価の2段階から構成される。

（1）事前評価：バランス・スコアカードの再構築

2017～2020年度までを対象期間として、実行委員会事業の評価システムを新たに設計する。評価システムとしては、実行委員会事業が従来から活用してきたバランス・スコアカード（後述）の高度化を図ることを念頭に置く。この評価は、実行委員会事業が生み出す成果を年度ごとに評価するための方法論をあらかじめ設定するものであり、事業の事前評価であると位置づけられる。

（2）中間評価：バランス・スコアカードに基づく2017年度実績の評価

こうして再構築されたバランス・スコアカードに基づき、2017～2019年度の各年度末に中間評価を、2020年度末に事後評価を行うことを想定する。今回は『ベップ・アート・マンス（以下、BAM）2017』ならびに『西野 達 in 別府』という2017年度実行委員会事業の実績を踏まえて、初年度の中間評価を行うものである。

3. 評価の主体

実行委員会事業に対する評価は、アーツ・コンソーシアム大分による第三者評価として実施する。アーツ・コンソーシアム大分は、大分県、大分県立芸術文化短期大学、大分県芸術文化スポーツ振興財団の3者からなるコンソーシアム（共同事業体）型の組織として、2016年6月に設立されたものである。

従来から大分県では、民間団体や有識者との協働のもと、彼らの知見・ネットワークを活用し、効果的・効率的な文化施策の推進に努めてきた。一方で、これらの取り組みにおける評価や民間資金獲得の手法などに関する調査研究については、実施ができていなかった。

アーツ・コンソーシアム大分は、こうした問題意識を踏まえて、大分県内で実施されるアートプロジェクトに対する評価手法の検討と試行を行うこととしており、今般、実行委員会事業を対象に評価を行ったものである。評価実務は、アーツ・コンソーシアム大分 事務局長の三浦宏樹（大分県芸術文化スポーツ振興財団 アーツラボラトリー室 室長、日本評価学会認定評価士）が担い、後藤 麻里恵がアシスタントとして業務のサポートを行った（以下、両名を評価者という）。

評価者は、アカウンタビリティの観点から評価としての厳格さを保ちつつも、評価結果が実行委員会事業に有効に活用され、学び・改善の契機となるよう、事務局スタッフらに評価プロセスに積極的に参画させる参加型評価（Participatory Evaluation）を実践することとした。特に、実行委員会事業が、アートという新たな価値を創出するイノベーションであることを踏まえて、こうした事業の評価に向くとされる発展的評価（Developmental Evaluation）※1)の考え方を採り入れた。

1. バランス・スコアカードとは何か

実行委員会は、2011年度の『BAM』以降、バランス・スコアカード (Balanced Scorecard=BSC) の考え方を導入した評価を始めている。BSCは、ロバート・S・キャプランとデビッド・P・ノートンが考案した企業の業績評価・戦略経営支援システムである。民間企業の業績評価では伝統的に、損益財政という「財務の視点」が重視されていたのに対して、キャプラン&ノートンは、この「財務の視点」に加えて「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「学習と成長の視点」もあわせて総合的に業績評価を行うことが重要だと説いた。そして、組織の業績を総合的にみるこうした手法は、利益追求を目的としない公的組織の経営や評価にも役立つとの考え方から、内外の行政機関や非営利組織でも検討・導入がなされた経緯がある。実行委員会は、こうしたマネジメント志向の評価システムの導入に積極的に取り組んできたところである。

2. バランス・スコアカードの改訂に向けた準備 (2016年度)

2016年度の評価に際して、実行委員会ならびに事務局のBEPPU PROJECTからは、従来のBSCに満足することなく、さらなる高度化を図りたいとの問題意識が寄せられた。これまでのBSCは、ステークホルダーに対して実行委員会事業の業績をわかりやすく伝達する仕組み、すなわちアカウンタビリティ確保を主目的とした業績評価システムとしては、一定の役割を果たしてきたと判断される。しかし、事業の経営基盤を強化し、事務局スタッフや関係人材の成長を促す、戦略経営支援システムとしてはいまだ不十分だというのだ。

来場者数や経済波及効果は、事業の実施年だけで完結するものであり、こうした短期的・定量的な効果だけでなく、中長期的・定性的な効果も重視すべきである。また、経済波及効果の多寡だけでは「文化になぜ投資するのか」という問いに答えることができない。東京オリンピック・パラリンピックが催される2020年以降も、実行委員会事業が自立性、持続可能性を高めてレガシー（未来に継承される財産）となっていくには、BSCの各視点において、人材の成長と経営基盤の強化にフォーカスした目標設定と、定期的なモニタリング、業務改善が求められる。このため実行委員会は、2016年度の『in BEPPU』（目 In Beppu）を実証実験と位置づけ、その実績を踏まえて実行委員会事業のビジョンの再定義と、BSCの基礎となる戦略マップ (Strategy Map) の作成を行った。^{※2)}

(1) ビジョンの再定義

実行委員会事業の新たなビジョンは、次のとおりである。

ビジョン『観光地型・文化芸術創造都市としての別府』

全国的な観光地であり、震災を免れ外国人が多い地域性を活かした多様な文化の取り組みと、地域資源を融合させた事業によって、新たな魅力の造成と市民意識の醸成を図るとともに、携わる人材が生き生きと活躍し続ける、市民中心都市・別府の実現を目指す。

【芸術振興】優れた作品の鑑賞機会充実と若手作家の応援

【観光推進】観光地別府の新たな魅力発信事業として活用

【人材育成】多様な事業の現場を学びの場として活用

【地域活性】文化芸術を地域活性化の核として活用

(2) 戦略マップの作成

民間企業の場合は中長期的な利益の最大化が重要なため、BSCの4視点の中でも財務の視点を最終目標に置く。これに対し、公的機関や非営利組織は、利益追求が目的ではないため、最終目標としてミッションやビジョンに関する視点を新たに加えることが多い。実行委員会事業では、この5番目の視点を「地方創生の視点」としている。また標準的BSCの「学習と成長」「業務プロセス」「財務」「顧客」の4視点についても、より実態にあわせて「マネジメント」「財政」「ステークホルダー」「観客」とした。標準的BSCの「学習と成長」「業務プロセス」を「マネジメント」に統合し、「ステークホルダー」を新たに項目立てしたかたちである。

戦略マップは、BSCの5つの視点ごとに複数個の戦略目的を設定し、目的間の因果関係を矢印で結んだマップである。2016年度に作成された戦略マップにおける戦略目的は次のとおりである。

【地方創生の視点】別府における諸課題の解決

戦略目的：地域のまちづくり人材の育成／別府の新たな魅力創出／集客交流人口の多様化／他地域との連携による滞留時間の増加／創造的人材の移住促進

【観客の視点】文化芸術や地域資源を活用した新たな魅力の創出

戦略目的：市民にとっても間口の広い事業の充実・強化／国際的に発信力の高い事業の創出／事業や地域情報を発信するメディアの開発

【ステークホルダーの視点】創造都市プラットフォームの造成

戦略目的：地域内の創造的人材の拡大／文化芸術団体との連携／海外機関との連携／自治体・企業・団体との連携

【財政の視点】財政基盤の確立

戦略目的：協賛金の獲得／チケット販売力の強化／負担金など基礎的財源の獲得

【マネジメントの視点】実行体制の確立・強化

戦略目的：ボランティア組織の強化／外部マネジメント人材の育成／事務局体制の強化／広域連携を促進する専門的人材育成／実行委員会体制の強化

（3）バランス・スコアカードの検討作業

BSCは、以上のビジョンと戦略マップを踏まえ、戦略目的ごとに「目指すべき具体的な姿」を定め、その達成度を測定する業績評価指標（Key Performance Indicator＝KPI）を選んで、目標値を設定したものである。

BSCの計画期間は、2016年度実績を起点として、東京オリンピック・パラリンピックにともなう国の文化プログラム重点実施期間である2020年度までの間に、年度ごとに達成すべき目標値を設定する。この期間には大分県内で、2018年度の国民文化祭、2019年度のラグビーワールドカップなど、大型の文化・スポーツイベントが相次ぐため、そうした中で実行委員会事業がどう成長していくかを示すことが重要である。なお、戦略目的1つに対して、目指すべき具体的な姿、KPIは1つとは限らず、複数の指標を設定する場合もある。

BEPPU PROJECTの山出代表理事は、BSCの概略イメージを示した素案を作成してスタッフ間で検討するよう指示したが、年度末の短期間ではスタッフ間で合意を得られる内容にまとまらなかった。このため2017年度に入ってから、評価者をファシリテーターとしてスタッフと意見交換を行いながら、BSCの構築を目指すこととした。

3. バランス・スコアカードの改訂（2017年度）

評価者は2017年6月、BEPPU PROJECTのアートプロジェクト事業班（実行委員会事業を担当）の統括担当者らと、BSC策定のためのワークショップの進め方について協議を行った。そのとき、スタッフから、新たなビジョンと戦略マップが十分腑に落ちていないところがある、自らがBSC素案に示された取り組みを実際に行うイメージが湧かない、現場感覚と齟齬のある指標があるといった意見が出ていることがわかった。

このため、スタッフと丁寧に議論・検討していくことが不可欠と考え、全4回構成のBSCワークショップを7月に開催することを計画した。

（1）バランス・スコアカード ワークショップの開催

BSCワークショップは、BEPPU PROJECTオフィスの会議室にスタッフを集めて行った。スタッフから率直な意見を出してもらうため、代表理事の出席は求めず、彼にはスタッフから随時検討状況を報告し、スタッフ側で把握していない方針・論点があれば後で代表に確認してもらうこととした。また、ワークショップの場で出た意見は、当方で整理してBSC改訂に反映させ、次回ワークショップ冒頭で改訂内容をスタッフに示して納得してもらったうえで、次のステージに進むこととした。

第1回ワークショップでは、統括担当者から実行委員会事業のビジョンを各スタッフに説明してもらい、その後に当方から、評価やBSCの概要・意義などについて基礎的なレクチャーを行った。こうした情報共有を踏まえ、代表理事が作成した戦略マップの全体構成や、それぞれの戦略目的の妥当性について議論を行った。その結果、たとえばステークホルダーの視点に「情報発信に関わるステークホルダーとの連携（メディアなど）」が欠けているなどの建設的意見が寄せられた。

また、評価対象はBEPPU PROJECTという「組織」ではなく、混浴温泉世界実行委員会事業という「事業」であったため、第1回ワークショップはアートプロジェクト事業班の担当者数名を対象として開催した。しかし、その後にスタッフ間で打ち合わせた結果、全スタッフが参加・合意できるものとしたいとの申し出があり、これを快諾した。ただし、全スタッフの日程を調整するのは難しいので、欠席したスタッフには出席者から補講を行い、合意形成と意見の汲み上げを図る仕組みとした。

第2回以降のワークショップでは、BSCの視点ごとに、目指すべき具体的な姿とKPIのあり方について意見交換を行った。このとき5つある視点のいずれから始めるのが適切かについて、おそらく一律の正解はない。ただ今回の場合、日常業務の負担が増えるのではないかという論点が、スタッフの懸念事項であったことから、そうした業務を何のために行うのかという目的を共有することが優先であると判断した。このため、①地方創生、②観客、③ステークホルダー、④財政、⑤マネジメントの視点という、ビジョンに近いところから徐々にブレイクダウンしていくステップを採用した。

ワークショップでは、目指すべき具体的な姿が目標として妥当か、その姿を定量指標で適切に表現できるか（意味のある指標か／指標を測定可能か／定性指標に変えるべきではないか）など、間違いに意見が交わされた。また、毎年度の目

標値については、①期間前半に急ピッチで進展、②期間中直線的に進展、③期間後半に急ピッチで進展、④現状水準を維持、⑤2018年度(国民文化祭)と2020年度(東京オリンピック・パラリンピック)に重点化といった具合に、2020年度までの成長ルートを類型化して議論を行った。そうした中、特に①の類型の目標の中には、達成するには追加的な予算確保が前提になるとの意見が付されたものもある。

定量データの入手方法については、来場者数の測定、来場者(BAM&in BEPPU)やプログラム企画者(BAM)へのアンケート、メディア掲載記事の収集・保存など、従来から調査していたデータに加え、新たに測定すべき指標の入手方法も検討した。一部指標については、来場者アンケートやプログラム企画者アンケートに質問項目を追加することとした。

ワークショップは1回あたり2時間を原則としたが、実際には議論が3時間近くにおよんだ回もあった。また、ある程度は想定範囲内だったが、4回ですべての検討を終えることができず、9月にもう1回追加して全5回構成でワークショップを終えた。

(2) 新バランス・スコアカードの内容調整

そうした作業を経て9月下旬の実行委員会にて、BSC原案の報告を行った。重要な取り組みであると評価された一方で、「KPIが多すぎるので、重要なものに絞り込もうでしっかりフォローアップすべき」との指摘も寄せられた。というのも、実行委員会に報告したBSCでは、KPIの数は定量・定性をあわせて実に92指標に達していたのだ。ワークショップを通じてスタッフ参加型で組み上げた原案ではあったが、できあがったBSCを眺めると、確かに代表理事もスタッフも評価者も同感であった。このため委員の意見を踏まえて、より実効性のあるBSCへとブラッシュアップしていくこととした。

しかし、この前後から『西野 達 in 別府』(会期10/28~12/24)、『BAM 2017』(会期11/1~12/3)の準備が本格化し、スタッフはそちらに全力を投入することが求められた。このため、BSC改訂作業はいったんストップすることとした。評価者は、さまざまなプログラムの開催状況を実体験して質的評価の相場観を自分なりに形成するモードへ作業の重点を移行し、会期中に幾度も別府へ足を運んだ。

そして2018年1月から、スタッフとの協議を再開した。会期中に実施したアンケートも順次集計が進み、その結果をみながら今年度の事業実績の分析方法や、BSC簡素化の考え方などを随時スタッフに提案した。このように、スタッフや代表理事との協議を重ねてBSCのブラッシュアップ作業を進め、2018年3月の実行委員会に報告を行った。こうして完成した改訂版のビジョン&戦略マップと、BSCを本書巻末に添付している。

BSCでは、当初92指標あったKPIの数を71指標まで絞り込んだ。内訳は、定量指標が45、定性指標が26である。定量指標のデータ入手方法については、従来から集計・分析を行っている来場者アンケートやプログラム企画者アンケートのデータが中心であり、データ収集に新たに大きな負担がかかるものではないと考えている。定性指標は定量指標の6割弱の数にとどまるが、データの入手については、事業終了後にスタッフやステークホルダーから情報を得て実態を把握する必要がある。

(3) バランス・スコアカード再構築の発展的評価としての特色

さて、今回のBSC再構築を「発展的評価」として実施したと述べたが、それは具体的にどういうことなのかを説明したい。

発展的評価とは、著名な評価コンサルタントであり、全米評価学会会長をはじめ評価関連の要職を歴任したマイケル・クイン・パットンが提唱した評価の考え方である。この発展的評価が国内外で注目を集めている背景には、世間に溢れる数多くの評価が、評価指標の機械的な収集と大部な評価調書の作成が自己目的化した「評価のための評価」になってしまい、せつかくの評価結果が、評価対象事業者にも資金提供者にも十分活用されていない現状がある。こうした現実への反省を踏まえて発展的評価は、評価としての厳格さは保ちつつも、事業者が事業運営・組織経営にその結果を活かせる実用重視の評価を目指す。そのために発展的評価は、大まかに整理して①複雑な現実世界への適応、②事業者に寄り添う伴走評価という2つの特色を持つ。

① 複雑な現実世界への適応

従来型の評価では、事業が終わってから初めて、計画どおりの成果が出ているか否かを検証する場合が多い。しかし、現実の世界は複雑で、事業を実施しているあいだにも、周りの経済社会環境は常に変化していくため、こうしたタイプの評価では事業の改善・革新の役に立たない。このため発展的評価では、事業をめぐる変化を適切に捉え、その事実や意味合いをリアルタイムで事業者にフィードバックし、彼らのイノベーションを促進することを目指す。

② 事業者に寄り添う伴走評価

発展型評価においては、定型的な評価データの収集だけではなく、事業に生じるさまざまな変化の芽を的確かつタイムリーに把握することが求められる。そのため評価者は、事業が実施される現場に赴き、スタッフをはじめステークホルダーとチームを組んで評価を行う「参加型評価」を実践する。このため評価者には、伝統的な評価技法に加え

て、ワークショップ運営などのファシリテーション技術が求められる。また、こうした取り組みにはしばしば、事業者と長期的に関係を継続することが必要になる。

評価者は今回、こうした発展的評価の考え方を十分意識して、BSC再構築作業に取り組んだところである。2016年度に作成されたビジョン、戦略マップを踏まえつつも、それらが実行委員会事業の現場でいかなる意味を持つかを、事務局スタッフが参加するワークショップで議論していった。さらに、その場での意見や気づきを評価者側で整理して、リアルタイムでのフィードバックを心がけ、スタッフにとって納得感のあるBSCとなることを目指した。代表理事がトップダウンでBSCを示すのではなく、スタッフ1人ひとりの意識の醸成・改革を大事にして、単にタスクを機械的に消化するための道具ではなく、スタッフにとって「活動の心得」「道しるべ」となるBSCをつくろうとした。

ただ、ここで疑問を持つ方もいるかもしれない。BSCは、多数のKPIを設定して定量的な目標管理を行うもので、ある意味、計画経営の権化ともいえる手法である。一方で発展的評価は、事業が置かれた状況が様変わり（develop）し、予想もしないさまざまな問題が勝手気ままに起きる（これを創発性＝Emergenceと呼ぶ）中で、事業者の意思決定を継続的かつリアルタイムで支援するものである。ならば、BSCと発展的評価は、水と油の関係なのではないか？ 結論から言えば、決してそうではない。そもそも、この事業に限らずアートプロジェクトというものは――ストレートに言えばアーティストという存在は、創発性の塊である。アートとは新たな価値を不断に創出していくプロセスであり、ある種のイノベーションといえる。このため、事前に100%を計画することは困難だし、あえて強行すれば、予定調和なありきたりの成果しか生まない。しかし一方で、アートプロジェクトには会期や予算が決められている。それらを守ったうえで、最終的に実現を図るべきビジョンが存在している。

ここで、アーティストとスタッフの関係を、小説家や漫画家と、担当編集者のそれになぞらえてみるとわかりやすいかもしれない。作家の意向に最大限寄り添い執筆を支援するのが編集者の仕事だが、その挙げ句、雑誌のめ切を破り原稿が落ちてしまつては元も子もない。作家に自由に創作してもらうためにこそ、編集部にはマネジメントが必要になるのだ。

すなわち、創発性重視の発展的評価と計画性重視のBSCとは、アートプロジェクトの戦略経営を図るうえで車の両輪といえる。すなわち、アートという創発性・革新性が鍵となる実行委員会事業を支えるBSCのシステム変更を、発展的評価を用いて支援したのが今回の取り組みということになる。

（4）別府モデルの普及に向けて

こうした別府の業績評価・戦略経営支援システムがモデルとして県内や全国に広がり、どんどん活用してもらいたいと実行委員会では考えている。さらにこのモデルが、地域住民や自治体はもちろん国に対しても、文化へ投資を行う意義・効果を説明し、文化政策を推進するためのアドボカシー（政策提言）ツールとしても機能することを期待している。もちろん、小規模なアートプロジェクトの場合、実行委員会事業と同じスペックでBSCを導入するのは難しいだろう。しかし、文化による豊かな地域社会を創造するうえでは、アートが本質的に持つ創発性と真摯に向き合う必要がある。そのためには、社会的インパクト評価が軸足を置きがちな成果（アウトカム）の事前／事後評価にとどまらず、マネジメントのプロセスを継続的かつリアルタイムで評価してイノベーションに繋げていく必要があろう。そうした観点からは、ミッション、ビジョン（地方創生の視点）、受益者（観客の視点）、関係者（ステークホルダーの視点）を見据えつつ、それと並行してプロセス（マネジメント、財政の視点）の適否や課題をあわせて評価する『混浴温泉世界型BSC』のフレームワークは、アートプロジェクトの評価システムとして広く応用が利くものと考えている。

『BAM 2017』ならびに『西野 達 in 別府』を中心とする2017年度の実行委員会事業の実績を踏まえて、BSC計画期間初年度の中間評価を行う。それぞれのKPIについての詳しい計画・実績対比は、本書巻末に掲載している。以下では、BSCの5つの視点に掲げる戦略目的ごとに、評価結果の概要を記していく。

ちなみに、『in BEPPU』は『BAM』の登録プログラムの1つとして位置づけられている。そうした点を踏まえて、前年度の実績報告書では基本的に、『BAM』の実績(来場者数やアンケート結果)の中に、『in BEPPU』も含めて計算・表示していた。しかしながら、『in BEPPU』と他の『BAM』登録プログラムでは事業性格がかなり異なることに加えて、特に『in BEPPU』は年度ごとのスタイルも大きく変化する(2016年度の予約ツアー方式、2017年度の市街地展開)ことから、双方を合算した数字で時系列データを比較すると、ミスリーディングな結果を導きかねないことが判明した。このため、今回掲載した『BAM』のデータは、2016・17年度ともに『in BEPPU』を含まないベースで集計してある。

1. 評価結果の概要

バランス・スコアカードによる評価結果の概要

	評価結果
地方創生の視点	- これまでの実行委員会事業を通して「アートの町・別府」のイメージが浸透(来場者の7割弱が認知)。 『BAM』にプログラム企画者として参加した市民は、日常的にも地域活動に熱心(49%が会期外に地域活動に参加)。 『BAM』一般参加者の34%は次回、企画者サイドでの参加を希望。
観客の視点	『西野 達 in 別府』の来場者数は目標を上回り(達成率120%)、観客の評価も高い結果(満足度95%)となった。アートの力を改めて印象づけ、芸術祭に新たな地平を切り開いたとして、西野達は、平成29年度芸術選奨・文部科学大臣賞(美術部門)を受賞。 - 今回で8回目となる『BAM』は、おおむね予定どおりに実施された(来場者数達成率101%、観客満足度91%)。 - 情報発信事業については、メディア露出を広告換算した結果は120百万円となり、前年実績(85百万円)と目標(93百万円)を上回った。『旅手帖 beppu』については、さらなるコンテンツの充実と認知度の向上に努めるべきである。
ステークホルダーの視点	『BAM』に登録するプログラム企画者とは、『BAMをつくろう会』(年間18回開催)などを通じて連携を深め、満足度や次年度参加意向が90%超となった。 - アーティスト・イン・レジデンス事業や県アートマネジメント講座の運営を通じて、文化芸術の担い手の育成・支援を行った。 - 文化芸術団体、海外機関、行政機関、企業、各種団体との連携も図っている。
財政の視点	- 実行委員会事業の実施に要する財源を確保。 - 協賛・助成金については、県内企業への新規営業を行い、協賛・助成金総額は目標を上回る754万円を獲得。
マネジメントの視点	『in BEPPU』の円滑な企画運営などを通じて、大規模事業の統括を担えるリーダーが成長したことは特筆に値する。 - 情報インフラ整備や定型業務のマニュアル化を通じた進行管理・情報共有は一定の進展をみたが、スタッフ間の精度のばらつきもみられ、今後の改善が必要。 - ボランティアについては、これまでの『in BEPPU』は結果的にさほど多くの人数を必要としなかったが、次年度以降の事業展開も念頭に置いて、今後のボランティア・マネジメントのあり方を検討すべき。
教訓と提言	- アーティストの自由で多様なアイデアの発露をサポートするとともに、市民や観客との接点を具体的にづくりこんでいく取り組みが必要。 - バランス・スコアカードは今回作成して完成ではなく、毎回の『in BEPPU』の具体的な内容や実行委員会事業を取り巻く環境の変化を踏まえた柔軟な見直しが必要。

2. マネジメントの視点：実行体制の確立・強化

(1) 事務局体制の強化

この項目では、情報システム・インフラ整備を通じた情報共有と業務遂行の質の安定、大規模な事業を実施できる組織体制への成長、そしてスタッフ全員が心身ともに健康に働くことを目指している。

実行委員会事業のうち特に『in BEPPU』は、混浴温泉世界の全3回の開催を通じて見いだした「身体性を重視すること」「量よりも体験の質を重視すること」「地域性を活かすこと」の3つの方向性を踏襲し、1組のアーティストを招聘してこれまで以上に別府にフォーカスする、エッジの効いたプロジェクトを実施するものである。このためスタッフは、新たな価値を創出しようとするアーティストのチャレンジ、イノベーションにこれまで以上に寄り添い、その実現をサポートすることが求められる。一方で、『in BEPPU』にはスケジュールや予算が決められており、それ以外の実行委員会事業や、BEPPU PROJECTが手がける他事業との調整が求められることも多い。そのために、事業の進捗管理と情報共有が必要不可欠である。アートプロジェクトのマネジメントには、非定型で臨機応変な対応を求められるクリエイティブな業務が多いが、そこに投じる時間を捻出するためにも、定型化できる仕事については、マニュアル化・効率化を図ることが望ましい。

このため事務局では今年度、進捗管理ソフトを導入して各事業担当者が進捗表を作成した。しかし、その活用や更新頻度についてはスタッフによってばらつきがみられ、今後の徹底が必要である。指示系統の明確化については今年度より、主に実行委員会事業を担当するアートプロジェクト事業班と、クリエイティブ産業振興などを担当するクリエイティブ事業班の2班体制を導入し、班ごとに会議を持ち、指示系統を明確にした。また、アートプロジェクト事業班では、制作物・提出物作成において「決済何書」を班内で回覧するルールを新たに設け、品質の向上と、班内のスタッフ間における相互チェック機能の向上を図ったが、ルールがまだ徹底されておらず、書類作成の精度やチェック能力もスタッフによってばらつきがあるので、なお一層の改善が求められる。

大規模な事業を実施できる組織体制へと成長を遂げるうえで、それら事業の統括が担えるリーダーの育成が重要である。そうした観点からは、『西野 達 in 別府』という大規模な個展を成功させたアートプロジェクト事業班統括のリーダーシップは大きい。なお、実行委員会事業の一部を担当したクリエイティブ事業班においても、同班の主要事業を成功裡に実施することで、リーダー育成が図られた。このように今年度、2人のリーダーの成長は目覚ましかったと判断する。さらに、事業遂行のための資金確保には、助成金の申請書を作成できるスタッフの育成も重要である。こうしたスキルについては、全職員の33%が獲得したと評価できる。

今後、スタッフが自らを成長させるための機会提供やその仕組みづくり、勤労意欲の向上、労働環境の改善などについても検討していくことが重要である。

(2) 実行委員会体制の強化

この項目では、実行委員会に参画する各組織へ事業内容が浸透し、事務局スタッフだけではリーチしにくい業務内容に、実行委員が関わり進めていけるようになることを目指している。

各組織内における実行委員会事業の情報共有・広報活動については、実行委員会の開催以外に、事業の進捗報告を一斉メールで送るなどしている。今後、部会を編成して業務内容ごとに関係する各委員が積極的に関わる仕組みを設けることも考えられるが、現時点では検討に至っていない。

(3) 広域連携調整能力の強化

この項目では、県内他地域の行政・アート組織との強い信頼関係の構築や、全国の行政・アート組織とのネットワークおよび調整能力の向上を目指している。

大分県内の行政機関に対しては、BEPPU PROJECTで手がける他事業で関係した職員に実行委員会事業の案内を行った。県内アート組織に関しては、大分県主催のアートマネジメント講座の企画運営などを通じて、相互交流を図り、関係性を築くことができた。全国的ネットワークについては、他のエリアの講座にスタッフが参加して広報を行うなど、相互交流の機会を設けている。

(4) 外部マネジメント人材の育成・発掘

この項目では、簡易な制作業務を委託できる人材が県内に複数生まれること、制作のプロフェッショナル人材とのネットワーク構築、プロジェクトを推進できるマネジメント人材とのネットワークの構築、外国語対応が可能な企画・制作補助スタッフが複数生まれること、記録・広報のためのコンテンツを制作する人材とのネットワーク構築を目指している。こうした人材に、仕事を提供することを通じて育成・発掘していくことが重要である。

現在、簡易な制作業務を委託できる県内クリエイター・アーティスト2人、制作のプロフェッショナル人材5人、プロジェクト・マネジメント人材5人、記録・広報の専門家23人とのネットワークを構築している。

(5) ボランティア組織の強化

この項目では、ボランティアが自らの活動にやりがいを感じながら参加することを目指している。

ボランティアが参加しやすくなる仕組みづくりとして今回、クラウドベースでボランティアの参加とそのシフトを管理するソフトを導入した。ただし、『西野 達 in 別府』では会期中、アルバイトを中心とした会場運営を行ったため、管理ソフトが活用される機会は少なかった。そうした意味で今年度は、ボランティアは会期中よりも日常的な業務の場面でのニーズがあった。そうした作業に積極的に参加してもらえるボランティアは現在、5人ほどいる。

このように、これまでの『in BEPPU』は事業の構造上、『混浴温泉世界』ほどのボランティア人数を結果的に必要としなかったが、次年度以降は再び必要性が高まることも考えられる。そうした点を踏まえて、今後のボランティア・マネジメントのあり方を検討していくべきであろう。

3. 財政の視点：財政基盤の確立

(1) 協賛金・助成金の獲得

この項目では、県内・全国の企業と信頼関係構築による協賛・助成の獲得や、事業に共感した個人の寄付の獲得を目指している。

協賛・助成金の依頼においては、県内企業4社に新規営業を行うなどした結果、総額で754万円と目標を上回る金額を得ることができた。個人向けの寄付窓口開設については次年度、その費用対効果も含めて必要性を検討すべきである。

(2) チケット・グッズ販売力の強化

この項目では、基礎的なチケット販売数の確保や、チケットを買いたいと思える仕組みづくり、グッズの収益源化を目指している。

『西野 達 in 別府』は、次のような理由から前年の『目 In Beppu』と同様に入場料を徴収しないこととした。

- ・メイン作品である『油屋ホテル』は、別府駅前広場という公共空間に設置される。また、別府のシンボルとして市民から愛され、観光客の撮影スポットにもなっている油屋熊八像を長期間、建屋内に囲い込む。
- ・『別府タワー地蔵』をはじめとする他の作品は、基本的に屋外に展示される。

その代わり、『西野 達 in 別府』ではグッズ販売を充実させることとした。予算上の目標は300万円と設定したが、実績は114万円にとどまっている。

(3) 負担金など基礎的財源の獲得

この項目では、適切な予算の確保を目指している。

最終的に、実行委員会事業を行ううえでの基礎的な財源の確保が図られた。

4. ステークホルダーの視点：創造都市プラットフォームの造成

(1) 地域内の創造的人材の拡大

この項目では、アーティストや愛好家だけでなく、一般市民も文化活動に携わるようになることを目指している。

事務局では、『BAM』に登録するプログラム企画者への情報提供、自発的交流の場として『BAMをつくろう会』を定期的に開催しているが、今年度は18回（前年・目標とも12回）の開催を行い、参加率は30%（前年27%、目標30%）となった。また、登録プログラムの質の向上のためのマニュアル作成に取り組み、今年度は安全管理マニュアルの作成・提供を行った。

こうした活動を踏まえて、『BAM』のプログラム企画者側の『BAM』という取り組みへの満足度（96%）、登録してよかったかの満足度（94%）、次回も『BAM』に登録したいと答えたプログラム企画者の比率（95%）はいずれも目標（90%超）を達成した。これまで『BAM』に登録した団体のうち今回継続参加した団体は48団体、今回新規に登録した団体は45団体（前年40団体、目標44団体）となっている。

なお、若手アーティストの滞在制作の場である『清島アパート』は、88%の入居率となっている。

(2) 文化芸術の担い手の育成・支援

この項目では、若手アーティストの発表の場をつくることや、県内外で広域的にアートマネジメント人材が成長することを目指している。

BEPPU PROJECTは今年度、アーティスト・イン・レジデンス事業『KASHIMA』において、2組の国内アーティストを海外に派遣するとともに、海外アーティスト2組を別府に招聘して発表を行った。また、アートマネジメント人材の育成に向けては、BEPPU PROJECTが県からの委託を受けて、第2期のアートマネジメント講座・入門編を開催したほか、第1期生を対象とした実践編も開講したところである。

(3) 文化芸術団体との連携

この項目では、県内の既存文化芸術団体・施設との協力体制の構築を目指している。

今年度は、今までやりとりのなかった市内文化施設との情報・意見交換を行った。その結果が即座に実行委員会事業に繋がるものではなかったが、今後の連携に向けた関係構築はできたといえる。

(4) 海外機関との連携

この項目では、海外関係者との交流が進み、別府が日本におけるアートの先進地と評価されることを目指している。

今年度は、ベネチア・ビエンナーレ、ドクメンタ、ミュンスター彫刻プロジェクトといった欧州各地の芸術祭を視察し、現地の関係者と交流した。さらに定住促進事業において、先行事例としてポートランドを視察するとともに、別府市内の空き家物件所有者への意識調査を行った。

海外視察対応としては、別府市と関係が深いニュージーランド駐日大使(同国ロトルア市が姉妹都市)、英国バース市(姉妹都市)の前・市長の『in BEPPU』視察を受け入れている。

(5) 行政機関・企業・団体との連携

この項目では、自治体における文化芸術の必要性が向上し果たす役割が担当課以外にも拡大されること、企業における文化芸術の価値が向上し具体的な動きが起ること、各種団体における文化芸術の理解が進みそれぞれが創造的な連携を行う下地がつくられることを目指している。

文化芸術担当課以外の行政機関との連携については、実行委員会事業に関連して、別府市の建築指導課、温泉課、秘書広報課(油屋ホテル)、公園緑地課(次年度事業)などと連携を行った。また、BEPPU PROJECTとして連携した、県商工労働部(クリエイティブ産業振興事業)、県の国民文化祭・障害者芸術文化祭局(福祉・障がい者芸術関連事業)にも実行委員会事業の周知を行った。民間企業については、大分県から委託を受けたクリエイティブ産業振興事業の企画運営を通じて、多数の企業との連携が深まり、事業周知の機会となった。各種団体との関係強化については、自治会長集会、通り会などに実行委員会事業の周知を図ったほか、県内大学・短大の学生向けに講義や作品案内ツアーを行っている。さらに、『西野 達 in 別府』の作品制作にあたり、重要な地域のステークホルダー向けに西野 達本人による事業説明会を2度開催した。

このように各方面に向けて、作品制作に際しての協力関係の構築や、事業への理解の深化に努めている。

(6) 情報発信に関わるステークホルダーとの連携

この項目では、メディアなど情報発信に関わる人材との付き合いが日常的にでき、『in BEPPU』などを広報する際にしっかり報道してもらえる体制が整っていることを目指している。

このため、『BAM』以外の期間を含めて記者との日常的・系統的な連携を心がけ、随時情報提供に努めてきた。こうした結果、メディア掲載件数は187件(前年111件、目標150件)となった。

5. 観客の視点：文化芸術や地域資源を活用した新たな魅力の創出

(1) 市民にとっても間口の広い事業の充実・強化

この項目では、『BAM』が、鑑賞者にとって参加しやすく、体験してよかったと思える事業に成長することを目指している。

『BAM』のプログラム企画者の設定した観客数目標の達成率は101%となり、おおむね予定どおりの集客ができたものと判断される。一方で観客満足度(「大変よい」「よい」の合計)は91%(前年97%)であった。9割台はキープしたものの、「大変よい」の割合が減少(72%→56%)している。この傾向が次年度以降も続くかどうかは、注視すべきだろう。

また、前年は市民が関わる余地が少なかった『in BEPPU』においても、今回は作品への協力、関連展示、まちあるきツアーなどを通じて、地域の企業、旅館、商店、団体との連携を行い、事業に対して地域や市民が関わる幅を広げることができた。

(2) 国際的に発信力の高い事業の創出

この項目では、『in BEPPU』が、国際的に評価の高いアートプロジェクトとして位置づけられることを目指している。

今年度の『西野 達 in 別府』は、国際的に活躍するアーティスト西野 達の最大規模の個展として話題を呼んだ。もともと別府市内に大型作品1つを設置する構想であったのが、西野 達が幾度も別府を訪れるうちにその魅力に囚われ、『油屋ホテル』に加えて、『別府の魅力から逃れられるか?』『別府タワー地蔵』『残るのはいい思い出ばかり』『西野 達 秘宝写真館』といった具合にまちなかに複数の作品が展開し、温泉の『地獄めぐり』ならぬ『芸術めぐり』が実現した。ユニークな発想と大胆な仕掛け、公共空間に介入し日常的な観念をくつがえそうとするこれらの作品は、積

極的に観客を取り込み、アートの力を改めて印象づけるとともに、芸術祭に新たな地平を切り開いたと高く評価され、西野 達 は平成29年度芸術選奨・文部科学大臣賞(美術部門)を受賞した。

今年度のこうした成果を踏まえ、事務局は、2018年度の『in BEPPU』に招聘するアーティストの調査・交渉も順次進めているところである。

(3) 事業や地域情報を発信するメディアの開発・発信

この項目では、『旅手帖 beppu』が、別府における最も充実したポータルサイトとして認知されるようになるとともに、『BAM』、『in BEPPU』などの情報が全国に発信されることを目指している。

『旅手帖 beppu』については、紹介店舗数は目標を上回ったものの、特集記事の更新はできておらず、閲覧数も目標を下回った。コンテンツの充実を図るとともに、ポータルサイトの認知をより高めていく必要がある。

一方、『BAM』、『in BEPPU』のメディア露出を広告換算した結果は120百万円となり、前年実績(85百万円)と目標(93百万円)をともに上回った。前回の『in BEPPU』が作品内容の情報拡散を禁止したのに対して、今回の作品はまちなかのオープンスペースに展開したため、メディアからの注目を集めたといえよう。

6. 地方創生の視点：別府における諸課題の解決

(1) 地域のまちづくり人材の育成

この項目では、文化活動を行う人材が主体的にまちづくりに参画することを目指している。

『BAM』観客のうち次回は企画者側で参加したいと思った人は、全体の34%となり目標(40%前後)をやや下回ったものの、これまでの『BAM』(2010～2016年)の平均並みの水準を維持した。また、今回新たにプログラム企画者に「BAM登録者のうち、最近1年間で地域活動に参画したか否か」を尋ねたところ、49%が参加したという結果となった。次年度に、『BAM』のプログラム企画者が会期以外に開催する文化活動情報を登録・広報できる『ベップ・アート・ナビ』が稼働することで、こうした取り組みのさらなる活性化が図られることを期待したい。

(2) 別府の新たな魅力創出・発信

この項目では、『BAM』が別府の秋の恒例行事として位置づけられること、『in BEPPU』の定着により別府市がエッジの効いた質の高いアート体験ができる町として認知が広がることを目指している。

『BAM』の観客、プログラム企画者のリピーター率はいずれも48%となり、目標とした水準(50%前後)を維持した。また、2016年度よりスタートした『in BEPPU』のリピーター率は27%となり、目標(10%)を大きく上回った。『in BEPPU』が別府の新たな魅力として定着していくことが期待される。なお、この指標については次年度以降の目標の上方修正が必要である。

(3) 集客交流人口の多様化

この項目では、従来の中高年男性客だけではなく、温泉を第一の目的としない観光客が増加することを目指している。

『in BEPPU』に来場した女性観客の比率は66%と前年(64%)並みであったが、30代以下の観客は42%と前年(63%)に比べて低い結果となった。『目 In Beppu』が別府市役所を会場に予約ツアー方式を採用したのに対して、『西野 達 in 別府』では『油屋ホテル』※3)がJR別府駅前という人通りの多い場所につくられ、会期中自由に出入りできたことから、来場者の年齢層の幅が広がったといえる。なお、アンケート上は主に中高年齢層へ幅が広がったが、会場スタッフの実感としては、10代以下の若年層の来場も多かったという(世代の傾向として、アンケートに答えたがらない人が多く、集計結果に十分反映されていない)。

また、来場者アンケートに今回、「別府は温泉観光地だけではなくアートの町でもある」というイメージを持っているかという設問を加えた。その結果、『in BEPPU』来場者の68%、『BAM』来場者の67%が、別府をアートの町として認知していることがわかった。そのイメージを抱いた時期を質問したところ、『in BEPPU』、『BAM』ともにBEPPU PROJECTが創設された2005年以降が圧倒的に多くを占めた。中でも「2010～14年」という回答が最多で、それに次ぐのが「2015年以降」であった。2010年は市民文化祭『BAM』がスタートした年であり、2012年には2回目の混浴温泉世界が開催されている。この時期における継続的な取り組みが、アートの町・別府というイメージの形成に寄与したと推察される。

ただし、このアンケートは実行委員会事業を体験した来場者が対象なので、数字が高く出がちな点には留意すべきである。本来は、無作為抽出の市民アンケートや、観光客全般を対象としたアンケートが望ましいが、現時点では実施が困難なため、来場者アンケートで代替したものである。

しかしここで、アンケートの分析に一工夫を凝らしてみた。『in BEPPU』来場者アンケートに回答した825人のうち、『西野 達 in 別府』の存在を知らず偶然訪れたと答えた人が127人(うち市外在住95人、市内在住31人、無記入1人)いる。別府市外在住者なら温泉を目的に訪れた観光客、市内在住者ならJR別府駅に用事のあった市民などが想定されよう。彼らのみを対象に、別府がアートの町というイメージを持つ人の比率を算出すると24%(うち市外29%、市内

21%)という結果になった。標本数が少ないという問題はあるが、『西野 達 in 別府』を意識していなかった観光客や市民でも、その2〜3割程度は別府をアートの町として認めている可能性があるといえる。

(4) 他地域との連携による滞留時間の増加

この項目では、アートとともに地域体験を楽しみ、他地域にも足を延ばすことで2泊以上の滞在を目指している。

『in BEPPU』観客のうち、2泊以上の宿泊客の比率(2泊以上宿泊客／総宿泊客)をみると、39%(前年42%)にとどまった。ただし、来場者全体に占める宿泊客の比率(40%→51%)、総宿泊客に占める3泊以上宿泊客の比率(10%→18%)は上昇したため、平均宿泊日数(日帰り客を分母に含む)は前年の0.6日から0.8日に延びている。

(5) 創造的人材の移住促進

この項目では、クリエイターなどのニーズに合わせた情報発信を通じて、移住者が増加することを目指している。実行委員会としての移住促進事業やBEPPU PROJECTの他の事業を通じて、2016年度以降に別府市内に移住・定住した人数は累計3人となり、目標(2人)をクリアした。

7. 教訓と提言

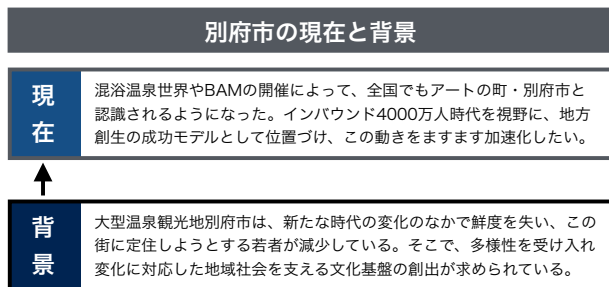
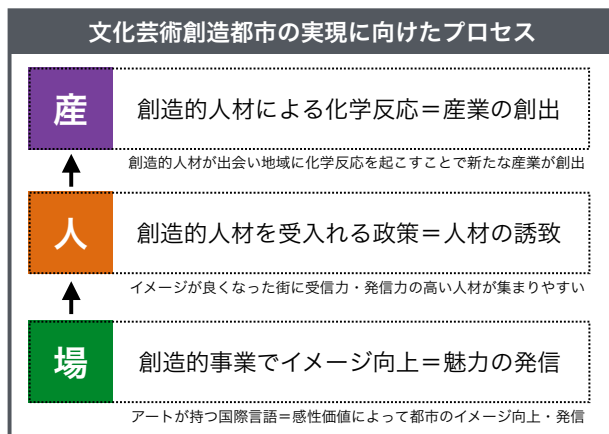
別府市役所を会場に予約ツアー方式を採った『目 In Beppu』と、市街地のオープンスペースに展開した『西野 達 in 別府』とでは、市民や観客との接点のつくり方が全く異なった。まちなかを歩くと自然と作品に遭遇する後者の方が、接点づくりは容易であったといえる。なかでも『油屋ホテル』は油屋熊八をテーマとしたため、地域の企業や旅館、商店、団体と連携することもできた。とはいえ『in BEPPU』の本質は、別府にフォーカスするエッジの効いたプロジェクトを1組のアーティストに委ねるところにある。毎回の展示会場を固定してしまつては、アーティストの発想は制約され、作品は貧困なものとなるだろう。実行委員会事務局には、アーティストに対してはその自由で多様なアイデアの発露をサポートしつつ、彼らやその作品と、市民や観客との接点を具体的にづくりこんでいく取り組みが求められる。

『混浴温泉世界』はトリエンナーレ方式(3年に1度開催)を採用しており、『BAM』のみを開催する年と、『混浴温泉世界』との併催になる年とで、評価すべき項目・内容が大きく変わった。一方、『in BEPPU』は『BAM』の目玉事業として毎年開催される。このため評価者は当初、毎年度の実行委員会事業の評価項目・内容がある程度、統一できると想定していた。しかし実際には、『in BEPPU』は個展形式の芸術祭ゆえ、アーティストの作品プランによって事業の内容・構造が大きく変化することを2回経験しただけで十分に認識することができた。このため、実行委員会事業のBSCについては、全体的なビジョンこそ不変としても、それぞれの視点における目指すべき具体的な姿や、その達成度を測定するKPI(指標自体や目標値の適否など)については、『in BEPPU』の具体的内容や、実行委員会事業を取り巻く環境の変化を踏まえて柔軟に見直していく姿勢が求められよう。

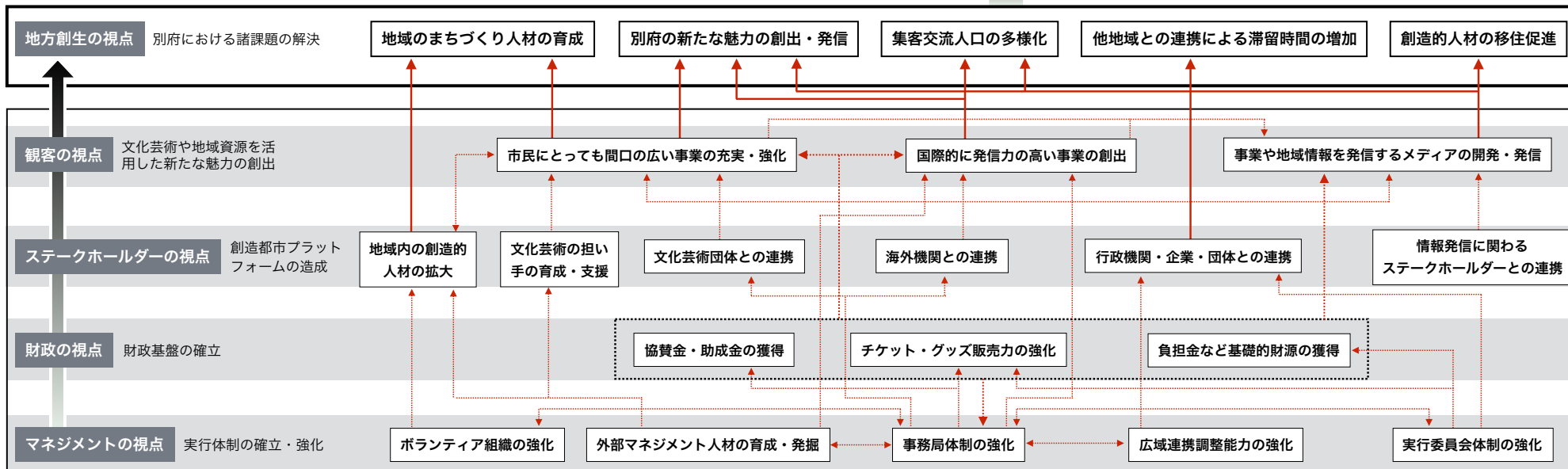
※1) 発展的評価の概要については後述。また、詳細については『平成29年度アーツ・コンソーシアム大分構築計画実績報告書』(<http://www.pref.oita.jp/soshiki/10940/artconsortium1.html>) 第3章を参照。

※2) 『別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会 平成28年度 事業報告書』(<http://www.bepupproject.com/press>) 第8章を参照。

※3) 『西野 達 in 別府』のうち、スタッフが常駐する会場は『油屋ホテル』のみで、その他は無人の会場であったため、『in BEPPU』の来場者アンケートのほとんどは『油屋ホテル』で回収された。



【戦略マップ】



別府モデルを全国に広げる

・記録集や報告書などで発信
・自治体や関係者からの発信

地方創生の成功モデルとして全国に発信

別府モデルを大分県全域に広げる

国文祭に合わせ仕組みを県下全域に移植

“アート × 地域”を持続的に推進する組織造成

領域：国民文化祭おいた2018 市町村実行委員会事業
テーマ：カルチャーツーリズム

内容：従来の各文化に携わるアマチュア愛好家の発表の場としてだけでなく、大分県を5つの文化圏にゾーニング、それぞれに与えたゾーンテーマを元に、地域性を活かした文化事業(リーディングプロジェクト)を各市町村が新規に造成。それとともに他の文化事業や地域体験および食体験を同時に紹介し、地域の魅力発信事業として位置付ける。 ※山出が全体アドバイザーとして関与

条件：①教育委員会だけではなく、関係する市長部局(文化・商工・観光など)も含む組織体制の構築
②各市町村ごとの魅力の開発とともに、ゾーンを同一とする他の地域と連携を図り、広域的な魅力の開発・発信
③ゾーン「出会いの場」(別府市・大分市・由布市)が集客の核となり、着地型観光と同様の考え方で県内各地に誘客する

ビジョン：「観光地型・文化芸術創造都市としての別府」

全国的な観光地であり、戦災を免れ外国人が多い地域性を活かした多様な文化の取り組みと、地域資源を融合させた事業によって、新たな魅力の造成と市民意識の醸成を図るとともに、携わる人材が生き生きと活躍し続ける、市民中心都市・別府の実現を目指す。

【芸術振興】優れた作品の鑑賞機会充実と若手作家の応援

・別府ならではの手法を開発し、この場でしか体験できない作品を紹介
・次代を担う若手作家を発掘し応援するための企画を実践する

【人材育成】多様な事業の現場を学びの場として活用

・事業を推進する人材を育成。今後のまちづくり従事者として成長
・多様な価値を広く紹介することで青少年の健全育成につなげる

【観光推進】観光地別府の新たな魅力発信事業として活用

・アートという国際的な共通語＝感覚的な価値によって全国に魅力を発信
・新たな魅力発信によって若年層女性客など交流人口の“多様化”を目指す

【地域活性】文化芸術を地域活性化の核として活用

・空き家を整備しクリエイターのニーズに合わせた移住促進を図る
・様々な活動を通して地域経済の活性化や新規産業創出に寄与する

視 点	戦略目的	目指すべき具体的な姿	No.	業績評価指標	成長 ルート	定量/ 定性評 価	指標の 性格	単 位	現 状 (特記ない場合2016年 度現在)	2017年度 目標	2017年度 実績	2018年度 目 標	備 考
マネジメントの視点：実行体制の確立・強化	事務局体制の強化		1	情報システムにおけるアーカイブの検索性を高め、情報共有を進める	B	定性	イン プット	-	事業によって共有の手段・状況に違いがある	進行管理ソフト導入 済の活用の際まで	本年度は進行管理ソフトで各事業担当者が進捗表を作成した。しかし、ガントチャートの項目の精度の細かさや個人差が出たり、事業後半の往復時には更新が手付かずになる等の状況が見られた。また、情報共有の精度にもスタッフによってばらつきがある。進行管理・情報共有の精度についてともに改善が必要である。	グループウェア(含むナレッジベース)の導入の検討(可能であれば導入)	現在できていないことの原因が、システムがないせいなのか、時間がないせいなのか(後者の場合、システム導入によって時費が生まれるか)を問い、システム導入の費用対効果を十分考えたうえで、導入是非を判断する
		情報システム・インフラの整備が進み、情報が常に共有され、誰が従事しても安定した質の業務遂行が図られる	2	事業推進マニュアル・組織図の作成による作業の標準化と指示系統の明確化(企画提案や、決定までのプロセスの明確化)	B	定性	イン プット	-	なし	組織図作成済 標準化を図る業務の 範囲の決定	本年度よりプロジェクトの種類によって担当班を二つに分けた。各班ごとに会議を持ち、指示系統を明確にした。	現行の内部ルールを整理指示系統のルール化	人・時間のリソースは有限であることを認識し、いかに効率的にタスクをこなせるかを検討することが重要。そのために、ルーティンワークと創造的ワークを分け、前者をマニュアル化し、自動化していくことで、後者に配分するリソースを確保すべき
			3	雛形書類の作成と活用を段階的に体系化する	B	定性	イン プット	-	書類が事業ごとにバラバラに保管されており、汎用的な書式が体系的に保管されていない		アートプロジェクト班では制作物・提出物作成において決済回書を班内でまですす新ルールが設けられた。内容の質の向上と、班内でのチェック能力の向上に作用するが、ルールがまだ徹底されておらず、チェック精度もスタッフによってばらつきがあるので、より一層の改善が必要である。	日常業務を通じて徐々に雛形書類を作成	4月以降、社内講座を予定
		大規模な事業を実施できる組織の体制に成長する	4	大規模事業の統括が担えるリーダーの育成	B	定量	イン プット	人	0	1	2	1	2016年は通常業務の延長として従事
			5	助成金の申請書を作成できるスタッフの比率	B	定量	イン プット	% (構成比)	0	20		40	企画をゼロベースから立案する能力を求めているわけではない 他人が構想した企画案を、申請書のレベルに落とし込む能力を、全スタッフが身につけることを目指す
			6	スタッフが自らを成長させるための機会提供・仕組みづくり	B	定性	イン プット	-	各自の自由意志	研修制度の導入を検討	次年度内部研修制度を導入	研修制度の導入	事務局が求める人材・能力と、スタッフが目指すそれとのすり合わせが重要 自身が伸ばすべき能力を各スタッフが考え、代表との個人面談を経て、各自の研修計画を策定する
		スタッフ全員が心身ともに健康に働く	7	勤労意欲の向上、労働環境の改善	B	定性	イン プット	-	従業員満足度 (Employee Satisfaction＝ES)は未計測	ES調査の手法を検討	ESの是非も含め検討中	ES調査の導入	
	実行委員会体制の強化	参画するそれぞれの組織へ事業内容が浸透し、事務局スタッフだけではリーチしにくい事業内容を実行委員が関わり進めていく	8	各組織内における実行委員会事業の情報共有・広報活動の強化	A	定性	イン プット	-	組織によって濃淡にムラがある	情報共有を密にする	実行委員会開催以外には、事業の進捗報告を一斉メールで送るなどしている。次年度は部会を作るなどして、より一層の情報共有を図る	情報共有を密にする	
			9	部会を編成し、業務内容ごとに関係する各委員が積極的に関わる	A	定性	イン プット	-	現状なし(過去には存在)	部会編成の検討	次年度より検討	部会の設置	
	広域連携調整能力の強化	県内他地域の行政・アート組織と強い信頼関係が生まれる	10	各組織との事務局スタッフのネットワーク構築・調整能力の向上、直接的な業務での関係強化	A	定性	イン プット	-	代表および担当職員 のみの関係性	関係性・調整能力の強化	行政に関しては、他事業で関係した方に実行委員会事業の案内を行った。アート組織に関しては、大分県主催のアートマネジメント講座などを通して、相互交流を行い関係性を築くことができた。	関係性・調整能力の強化	チラシ設置、ポスター貼りへの協力など具体的なエビデンスを定性評価
		全国の行政・アート組織とのネットワークおよび調整能力が向上する	11	各組織との事務局スタッフのネットワーク構築・調整能力の向上、直接的な業務での関係強化	B	定性	イン プット	-	代表および担当職員 のみの関係性	関係性・調整能力の強化	他エリアの講座にスタッフが参加し広報するなど、相互交流の機会が生まれた。	関係性・調整能力の強化	全国各地の芸術祭、アートプロジェクトへの参加などを通じて関係強化を図る
	外部マネジメント人材の育成・発掘	簡易な制作業務を委託できる人材が県内に複数生まれる	12	県内アーティスト・クリエイターが関わる現場の造成を通して、彼らを育成	B	定量	イン プット	人	1	2	2	3	当該年度に仕事を依頼した実績件数ではなく、強いネットワークを持つ人の数 狭義の現場設置作業に限らず、制作業務全般が対象
		設置計画を立てることができる制作のプロフェッショナル人材とのネットワークが構築される	13	専門家の調査・ネットワーク構築・定期的な仕事の提供	A	定量	イン プット	人	4	5	5	6	当該年度に仕事を依頼した実績件数ではなく、強いネットワークを持つ人の数
		プロジェクトを推進できるマネジメント人材との密なネットワークが構築される	14	マネジメント人材の調査・ネットワーク構築・定期的な仕事の提供	A	定量	イン プット	人	5	5	5	6	当該年度に仕事を依頼した実績件数ではなく、強いネットワークを持つ人の数
		外国語対応が可能な企画・制作補助スタッフが複数生まれる	15	県内のマネジメント人材(留学生含む)の調査・仕事の提供を通し育成	B	定量	イン プット	人	1	2	2	3	当該年度に仕事を依頼した実績件数ではなく、強いネットワークを持つ人の数
		記録・広報のためのコンテンツを制作する人材との密なネットワークが構築される	16	専門家(Web制作者、ライター、カメラマン、映像制作者、翻訳者)の調査・ネットワーク構築・定期的な仕事の提供	B	定量	イン プット	人	17	20	23	25	当該年度に仕事を依頼した実績件数ではなく、強いネットワークを持つ人の数
	ボランティア組織の強化	ボランティア活動にやりがいを感じながら参加する	17	ボランティアが参加しやすい仕組みづくりや環境改善	A	定性	イン プット	-	なし(事務局内部のシフト管理表のみ)	クラウドベースのシフト管理表への移行	クラウドベースの参加管理ソフト、シフト管理ソフトを導入したが、上手く活用されなかった(そもそもボランティアの参加数自体が少なかった)	活用・プラットフォーム シェアアップ	
			18	in BEPPUを中心とする実行委員会事業を円滑に運営するための実働ボランティアの人数の確保	B	定性	イン プット	-	目 In Beppuツアードを中心に実働15名	西野 達 in 別府会場スタッフは主にアルバイトで対応予定	主にアルバイトで対応		円滑な運営に要する実働ボランティアの確保
			19	イベント時だけでなく、日常的な作業にも積極的に参加	B	定量	イン プット	人	5	6	5	7	
財政の視点：財政基盤の確立	協賛金・助成金の獲得	県内企業と信頼関係が構築され、協賛・助成を得ることができる	20	10万円以上の大口協賛・助成金の企業の増加(協賛・助成金合計額)	E	定量	イン プット	万円	427	720	754	750	
			21	新規営業件数	A	定量	イン プット	社	0	3	4	4	既往協賛企業(協賛実績が2年前以前)への再度のトライも件数に含める
		全国企業と信頼関係が構築され、協賛・助成を得ることができる	22	メセナ活動に興味を持つ企業への協賛・助成金営業活動(目標＝1社あたり50万円以上)	E	定量	イン プット	社	3	5	4(横保ジャパン、資生堂、ANA、アサヒビール)	7	2016年は資生堂、ANA、アサヒビール
		個人が事業に共感し寄付する	23	寄付窓口の開設とインセンティブの達成、継続的な運営を通じた寄付金の獲得	B	定量	イン プット	% (前年比)	なし	寄付窓口開設の検討	次年度の必要性も含めて検討。その検討結果を踏まえて次年度数字を記載する。	必要性も含めて検討	現状、BEPPU PROJECTには賛助会員制度があるが、実行委員会にはない
	チケット・グッズ販売力の強化	チケット販売が行われる場合に基礎的なチケット販売数がクリアされる	24	実行委員会参加組織内や関係団体での販売力強化	C	定性	イン プット	-	チケット販売なし	チケット販売なし	チケット販売なし		実行委員会の現実的な目標設定 組織によって関わり方が様々である(～2015年)
		グッズが収益源になる	25	グッズ販売額	E	定量	イン プット	万円	グッズ販売なし	300	114	200	
		チケットを買いいたいと思える仕組みが生まれる	26	チケット販売に備えた仕組みの検討	E	定性	イン プット	-	チケット販売なし	チケット販売なし	チケット販売なし		導入
	負担金など基礎的財源の獲得	適切な予算の確保	27	2020年までの適切な予算の確保	E	定性	イン プット	-	予算確保	予算確保	予算確保		予算確保

視 点	戦略目的	目指すべき具体的な姿	No.	業績評価指標	成長 ルート	定量/ 定性評 価	指標の 性格	単 位	現 状 (特記ない場合2016年 度現在)	2017年度 目標	2017年度 実績	2018年度 目 標	備 考
ス テ ー ク ホ ー ル ダ ー の 観 点 創 造 都 市 プ ラ ツ ト フ ォ ー ム の 造 成	地域内の創 造の 人材の 拡大	アーティストや愛好家だけではなく、一般 市民も文化活動に携わる	28	清島アパートの継続運営による若手アーテ ィストの支援 (清島アパート入居率)	D	定量	アウト プット	% (構 成比)	100	113	88	100	2010年より継続運営。8組定員だが2017 年は例外的に9組入居
			29	ベップ・アート・マンズの登録プログラムの質の 向上に向けた、プログラム企画者へのアドバ イスの効率的・体系的実施	B	定性	アウト プット	-	なし	章立て完成	安全管理マニュアルの作成を行った。	活用・ブラ ッシュアップ	顧客満足度の高い事業やその発効・改善 方法をインタビュアーなどを交え紹介し、 ベップ・アート・マンズ担当スタッフ交代時 の引継書としても活用できるよう目指す。
			30	運営者育成に向けた、ベップ・アート・マンズを つくる会の継続実施	D	定量	アウト プット	回	12	12	18	12	
			31	運営者育成に向けた、ベップ・アート・マンズを つくる会への参加率の向上 (つくる会参加 団体数/総団体数)	B	定量	直接ア ウトカ ム	% (構 成比)	27	30	30	33	参加者が自発的に交流し、意欲や企画を 高め合う場として、ベップ・アート・マンズを つくる会がある。これこそが創造的人材 の拡大につながるため、最終的には参加 率100%を目指したい。
			32	プログラム企画者による、ベップ・アート・マン ズという取り組みへの満足度	D	定量	直接ア ウトカ ム	% (構 成比)	98	90超	96	90超	現状並の高い満足度を維持
			33	プログラム企画者による、ベップ・アート・マン ズに登録してよかったかの満足度	D	定量	直接ア ウトカ ム	% (構 成比)	93	90超	94	90超	現状並の高い満足度を維持
			34	次回もベップ・アート・マンズに登録したいと答 えたプログラム企画者の比率	D	定量	直接ア ウトカ ム	% (構 成比)	92	90超	95	90超	現状並の高い比率を維持
			35	サービスや業務の質の向上によるベップ・ アート・マンズの継続登録団体の増加 (前回参 加した団体のうち、今回リピーター参加した団 体数)	B	定量	直接ア ウトカ ム	団体	45	48	48	51	
			36	参加したいと思うような営業活動によるベッ プ・アート・マンズ新規登録者の増加 (新規登 録団体数)	B	定量	直接ア ウトカ ム	団体	40	44	45	48	新規参加者と継続参加者がバランスのと れた状態で増加することが望ましい
	文化芸術の 抱い手の育 成・支援	若手アーティストの発表の場をつくる	37	若手アーティストが発表する企画の実施	B	定性	直接ア ウトカ ム	-	KASHIMAにて二組の国内アーティストを海 外に派遣。また、海外 アーティストを二組別府に招へいし発表を行 った。	二組以上の若手アー ティストの活躍の場を 設ける。	KASHIMAにて二組の国内アーティストを海外に派遣。ま た、海外アーティストを二組別府に招へいし発表を行 った。	国内・海外若 手アーティスト 計二組に別府 での滞在制作 の機会と、発 表の場を設け る。	別府市外の人材であっても、芸術文化の 抱い手を育成・支援していくことは、実行 委員会事業のビジョン実現に不可欠
			38	県内外で広域的にアートマネジメント人材 が成長する	B	定性	直接ア ウトカ ム	-	アートマネジメント講 座・入門編の開催	アートマネジメント講 座・入門編&実践編の 開催	アートマネジメント講座・入門編&実践編の開催	アートマネジ メント講座の開 催や、研修等 受け入れを後 計	同上 アートマネジメント講座や、インターン受け 入れなど多様な育成支援を想定
	文化芸術団 体との連携	県内の既存芸術文化団体・施設との協力 体制が構築される	39	既存文化芸術団体(芸術の加盟団体など)や 文化施設との関係性強化 (ベップ・アート・マン ズ登録呼びかけ、in BEPPU周知など)	A	定性	アウト プット	-	なし	なし	今までやりとりのなかった市内の文化施設との連携を 行った。	さらに新しい 文化施設との 関係を作る	
	海外機関との 連携	海外関係者との交流が進み、別府が日本 におけるアートの先進地と評価される	40	海外の芸術文化関係者(文化機関、アーテ ィスト、コーディネーター、要人、メディアなど)と のネットワーク構築活動	B	定性	アウト プット	-	バンパーカーテンスタ ジオ、チェジュアート フェアを視察	ベネチア・ビエンナー レ、ドクメンタ、ミونس ター彫刻プロジェクト の視察	ベネチア・ビエンナー レ、ドクメンタ、ミونس ター彫刻プロジェクト の視察	海外団体へア ーティストをお こごない、視察 を積極的に受 け入れる。	ネットワーク構築のために行った具体的な アクションや成果などを定性評価
	行政機関・企 業・団体との 連携	自治体における文化芸術の必要性が向 上し、果たす役割が担当課以外にも拡大 される	41	大分県、別府市などにおける芸術文化担当課 以外との連携活動	A	定性	アウト プット	-	in BEPPU実現のため、別府市各課と連 携、クリエイティブ産業 振興と障がい者ア ーティストに際して県各課と連 携	クリエイティブ産業振 興と障がい者ア ーティストに際して県各課と連 携	大分県 ・クリエイティブ産業振興事業>県農工労働部 ・福祉・障がい者芸術関連事業>国民文化祭・障害者芸術 文化祭局 別府市 ・今年度inBEPPU事業>建築指導課、温泉課、秘書広 報課 ・次年度inBEPPU事業>公園緑地課 ・4B事業>市役所内プロジェクトチーム	継続して関係 を築く	
			42	大分県内・別府市内の経済団体や企業・旅 館・店舗などへの理解促進につながる情報提 供や交流(周知活動)	E	定性	アウト プット	-	大分県クリエイティブ プラットフォーム構築 事業の受託などを通じて、県内企業とのつな がりをもちつづけること ができた。	県内企業の繋がりを 強化	別府市4B事業や、大分県クリエイティブプラットフォーム 構築事業などを通じて、県内企業との繋がりが強化さ れた。これを来年度以降の当委員会事業の理解促進や 周知活動につなげる。	さらなる県内 企業との関係 構築。	
		各種団体における文化芸術の理解が進 み、それぞれが創造的な連携を行う下地 がつけられる	43	自治会、通い会、NPOなどの地域組織や大学 などの教育機関の理解促進につながる情報 交換・交流	B	定性	アウト プット	-	特に実施できなかった。	各種団体に向けた説 明会などの実施。	自治会 ・自治会長集会(年4回開催)で西野 達 in 別府とベップ・ アート・マンズの事業PRを行った。(本年初) 通い会 ・西野 達 in 別府に関して中心市街地の通い会に挨拶回 りを行った。 教育機関 ・大分県立芸術短期大学ではボランティア活動について の講義を行った。 ・清原学園短期大学では学生向けに西野 達 in 別府作 品案内ツアーを行った。 ほか ・作品制作にあたって重要な地域のステークホルダー向 けに事業説明会を2度開催した。	事業実施直 前ではなく、 段階的に情報 提供の場を作 る。4月に計画 を作成し進め る。	2016年は事業毎に必要に応じて実施
			44	ベップ・アート・マンズ以外の期間を含む記者 (地元メディア、大手メディア地元支局、県外 のアート専門メディアなど)との日常的・系統 的な連携	A	定性	アウト プット	-	随時情報提供を行っ ている。	新しいメディアとの 関係をつくる。	今年度は掲載・放送に至らなかったが、新規のメディア に営業活動を行い、次年度に向けた関係を構築できた。	関係を持って いるメディアと の連携は従っ て、新規メ ディアを開拓 し営業。	
	情報発信に 関わるステ ークホルダ ーとの連携	メディアなど情報発信に関わる人材との付 き合いが日常的にできている。in BEPPU などを広報する際により一層報道してもら える体制が整っている	45	メディア掲載件数の増加	E	定量	アウト プット	件	111	150	187	230	

視 点	戦略目的	目指すべき具体的な姿	No.	業績評価指標	成長 ルート	定量/ 定性評価	指標の 性格	単 位	現 状 (特記ない場合2016年 度現在)	2017年度 目標	2017年度 実績	2018年度 目標	備 考
観客の視点 文化芸術や 地域資源を 活用した新 たな魅力の 創出	市民にとつ ても関口の広い 事業の充実・ 強化	ベップ・アート・マンスが、鑑賞者にとって 参加しやすく、体験してよかったと思える 事業に成長する	46	in BEPPUに市民が関わるができる範囲の 拡大	B	定性	直接ア ウトカ ム	-	市民参加はボランティア ガイドなど限定的 だったが、会場となっ た市役所議員の交通 協力などの大きな成 果もあった	市民の関わりしが拡 大	地域の企業や旅館、商店、団体と連携して事業を進める ことができた。また、市内のまちあるき団体には、事業に あわせて新しいまちあるきを考案し、実施していただい た。	市民が関わり やすい仕組み 作りの検討と 実施。	市民の関わりし が拡大したことがわかる 具体的な地域連携のエピソードを記載し て定性評価(ただし、選定されたアーティ ストや作品によつては、必ずしも直線的に 拡大しない場合もある)
			47	ベップ・アート・マンスの魅力向上を目指した、 in BEPPU以外の自主プログラムの達成(年間の 該当プログラム件数)	D	定量	アウト プット	件	1	1	0	1	混浴温泉世界2015のお化け屋敷やダンス ツアーをイメージ 2018年はBEPPU PROJECTの主催事業 KASHIMA2016を計上
			48	ベップ・アート・マンス観客満足度(除kin BEPPU)	D	定量	直接ア ウトカ ム	%(構 成比)	97	95前後	91	95前後	現状並の高い満足度を維持
			49	プログラム企画者の設定した観客数目標の達 成(in BEPPUを除くベップ・アート・マンスの観 客数目標達成率)	D	定量	直接ア ウトカ ム	%(達 成率)	100	100	101	100	達成率は、各プログラムの加重平均では なく、単純平均で計算(集客規模の大小で 登録企画の価値を判断すべきではないた め)
			50	注目されるアーティストをin BEPPUに招くため の早期の調査・交渉の実施(キュレーションの 精度を高めるための予備的調査を含む)	A	定性	アウト プット	-	混浴温泉世界のin BEPPUへの見直しに 時日を要し、調査・交 渉の予算・時間確保不 十分	次年度以降の招聘 アーティストとの交渉 開始	次年度以降のアーティストの調査と交渉を行った。	次年度以降 の招聘アー ティストとの交 渉開始	
	国際的に発 信力の高い 事業の創出	in BEPPUが、国際的に評価の高いアート プロジェクトとして位置づけられる	51	in BEPPU観客満足度	A	定量	直接ア ウトカ ム	%(構 成比)	73	80	95	80	
			52	in BEPPU観客数目標達成率	A	定量	直接ア ウトカ ム	%(達 成率)	75	100	120	100	
	事業や地域 情報発信す るメディアの 開発・発信	ベップ・アート・マンス、in BEPPUの鑑賞者 にとって旅手帖beppuが、別府における最も 充実したポータルサイトとして認知され るようになる	53	紹介店舗数の増加(累計)	D	定量	アウト プット	店舗	86	86	116	126	
			54	特集記事の定期的更新を通したコンテンツの 充実(累計)	B	定量	アウト プット	件	1	9	2	5	
			55	みんなの旅手帖の充実(投稿件数累計)	B	定量	直接ア ウトカ ム	件	4	15	4	14	みんなの旅手帖投稿数は累計ベースで 把握
			56	旅手帖beppuの多言語化(旅手帖beppuの英 語化率)	A	定量	アウト プット	%(構 成比)	0	0	0(システム構築のみ今年度行う)	90	2019年のラグビーワールドカップまでに全 記事が日本語・英語で読めるようにする
			57	互知識beppuの充実および活用	A	定性	アウト プット	-	事務局が運営	2020年の外館運営委 託を目標に連携先を 探す	APUの授業で活用してもらった。	2020年の外 館運営委託を 目標に連携先 を探し相対す る	
			58	旅手帖beppuビュー数の増加	E	定量	直接ア ウトカ ム	千件/ 年	72	79	53	100	
			59	メディア露出広告換算合計額の増加	E	定量	直接ア ウトカ ム	百万円	85	93	120	150	1件1億円以上のフロックは除いた。ペー スとなるメディア露出を目標値に設定2019 年は2018年(国民文化祭)しるの維持を 目指す
			60	ベップ・アート・マンス(除kin BEPPU) 観客のう ち次回企画者側で参加したいと思った人の 比率の維持	D	定量	中間ア ウトカ ム	%(構 成比)	38	40前後	34	40前後	
	地域のもちつ くり人材の育 成	文化活動を行う人材が主体的にまちづくりに 参画する	61	ベップ・アート・ナビに登録される文化イベ ントの年間件数の増加	B	定量	中間ア ウトカ ム	件	調査実績なし	実績調査、目標設定	来年度より稼働	実績測定	
			62	ベップ・アート・マンス登録者のうち、最近1年 間で地域活動に参画した人の比率の増加	B	定量	最終ア ウトカ ム	%(構 成比)	調査実績なし	実績調査、目標設定	49	実績測定	文化活動だけでなく、多様な地域活動、 市民活動を含む
			63	ベップ・アート・マンスの充実により、別府 の秋の恒例行事として位置づけられる	D	定量	中間ア ウトカ ム	%(構 成比)	51	50前後	48	50前後	現状程度の新陳代謝は望ましいレベルと 判断
		ベップ・アート・マンスの充実により、別府 の秋の恒例行事として位置づけられる	64	ベップ・アート・マンス プログラム企画者のリ ピーター率の維持	D	定量	中間ア ウトカ ム	%(構 成比)	54	50前後	48	50前後	現状程度の新陳代謝は望ましいレベルと 判断
			65	in BEPPU観客のリピーター率の向上	B	定量	中間ア ウトカ ム	%(構 成比)	なし	10	27	20	混浴温泉世界への参加経験は除いて、in BEPPUのみのリピーター率を算出
			66	女性個人客の開拓(in BEPPU女性観客の比 率)	D	定量	中間ア ウトカ ム	%(構 成比)	84	70前後	66	70前後	
			67	若年層個人客の開拓(in BEPPU30代以下観 客の比率)	D	定量	中間ア ウトカ ム	%(構 成比)	83	70前後	42	70前後	
		従来の中高年男性客だけではなく、温泉 を第一の目的としない観光客が増加する	68	「別府は温泉観光地だけではなくアートの街で もある」という認知が進む(in BEPPU観客にお ける比率)	B	定量	最終ア ウトカ ム	%(構 成比)	調査実績なし	実績調査、目標設定	68	70	ベップ・アート・マンス来場者はもともと アートへの関心が高いと推察されるため、 本来なら一般観光客に質問したいところ だが、そうした調査は別府市の協力が不 可欠なため、当初は来場者アンケートで 代用
			69	「別府は温泉観光地だけではなくアートの街で もある」という認知が進む(ベップ・アート・マ ンス(除kin BEPPU) 観客における比率)	B	定量	最終ア ウトカ ム	%(構 成比)	調査実績なし	実績調査、目標設定	67	66	- - -
そのほか、別府市における課題の解決	他地域との連 携による滞在 時間の増加	アートとともに地域体験を楽しむ、他地域 にも足を延ばすことで2泊以上の滞在を 目指す	70	in BEPPU観客のうち2泊以上の宿泊客の比率 (2泊以上宿泊客/総宿泊客)の増加	E	定量	最終ア ウトカ ム	%(構 成比)	42	46	39	55	2020年には、混浴温泉世界2015並の比 率(69%)を目指す想定(2015は夕刻から 夜間にかけてツアー方式採用により2泊 以上宿泊客の新客が増えたとおり、この水 準を目指すのは相当野心的な目標設定 である点には留意)
	創造的人材 の移住促進	クリエイターなどのニーズに合わせた情報 発信を通じて、移住者が増加している	71	移住促進事業やBEPPU PROJECTの他の事 業を通じて別府市内に移住・定住した人数(累 計)	C	定量	最終ア ウトカ ム	人	0	2	3	6	

【凡例】成長ルート(2020年の目標達成に向けて評価指標がたどるべき成長ルート)

類型A: 期間前半に急ピッチで進展、類型B: 期間中、直線的に進展、類型C: 期間後半に急ピッチで進展、類型D: 2020年まで現状水準を維持、類型E: 2018年(国民文化祭)、2020年(東京五輪)に重点化

[お問合せ]

混浴温泉世界実行委員会 事務局〈NPO法人 BEPPU PROJECT内〉

〒874-0933 大分県別府市野口元町2-35 菅建材ビル2階

TEL : 0977-22-3560 FAX : 0977-75-7012 E-MAIL : info@inbeppu.com

営業日 : 月～金 9:00～18:00